



もっと知ったパソコン

パソコンの機能や設定など
もっと知りたいあなたに、この二冊！
アプリケーション周辺機器の接続を詳しく解説！
アプリケーションの追加と削除の方法を説明！

マニュアルを活用しよう

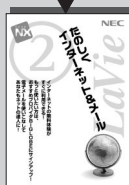
このパソコンには次のマニュアルが用意されています。

『まずこれ!はじめにお読みください』でセットアップを終了したら、目的に応じて次のマニュアルを活用してください。



『まずこれ!はじめにお読みください』

すぐにインターネットやメールを始めたい!



『たのしくインターネット&メール』

- ・インターネットに接続する
- ・BIGLOBEに入会する
- ・メールの送受信をする
- ・外出先でインターネット&メールする

パソコン初心者なので、基本的なことから覚えたい!



『はじめてのパソコン』

- ・Windowsの基本操作を覚える
- ・パソコンを使う上で覚えておきたいこと
- ・文字の入力のしかた
- ・添付のアプリケーションの紹介

このパソコンの機能をもっと使いこなしたい!

『もっと知りたいパソコン』

- ・パソコンの機能を詳しく知る
- ・周辺機器を接続する
- ・アプリケーションを追加／削除する
- ・パソコンのメンテナンスをする
- ・BIOSの設定を変更する



困ったなあ、どうしたらいいのかな?



『困ったときのQ&A』

- ・トラブルを解決する
- ・パソコンを再セットアップする
- ・知りたいことが、どのマニュアルに載っているかを調べる(全マニュアル用総索引)

知りたいことを画面上で調べてみよう



『サポートセンタ』(電子マニュアル)

- ・添付のアプリケーションを使う
- ・トラブルを解決する
- ・アプリケーションを追加／削除する
- ・サービス&サポート窓口紹介

※巻末に簡単な操作方法が載っています。

はじめに

このマニュアルは、パソコンの機能全般についての取扱説明書です。各機能について詳しく知りたいときや周辺機器を接続したいとき、パソコンの設定を変更したいときなど、必要に応じて活用してください。

2000年1月 初版

表記について

記号

◆パソコンを安全にお使いいただくための注意事項を次のように記載しています。

 警告	注意事項を守っていただけない場合、人が死亡または重傷を負う可能性が想定されることを示します。
 注意	注意事項を守っていただけない場合、人が損害を負う可能性が想定されること、または物的損害のみの発生が想定されることを示します。
 感電注意	注意事項を守っていただけない場合、発生が想定される障害または事故の内容を表しています。左のマークは感電の可能性が想定されることを示しています。このほかに、毒物注意、破裂注意、高温注意についても、それぞれ記載しています。

◆その他の記号

 チェック	してはいけないことや、注意していただきたいことを説明しています。よく読んで注意を守ってください。場合によっては、作ったデータの消失、使用しているアプリケーションの破壊、パソコンの破損の可能性があります。
 メモ	利用の参考となる補足的な情報や、用語について説明しています。
 参照	関連する情報が書かれている所を示しています。

モデル

◆モデルの呼びかた

一太郎モデル	一太郎10・花子10パックがあらかじめインストールされているモデルのことです。
Office 2000モデル	Office 2000 Personalがあらかじめインストールされているモデルのことです。
CD-ROMモデル	CD-ROMドライブを内蔵しているモデルのことです。
CD-RWモデル	CD-RWドライブを内蔵しているモデルのことです。
ワイレスインターネットモデル	本体にワイレス通信機能を内蔵し、ワイレスモデムステーションを添付したモデルのことです。
14.1型モデル	14.1型の液晶ディスプレイを搭載しているモデルのことです。
13.3型モデル	13.3型の液晶ディスプレイを搭載しているモデルのことです。
12.1型モデル	12.1型の液晶ディスプレイを搭載しているモデルのことです。

◆対象モデル一覧

型名	表記の区分			
	添付アプリケーション	CD-ROM／CD-RW	通信機能※	ディスプレイ
LW500J/24DR LW500J/24DR9	Office 2000モデル	CD-RWモデル	—	14.1型モデル
LW500J/24CA LW500J/24CA9	一太郎モデル	CD-ROMモデル		
LW500J/24DA LW500J/24DA9	Office 2000モデル			
LW450J/24DW LW450J/24DW9	Office 2000モデル			
LW450J/24CA LW450J/24CA9	一太郎モデル			
LW450J/24DA LW450J/24DA9	Office 2000モデル			
LW43H/23C6 LW43H/23C69	一太郎モデル		—	13.3型モデル
LW43H/23D6 LW43H/23D69	Office 2000モデル			
LW43H/22C6 LW43H/22C69	一太郎モデル			12.1型モデル
LW43H/22D6 LW43H/22D69	Office2000モデル			

※:内蔵モデム以外の通信機能

操作方法

【 】	【 】で囲んである文字は、キーボードのキーを示します。 【 】+【 】はキーを同時に押すことを表しています。
	 は、Enterキーを表しています。
「 」→「 」→「 」	「 」で囲まれた項目を順番に選択することを示します。 [例] 「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」→「メモ帳」 「スタート」ボタンをクリックし、現れたポップアップメニューから「プログラム」を選択し、横に現れるサブメニューから「アクセサリ」→「メモ帳」を順に選択することを示します。

◆APMモードとACPIモードについて

このマニュアルのPART1とPART2は、このパソコンをAPMモードで使用していることを前提に説明しています。ACPIモードを利用したい方は、PART6の「ACPIモードについて」をご覧ください。

◆コントロールパネルの開きかた

コントロールパネルは次のどちらかの方法で開くことができます。

- ・「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」
- ・「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックして、表示された「マイコンピュータ」画面の「コントロールパネル」アイコンをダブルクリックする

記載内容

- ・イラストや画面は、モデルによって異なることがあります。
- ・本文中に記載の画面は、実際の画面と多少異なることがあります。

ソフトウェアの正式名称

Windows、 Windows 98	Microsoft® Windows® 98 Second Edition Operating System 日本語版
Windows NT 4.0	Microsoft® Windows NT® Workstation Operating System Version 4.0
一太郎10パック	一太郎10・花子10パック(一太郎10、花子10、三四郎9、ATOK13)
Office 2000 Personal	Microsoft® Office 2000 Personal(Microsoft Word 2000、Microsoft Excel 2000、Microsoft Outlook® 2000、Microsoft/Shogakukan Bookshelf® Basic)
インターネット エクスプローラ	Microsoft® Internet Explorer 5
MS-IME98	Microsoft® IME98
MS-IME2000	Microsoft® IME2000
Acrobat Reader	Adobe® Acrobat™ Reader 3.0J
Angel Line	Angel Line for Windows
AOL	AOL 4.0 for Windows 95/98
DirectCD	DirectCD™ 3
Easy CD Creator	Easy CD Creator™ 4 Standard
KaraOK!	インターネットカラオケ KaraOK! for Windows
NEWEBサインアップ	NEWEBオンラインサインアップソフトウェア for Windows Ver1.0
PostPet	PostPet for Windows ver. 2.0jp
So-netサインアップ	So-netオンラインサインアップソフト
ThumbsStudio	ThumbsStudio(Ver2.0)
VirusScan	VirusScan Ver4.0.3a
@niftyで インターネット	@niftyでインターネット for Windows® Version1.10
筆王	筆王 平成12年編



当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの基準に適合していると判断します。

国際エネルギースタープログラムは、コンピュータをはじめとしたオフィス機器の省エネルギー化推進のための国際的なプログラムです。このプログラムは、エネルギー消費を効率的に抑えた製品の開発、普及の促進を目的としたもので、事業者の自主判断により参加することができる任意制度となっています。対象となる製品は、コンピュータ、ディスプレイ、プリンタ、ファクシミリおよび複写機等のオフィス機器で、それぞれの基準ならびにマーク(ロゴ)は参加各国の間で統一されています。

■ 技術基準等適合認定について

このパーソナルコンピュータは、電気通信事業法第50条第1項の規定に基づく技術基準等適合認定を受けています。申請回線と認定番号は次のとおりです。なお、専用回線等との接続は、一般のお客様には行えませんので、必ずご購入元にご相談ください。

対象機種	電話回線
LW500J、LW450J/24CA、 LW450J/24DA、LW43H	A99-1221JP
LW450J/24DW	A99-1222JP

■ 電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としています。この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

■ 漏洩電流自主規制について

この装置は、社団法人日本電子工業振興協会のパソコン業界基準(PC-11-1988)に適合しております。

■ 瞬時電圧低下について

[バッテリーパックを取り付けていない場合]

本装置は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをおすすめします。

[バッテリーパックを取り付けている場合]

本装置にバッテリーパック実装時は、社団法人日本電子工業振興協会の定めたパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインを満足しますが、ガイドラインの基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合が生じることがあります。

■ レーザ安全基準について

このパソコンには、レーザに関する安全基準(JIS-C-6802、IEC825)クラス1適合のCD-ROMドライブまたはCD-RWドライブが内蔵されています。

ご注意

- (1) 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁じられています。
- (2) 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書の内容については万全を期して作成いたしました。が、万一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気づきのことがありましたら、ご購入元、最寄りのBit-INN、またはNECパソコンインフォメーションセンターへご連絡ください。落丁、乱丁本はお取り替えいたします。ご購入元までご連絡ください。
- (4) 当社では、本装置の運用を理由とする損失、逸失利益等の請求につきましては、(3)項にかかわらずいかなる責任も負いかねますので、予めご了承ください。
- (5) 本装置は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など、人命に関わる設備や機器、および高度な信頼性を必要とする設備や機器などへの組み込みや制御等の使用は意図されておりません。これら設備や機器、制御システムなどに本装置を使用され、人身事故、財産損害などが生じて、当社はいかなる責任も負いかねます。
- (6) 海外NECでは、本製品の保守・修理対応をしておりませんので、ご承知ください。
- (7) 本機の内蔵ハードディスクにインストールされているMicrosoft® Windows® 98は本機でのみご使用ください。また、本機に添付のCD-ROM、フロッピーディスクは、本機のみでしかご利用になれません(Intellisyncを除く。詳細は「ソフトウェアのご使用条件」および「ソフトウェア使用条件適用一覧」をお読みください)。
- (8) ソフトウェアの全部または一部を著作権の許可なく複製したり、複製物を頒布したりすると、著作権の侵害となります。
- (9) ハードウェアの保守情報をセーブしています。

Microsoft、MS、MS-DOS、Windows、NetMeeting、Outlook、Windows Media、およびWindowsのロゴは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。

「一太郎」「花子」「ATOK」は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。

「一太郎10・花子10パック」「Shuriken」「Sasuke」は、株式会社ジャストシステムの商標です。

「一太郎10・花子10パック」は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、「一太郎10・花子10パック」にかかる著作権その他の権利は株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

商標「三四郎」は、株式会社エス・エス・ピーの登録商標であり、株式会社ジャストシステムは商標使用許諾を受けています。

パソコン大学は、テラ・コーポレーションの商標です。

@niftyはニフティ㈱の商標です。

アメリカ・オンラインおよびAOLは、AOLの登録商標です。

「Angel Line」および「エンジェルライン」は、NTTの登録商標です。

VirusScanは、米国法人Network Associates, Inc. またはその関係会社の米国またはその他の国における登録商標です。

Puma Technology、Puma Technologyロゴ、DSX Technology、DSX Technologyロゴ、IntellisyncおよびIntellisyncロゴは、いくつかの法域で登録することができるPuma Technology, Inc.の商標です。

Adobe、AcrobatおよびAcrobatロゴはAdobe Systems Incorporated(アドビシステムズ社)の商標です。

Hatch、ハッチインサイドは、ディアンドアイシステムズ株式会社の登録商標です。

「てきばき家計簿マム」は、テクニカルソフト株式会社の商標です。

「ハローキティ」は、株式会社サンリオの登録商標です。

ODN(Open Data Network)は日本テレコム㈱の登録商標です。

DIONは第二電電株式会社の登録商標です。

筆王は株式会社アイフォーの登録商標です。

コペルニックライト、Copernic Litelは、日本テクノラボの登録商標です。

NEWEBはKDD ㈱の商標です。

Virtual CDは、Far Stone Tech, Inc.の登録商標です。

PostPetは、ソニーコミュニケーションネットワーク株式会社の登録商標です。

So-netは、ソニー株式会社の登録商標です。

Pentiumは、Intel Corporationの登録商標です。

Celeronは、Intel Corporationの商標です。

Hayesは、米国Hayes Microcomputer Productsの登録商標です。

MNPは、Microcom, Inc. の登録商標です。

PS/2はIBM社が所有している商標です。

AdaptecおよびAdaptec社のロゴは、Adaptec, Inc. の登録商標です。

Easy CD Creator、DirectCDは、Adaptec, Inc. の商標です。

RealPlayerはRealNetworks, Inc. (<http://www.real.com>)の商標です。

「BIGLOBE」「BIGLOBE電話で入会ナビ」「ThumbsStudio」「PCポータル」は、日本電気株式会社の商標または登録商標です。

その他、本マニュアルに記載されている会社名、商品名は各社の商標または登録商標です。

©NEC Corporation 2000

日本電気株式会社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。

■輸出する際の注意事項

本製品(ソフトウェアを含む)は日本国内仕様であり、外国の規格等には準拠していません。本製品は日本国外で使用された場合、当社は一切責任を負いかねます。

また、当社は本製品に関し海外での保守サービスおよび技術サポート等は行っていません。

本製品の輸出については、外国為替及び外国貿易法に基づいて通商産業省の許可が必要となる場合があります。必要な許可を取得せずに輸出すると同法により罰せられます。輸出に際しての許可の要否については、ご購入頂いた販売店または当社営業拠点にお問い合わせ下さい。

目次

PART

1

このパソコンの機能	1
本体の各部の名称	2
本体前面	2
本体背面	3
本体底面	4
表示ランプ	5
名称と役割	5
ワンタッチスタートボタン	7
ワンタッチスタートボタンを使う	7
ワンタッチスタートボタンの設定を変更する	8
キーボード	9
キーの名称	9
キーの使いかた	10
キーボードの設定をする	12
日本語入力を使う	13
NXパッド	15
NXパッドの使いかた	15
NXパッドの設定をする	17
ハードディスク	21
ハードディスクを使用するときの注意	21
ハードディスクの領域の確保とフォーマット	22
FAT32ファイルシステムの利用	25
フロッピーディスクドライブ	28
名称と役割	28
このパソコンで利用できるフロッピーディスクの種類	28
フロッピーディスクドライブを使用するときの注意	28
フロッピーディスクのセットのしかたと取り出ししかた	29
フロッピーディスクをフォーマットする	30
CD-ROMドライブ／CD-RWドライブ	31
名称と役割	31
使用できるディスク	31
CD-ROMドライブまたはCD-RWドライブを使用するときの注意 ..	33
ディスクのセットのしかたと取り出ししかた	33
CD制御ボタンを使う	36
Virtual CD 2を使う	37

Easy CD Creatorを使う	42
DirectCDを使う	44
液晶ディスプレイ	48
画面表示を調整する	48
表示できる解像度と表示色	49
バーチャルスクリーン	51
デュアルディスプレイ機能	52
バッテリー	54
バッテリーのみで使う	54
バッテリーを充電する	54
バッテリーの残量を確認する	55
バッテリーリフレッシュ	57
バッテリーパックを交換する	59
省電力機能	62
省電力機能とは	62
スタンバイ状態(サスペンド)	63
休止状態(ハイバネーション)	66
パワーマネージメント	70
電源管理のモード	72
セキュリティ機能	73
このパソコンのセキュリティ機能	73
パスワードを設定してパソコンの利用者を制限する	73
その他のセキュリティ機能を使う	78
ファイル転送機能	80
ファイル転送機能について	80
赤外線通信機能を利用する	80
ケーブルによるファイル転送を利用する	82
ファイル転送を行う	82
サウンド機能	85
音量を調節するには	85
音量調節つまみを使う	85
ボリュームコントロールを使う	85
ビープ音を設定する	88
モデム	89
内蔵のモデムを利用する	89
インターネットへの通信環境を切り替える	92

ワイヤレス通信機能	97
ワイヤレス通信機能を使う	97
ワイヤレス通信機能を使用するときの注意	98
ワイヤレス通信機能を活用する	99
通信速度を変更する	105
ワイヤレスフォンを使う	106
インターネットへの通信環境を切り替える	111

周辺機器を使う 113

このパソコンに接続できる周辺機器	114
本体前面／右側面	114
本体背面	115
本体底面	116
周辺機器を接続する前に	117
周辺機器を利用する	117
周辺機器を利用するときの注意	117
周辺機器を使えるようにセットアップする	120
プリンタ	121
プリンタを接続する	121
プリンタを設定する	122
外部ディスプレイを使う	126
CRTディスプレイを使う	126
プロジェクタを使う	128
テレビを使う	128
接続した外部ディスプレイを設定する	129
PCカード	130
PCカードとPCカードスロットを使う	130
PCカードを使用するときの注意	131
PCカードのセットのしかたと取り出しかた	131
メモリ	134
メモリを増設する	134
増設RAMボードを取り扱うときの注意	134
増設RAMボードの取り付けかたと取り外しかた	135
ポートバー	140
ポートバーを使う	140

ポートバーの取り付けかたと取り外しかた	140
USB 対応機器	144
USBとは	144
USBコネクタに接続する	144
その他の機器を使う	146
その他の周辺機器について	146
シリアルコネクタ	146
パラレルコネクタ	147
マウス／テンキーボード用コネクタ	147
DCコネクタ	148

アプリケーションの追加と削除 149

インストールされていないアプリケーションの追加	150
インストールが必要なアプリケーションや機能	150
アプリケーションの削除	151
アプリケーションを削除する前に	151
インストーラ-NXを使って削除する	152
コントロールパネルを使って削除する	155
アンインストール機能を使って削除する	156
削除したアプリケーションの再追加	157
アプリケーションを再追加する前に	157
インストーラ-NXを使って自動でインストールできる アプリケーション	157
インストーラ-NXを使って内容を確認しながら インストールするアプリケーション	161
パソコン大学一年生CD-ROMを使って追加する	163
Office 2000 Personal CD-ROMを使って追加する (Office 2000モデルのみ)	163
一太郎10・花子10パックCD-ROMを使って追加する (一太郎モデルのみ)	163
Easy CD Creator™ 4 Standard/DirectCD™ 3 CD-ROMを 使って追加する	164

パソコンのメンテナンスと管理 165

パソコンをウイルスから守る	166
コンピュータウイルスとは	166
VirusScanを使ってウイルスを駆除する	168
ハードディスクのメンテナンス	170
ハードディスクのメンテナンスをする	170
重要なファイルの管理	172
システムファイルをチェックする	172
Windows 98の利用環境を設定する	172
Windows 98の動作を監視する	173
データのバックアップをとる	173

BIOSセットアップメニュー 175

BIOSセットアップメニュー	176
BIOSセットアップメニューを使ってできること	176
BIOSセットアップメニューを使う	176
BIOSセットアップメニューを終了する	177
工場出荷時の値に戻す	178
設定項目一覧	178

付録 189

ACPIモードについて	190
ACPIモードを利用する場合の制限事項	190
現在のモードを確認する	191
モードを切り替える	191
ACPIモードを使用するときの注意事項	194
Windows 98でMS-DOSモードを利用する	195
MS-DOSモードを利用する	195
MS-DOSモードでCD-ROMドライブ またはCD-RWドライブを利用する	196
Windows NT 4.0を使う	199
Windows NT 4.0を使用するには	199
Windows NT 4.0のセットアップ	201
ドライバのアップデート	203

機能一覧	213
本体	213
内蔵FAXモデム	219
ワイヤレス通信機能	221
割り込みレベルとDMAチャンネル	222
割り込みレベルとDMAチャンネルについて	222
アプリケーションを使用するときの注意	224
「サポートセンタ」を使うときには	224

索引	225
----------	-----

P A R T

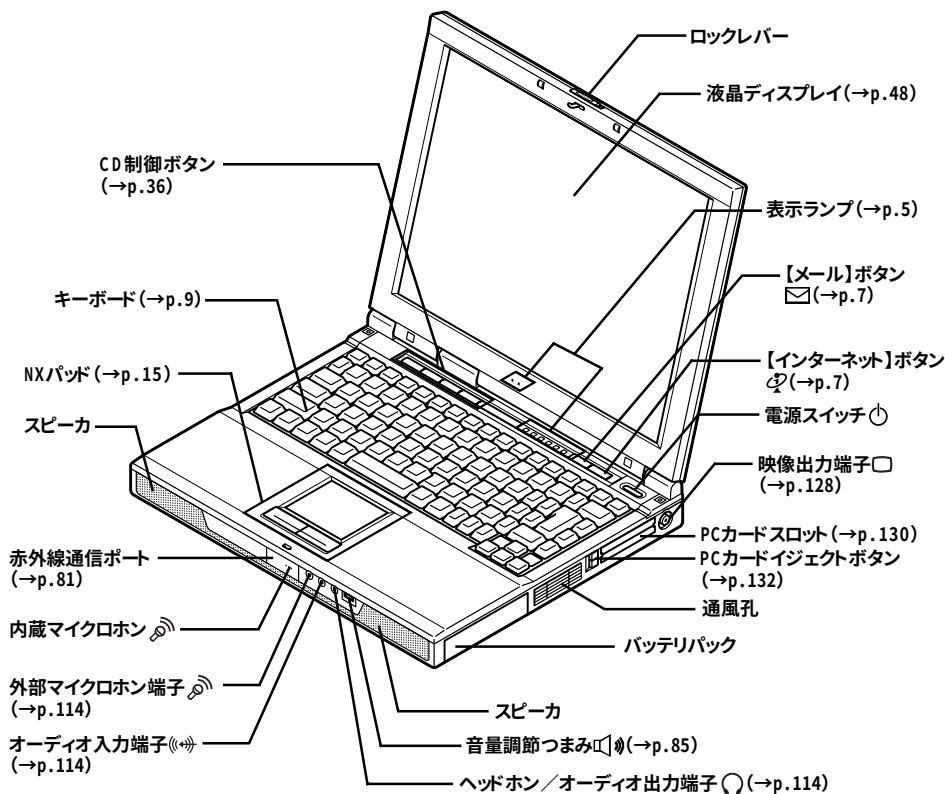
1

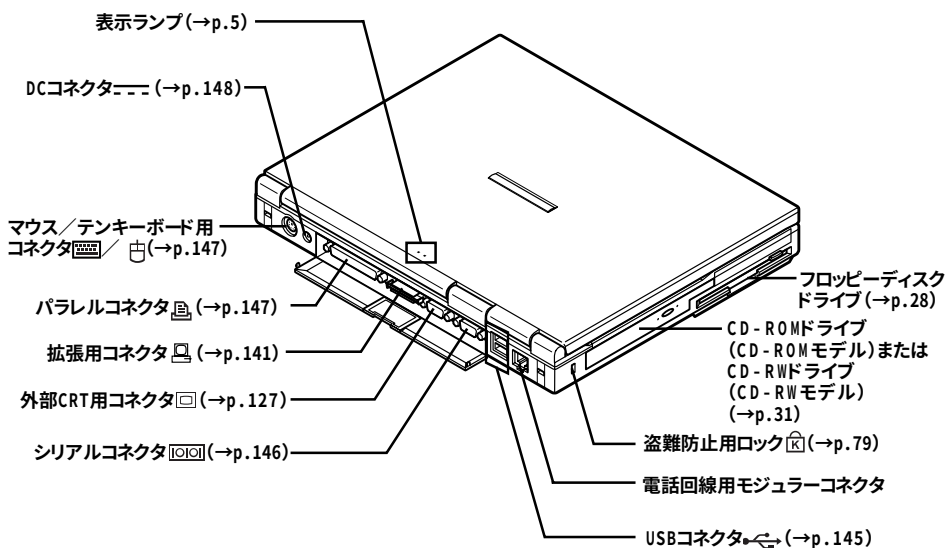
このパソコンの機能

このパソコンの各部の名称とおもな機能について
説明しています。

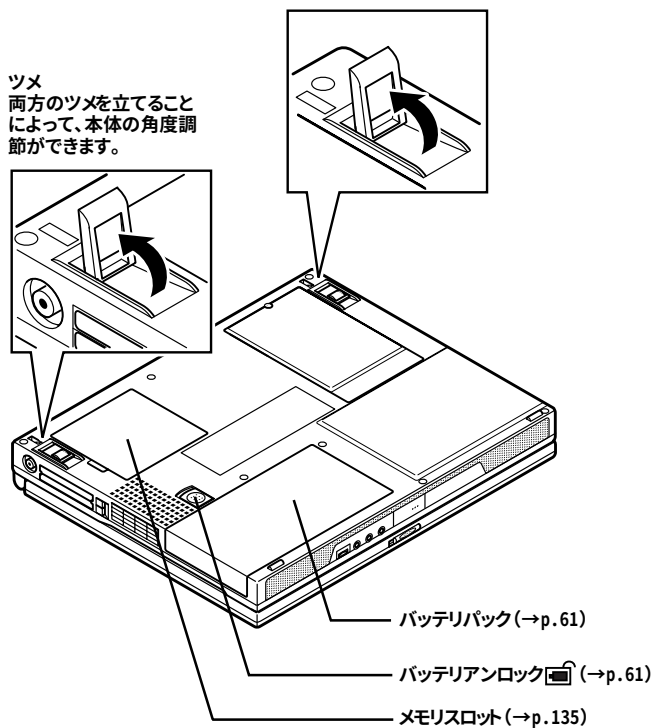
本体の各部の名称

本体前面



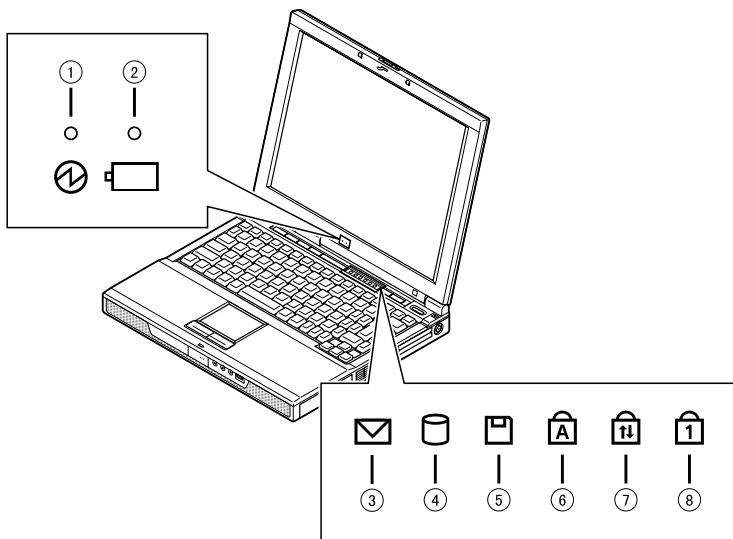


本体底面



表示ランプ

名称と役割



①電源ランプ(🔌)

ランプ		状態
緑	点灯	電源が入っている
	点滅	スタンバイ状態
黄色	点灯	バッテリー容量が少ない
	点滅	スタンバイ状態でバッテリー容量が少ない
オレンジ	点灯	バッテリー容量が残りわずか
	点滅	スタンバイ状態でバッテリー容量が残りわずか
消灯		電源が切れている、または休止状態

②バッテリー充電ランプ(🔋)

ランプ		状態
オレンジ	点灯	バッテリー充電中
	点滅	バッテリーのエラー※
消灯		ACアダプタが接続されていない、または充電完了

※：バッテリーを取り付けなおしてもエラーが出るときは、バッテリーリフレッシュを行ってください(→p.57)。

③ メール着信ランプ (✉)

ランプ	状態
緑点灯	メール着信あり、またはPIAFS圏内
消灯	メール着信なし、またはPIAFS圏外

ワイヤレスインターネットモデルの場合、BIOSセットアップメニューの「周辺機器セットアップ」の「PIAFS使用時のランプ切り替え」を「圏内」に設定すると、ランプをワイヤレスモデムステーションの圏内にいるかどうかを確認する機能に切り替えることができます(→ p.186)。

④ アクセスランプ (□)

ランプ	状態
緑点灯	ハードディスクやCD-ROMなどのディスクにアクセス中
消灯	ハードディスクやCD-ROMなどのディスクにアクセスしていない

⑤ フロッピーディスクアクセスランプ (□)

ランプ	状態
緑点灯	フロッピーディスクにアクセス中
消灯	フロッピーディスクにアクセスしていない

⑥ キャップスロックキーランプ (A)

ランプ	状態
緑点灯	【Caps Lock】がロックされている 英字を入力すると大文字になります
消灯	【Caps Lock】がロックされていない 英字を入力すると小文字になります

⑦ スクロールロックキーランプ (H)

ランプ	状態
緑点灯	【Scr Lock】がロックされている
消灯	【Scr Lock】がロックされていない

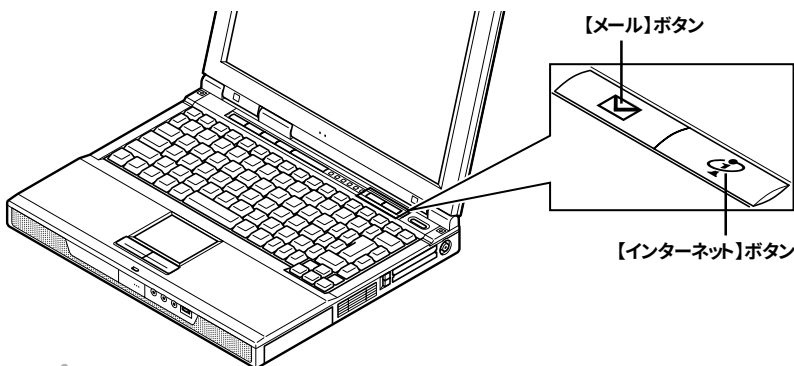
⑧ ニューメリックロックキーランプ (I)

ランプ	状態
緑点灯	【Num Lock】がロックされている キーを押すとキー前面の文字が入力されます
消灯	【Num Lock】がロックされていない キーを押すとキー上面の文字が入力されます

ワンタッチスタートボタン

ワンタッチスタートボタンを使う

このパソコンには次のワンタッチスタートボタンがあります。



チェック

MS-DOSモードで起動した場合やWindows 98のSafeモードなど、Windows 98のキーボードドライバが動作しない状態では、ワンタッチスタートボタンの機能は使えません。

【インターネット】ボタン

【インターネット】ボタンを押すと、インターネットへの接続が始まります。購入時の状態では、「インターネット 無料体験」が起動するように設定されていますが、「Internet Explorer」などのインターネットブラウザを起動するように設定を変更できます。



参照

【インターネット】ボタンの設定→「【インターネット】ボタン／【メール】ボタンの設定をする」(p.8)

【メール】ボタン

【メール】ボタンを押すと、メールソフトが起動します。購入時の状態では、「メールボタン利用のご案内」が表示されます。設定を変更すると、「Outlook Express」などのメールソフトを起動することができます。



参照

【メール】ボタンの設定→「【インターネット】ボタン／【メール】ボタンの設定をする」(p.8)

ワンタッチスタートボタンの設定を変更する

【インターネット】ボタン／【メール】ボタンの設定をする

【インターネット】ボタン／【メール】ボタンの設定は、「ワンタッチスタートボタンの設定」を使って行います。

■「ワンタッチスタートボタンの設定」を起動する

- 1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「ワンタッチスタートボタンの設定」→「ワンタッチスタートボタンの設定」をクリックする
「ワンタッチスタートボタンの設定」の画面が表示されます。



メモ

タスクトレイにあるをダブルクリックして起動することもできます。



参照

ワンタッチスタートボタンの設定→「サポートセンタ」-「パソコンを使いこなそう」-「添付ソフトの使い方」-「ワンタッチスタートボタンの設定」、または「ワンタッチスタートボタンの設定 ヘルプ」

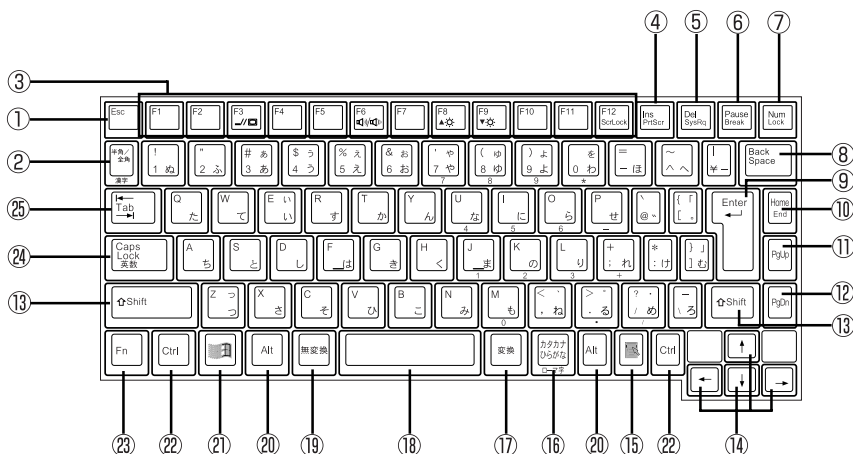


メモ

「ワンタッチスタートボタンの設定 ヘルプ」は、「スタート」ボタン→「プログラム」→「ワンタッチスタートボタンの設定」→「ワンタッチスタートボタンの設定 ヘルプ」をクリックすると表示できます。

キーボード

キーの名称



- ① 【Esc】: エスケープキー
- ② 【半角／全角】: 半角／全角キー
- ③ 【F1】～【F12】: ファンクションキー
- ④ 【Ins】: インサートキー
- ⑤ 【Del】: デリートキー
- ⑥ 【Pause】: ポーズキー
- ⑦ 【Num Lock】: ニュメリックロックキー
- ⑧ 【Back Space】: バックスペースキー
- ⑨ 【Enter】: エンターキー(リターンキー)
- ⑩ 【Home】: ホームキー
- ⑪ 【PgUp】: ページアップキー
- ⑫ 【PgDn】: ページダウンキー
- ⑬ 【Shift】: シフトキー
- ⑭ 【↑】【↓】【←】【→】: カーソル移動キー
- ⑮ 【⌂】: アプリケーションキー
- ⑯ 【カタカナ ひらがな】: かなキー
- ⑰ 【変換】: 変換キー
- ⑱ スペースキー
- ⑲ 【無変換】: 無変換キー
- ⑳ 【Alt】: オルトキー
- ㉑ 【⌂】: Windowsキー
- ㉒ 【Ctrl】: コントロールキー
- ㉓ 【Fn】: エフエヌキー
- ㉔ 【Caps Lock】: キャップスロックキー
- ㉕ 【Tab】: タブキー

キーの使いかた

特殊なキーを使う

キー操作	説 明
【Num Lock】	一度押すとニューメリックロックキーランプ (⌵) が点灯し、キー前面に青で表示されている数字や記号が入力できるようになります。もう一度押すとランプは消灯し、キー上面の文字が入力できるようになります。
【Shift】+【Caps Lock】	一度押すとキャップスロックキーランプ (⌵) が点灯し、アルファベットを入力すると大文字が入力されます。もう一度押すとランプは消灯し、アルファベットを入力すると小文字が入力されます。
【Alt】+【半角／全角】 または 【半角／全角】※	押すごとに、日本語入力システムのオン／オフが切り替わります。
【Alt】+ 【カタカナ ひらがな】	日本語入力システムがオンになっているとき、一度押すとかな入力モードになり、キー上面のかな文字で日本語を入力できるようになります。もう一度押すとローマ字入力モードになり、キー上面のアルファベットの組み合わせで日本語を入力できるようになります。
【Caps Lock】	日本語入力システムがオンになっているとき、一度押すと英数字を入力できるようになります。
【カタカナ ひらがな】	日本語入力システムがオンになっていて英数字が入力されるモードになっているとき、一度押すとひらがなやカタカナを入力できるようになります。
【Fn】	他のキーと組み合わせて機能を実行します (→p.11)。
【⌵】	右クリックするのと同じ機能があります。
【⌵】	「スタート」ボタンをクリックするのと同じ機能があります。
【⌵】+【R】	「ファイル名を指定して実行」ウィンドウを表示します。
【⌵】+【M】	現在起動しているウィンドウをすべてアイコン化します。
【Shift】+【⌵】+【M】	【⌵】+【M】でアイコン化したウィンドウを元に戻します。
【⌵】+【F1】	Windowsのヘルプを表示します。
【⌵】+【F】	ファイルやフォルダを検索するウィンドウを表示します。
【Ctrl】+【⌵】+【F】	コンピュータを検索するウィンドウを表示します。
【⌵】+【Tab】	タスクバーに表示されているボタンを順番に切り替えます。

※：MS-IME2000またはMS-IME98でのみ使用できます。

ホットキー機能を使う

【Fn】と他のキーを組み合わせることで、パソコンの設定をキー操作で簡単に調整することができます。これをホットキー機能といいます。

組み合わせが可能なキーとその機能のアイコンは、【Fn】と同じ色(青)でキー上面に印刷されているものもあります。

キー操作	機 能	説 明
【Fn】+電源スイッチ	休止状態	休止状態にします(→p.66)。
【Fn】+【Esc】	スタンバイ状態	スタンバイ状態にします(→p.63)。
【Fn】+【F3】	ディスプレイの切り替え ( / )	別売のCRTディスプレイが接続されているとき、キーを押すごとに、「液晶ディスプレイ」とCRTの同時表示→「テレビ」※1→「液晶ディスプレイ」→「CRT」の順に切り替わります(→p.129)。
【Fn】+【F4】	スリープ※2	スリープ状態にします。
【Fn】+【F6】	ビープ音量調節 ( / )	ビープ音のオン／オフを設定します(→p.88)。
【Fn】+【F7】	節電レベル選択	キーを押すごとに、節電のモードを切り替えます。(→p.70)。
【Fn】+【F8】	輝度を上げる ()	キーを押すごとに、液晶ディスプレイの輝度が増加します(8段階)(→p.48)。
【Fn】+【F9】	輝度を下げる ()	キーを押すごとに、液晶ディスプレイの輝度が低下します(8段階)(→p.48)。
【Fn】+【F10】	画面の伸縮	低解像度時に、ディスプレイの画面を拡大表示する／しないを切り替えます。
【Fn】+【F12】	スクロールロック	【Scr Lock】の役割
【Fn】+【Ins】	プリントスクリーン	【Prt Scr】の役割
【Fn】+【Del】	システムリクエスト	【Sys Rq】の役割
【Fn】+ 	右Windows	右  の役割
【Fn】+【Pause】	Break	【Break】の役割
【Fn】+【Home】	End	【End】の役割

※1：テレビが接続されているときのみ切り替わります。

※2：BIOSセットアップメニューの「省電力セットアップ」の「スリープ種別」で、スタンバイ状態にするか、休止状態にするかを設定できます(→p.183)。

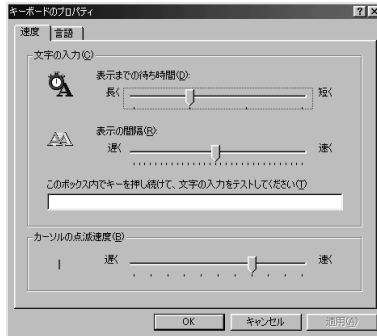


メモ

【Fn】+【F3】～【F12】で設定した内容は、電源を切ったり再起動したりすると解除されます(【Fn】+【F8】、【F9】を除く)。

キーボードの設定をする

- 1 「コントロールパネル」を開き、「キーボード」アイコンをダブルクリックする
「キーボードのプロパティ」が表示されます。



「キーボードのプロパティ」では、ウィンドウ左上の「速度」「言語」の各タブを選ぶと、次のような設定を行うことができます。

- ・文字入力時のくりかえし入力タイミング調節
- ・カーソルの点滅速度の調節
- ・日本語入力システムの選択
- ・レイアウトの設定

「速度」タブでの設定

- 表示までの待ち時間
一つのキーを押し続けたときに、入力のくりかえしが止まるまでの時間を調節します。
- 表示の間隔
一つのキーを押し続けたときに、文字の入力がくりかえされる間隔を調節します。
- カーソルの点滅速度
カーソルの点滅間隔を調節します。

「言語」タブでの設定

- 言語
よく使う日本語入力システムを一覧から選び、「既定値として設定」をクリックすると、その日本語入力システムが「既定の言語」欄に表示され、登録されます。

- 追加
「追加」ボタンをクリックして「言語の追加」ウィンドウを表示させ、追加したい言語を選びます。
- プロパティ
日本語入力システムを一覧から選んで、「プロパティ」ボタンをクリックすると、環境設定のウィンドウが表示されます。「ローマ字／かな入力」、「入力モード／方式」、「句読点の種類」などを設定できます。
- 削除
削除したい言語を一覧から選んで、「削除」ボタンをクリックすると、その言語が一覧から削除されます。
- 言語の切り替え
言語の切り替えを行うキーの組み合わせを選ぶことができます。
- タスクバー上に状態を表示
「タスクバー上に状態を表示」をクリックして☒にすると、日本語や日本語入力システムを簡単に切り替えることができるメニューをタスクバーに表示できます。

別売のキーボードを使うには

別売のテンキーボードやキーボードを接続して使用することができます。テンキーボードは本体背面のマウス／テンキーボード用コネクタ()に接続します。キーボードはUSB対応のキーボードを本体背面のUSBコネクタ()に接続することができます。



参照

- ・別売のテンキーボードやキーボードの接続→PART2の「その他の機器を使う」の「マウス／テンキーボード用コネクタ」(p.147)
- ・別売のUSB対応キーボードの接続→PART2の「USB対応機器」(→p.144)

日本語入力を使う

このパソコンでは、次の日本語入力システムを使用できます。

- ・一太郎モデル : ATOK13とMS-IME98(既定値はATOK13)
- ・Office 2000モデル : MS-IME2000

日本語入力システムのオン／オフを切り替える

日本語入力システムのオン／オフを切り替えるときは、【半角／全角】または【Alt】＋【半角／全角】を押します。日本語入力システムがオンになると、日本語入力システムのツールバーが表示されます。オン／オフは、キーを押すごとに切り替えることができます。



メモ

タスクトレイにある  をクリックして表示されるメニューでオン／オフを切り替えることもできます。日本語入力システムがオンのときは、 は  になっています。



参照

日本語入力システムを使うには→『はじめてのパソコン』の「PART3 キーボードになれよう」

日本語を入力する

日本語入力システムの詳しい使いかたは、各日本語入力システムの「ヘルプ」を利用してください。



参照

日本語入力を練習する→『はじめてのパソコン』の「PART3 キーボードになれよう」

■ MS-IME2000またはMS-IME98の「ヘルプ」を使う

- 1 MS-IME2000またはMS-IME98のツールバーから  をクリックする
- 2 メニューの「目次とキーワード」をクリックする
- 3 表示されたヘルプ画面で、調べたい項目をダブルクリックする
ヘルプを終了したいときは、 をクリックします。

■ ATOK13の「ヘルプ」を使う

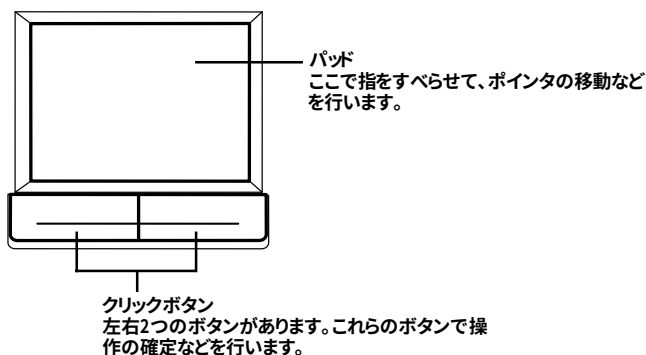
- 1 ATOKパレットの  をクリックする
ATOKパレットが最大化表示されます。
- 2  をクリックする
- 3 メニューの中から「ヘルプ」メニュー→「ヘルプ」をクリックする
- 4 表示されたヘルプ画面で、調べたい項目をダブルクリックする
ヘルプを終了したいときは、 をクリックします。

NXパッド

NXパッドの使いかた

このパソコンにはポインティングデバイスとしてNXパッドが内蔵されています。

名称と役割



基本的なNXパッドの操作

NXパッドを使って、次のような操作を行うことができます。

● ポインタの移動

パッド上で指を動かすと、指の動きに合わせて画面上のポインタが動きます。画面上のアイコンなどにポインタを合わせることを「ポイントする」といいます。

● クリックとダブルクリック

画面上のボタンやアイコンにポインタを合わせ、左のクリックボタンを押します。1回押すことを「クリック」、すばやく2回続けて押すことを「ダブルクリック」といいます。また、右のクリックボタンを1回押すことを「右クリック」といいます。

● ドラッグ

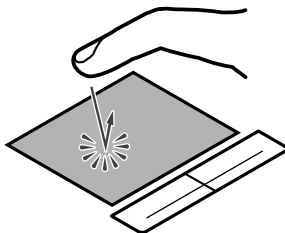
アイコンやフォルダの上にポインタを合わせ、左のクリックボタンを押したまま、パッド上で指をすべらせることを「ドラッグ」といいます。

パッドのみを使って操作する

NXパッドではクリックボタンを使わずにパッドのみを使って操作することもできます。

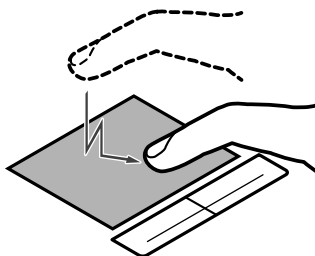
● タップとダブルタップ

指先で軽くパッドをたたく操作です。1回たたくことを「タップ」、2回続けてたたくことを「ダブルタップ」といい、それぞれクリック、ダブルクリックするのと同じことです。



● ドラッグ

アイコンやフォルダの上にポインタを合わせた状態で、パッドに2回続けて触れ、2回目に触れたときにパッドから指を離さずにすべらせるとドラッグできます。



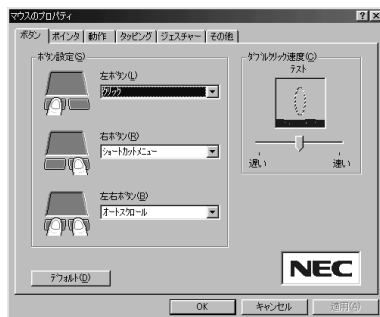
参照

NXパッドの使いかたを練習する→『はじめてのパソコン』の「PART2 NXパッドになれよう」

NXパッドの設定をする

WindowsでNXパッドをより使いやすく設定することができます。

- 1 「コントロールパネル」を開き、「マウス」アイコンをダブルクリックする
「マウスのプロパティ」が表示されます。



「マウスのプロパティ」では、ウィンドウの左上の各タブを選ぶと、次のような設定を行うことができます。

- ・ ボタンの設定
- ・ ポインタデザインの選択
- ・ NXパッドの動作の調節
- ・ オートジャンプの設定
- ・ タッピングの調節
- ・ ジェスチャーの調節 (NXパッド使用時のみ設定可能)
- ・ その他

「ボタン」タブの設定

● ボタン設定

左右のクリックボタンの設定や、左右のクリックボタンを同時に押したときの設定ができます。

● ダブルクリック速度

ダブルクリックのクリック間隔の調整を行います。

「ポインタ」タブの設定

● デザイン

ポインタのデザインを変更することができます。

「動作」タブの設定

- 速度と加速度

ポインタの動作速度を調節します。

- アクセラレーション

パッド上で指をすばやく動かすことで、ポインタの移動速度を「速度」欄で設定した以上に速くすることができます。パッド上でゆっくり指を動かしたときは、「速度」欄で設定した速度で動きます。

- オートジャンプ

ウィンドウやダイアログボックスを開いたときに、ポインタをボタンの上に自動的に合わせるように設定できます。

- 軌跡

「表示する」を ☒ にすると、ポインタの軌跡が表示されます。

「タッピング」タブの設定

- タッピング

☐ にすると、タップが効かないように設定できます。

- タッピング速度

タップする速度を調節します。タップの間隔(指をパッドに触れてから離すまで)を調整することで、間違っただけではタップにならないように設定できます。

- ドラッグロックの設定

パッド上でドラッグをしている場合のドラッグロックの設定ができます。ドラッグしている途中でパッドから指を離しても、ドラッグしたままの状態を保つことができます。

- タイピング

キー入力時に間違っただけでタップされたり、ポインタが移動するのを防ぐことができます。

「ジェスチャー」タブの設定

● コーナータップ

パッドの左上角や右上角をタップする動作に、次の機能を割り当てることができます。

- ・ ショートカットメニューの表示
- ・ オートスクロール
- ・ イージーキャプチャー
- ・ 全ウィンドウ最小化
- ・ 最近使ったファイルの表示
- ・ お気に入りの表示



メモ

イージーキャプチャーは、「ペイント」などのアプリケーションを起動しなくても、NXパッドを操作して簡単な絵を作成し、起動中のアプリケーションに貼り付けることができる機能です。

● ブラウザ補助機能

パッドの上端を左右どちらかになぞって指を離すと、ブラウザの「進む」「戻る」の操作ができます。

● スクロール機能

「スクロール機能を使う」を ☒ にして「設定」ボタンを選ぶと、次の各機能を使うように設定できます。

- ・ スクロール速度
スクロールする速度を設定することができます。
- ・ スクロール領域
パッド上のスクロール機能で使用する部分を「スクロール領域」といいます。
スクロール領域の広さを変更することができます。

「その他」タブの設定

● トレイアイコン

「タスクバーにアイコンを表示する」を ☐ にすると、タスクバーにNXパッドのアイコンが表示されなくなります。

● IMEキャプチャー

IMEパッドの手書き入力エリアでタップすると、絶対座標モードで入力できるようになります。

● イージーキャプチャーの設定

「イージーキャプチャーの設定」ボタンを選ぶと、次の各設定を変更できます。

イージーキャプチャーは、「ジェスチャー」タブの中の「左(または右)コーナータップ」で割り当てることができます。

- キャンバスサイズ

使用するキャンバスの幅、高さを変更できます。

- 線の種類

使用する線の太さ、色を変更できます。

- オプション

「前回のイメージを保存する」を ☒ にすると、イージーキャプチャーで描いたイメージが保存され、次回イージーキャプチャーを開いたときに表示されます。

ハードディスク

ハードディスクを使用するときの注意

ハードディスクとは

ハードディスクとは、Windows 98やアプリケーションなどのソフトウェア、またはそれらで作成したデータを記録し、読み出すための装置です。非常に精密な機械なので、強い衝撃や過度の重量などが加わらないように注意してください。



チェック

データの読み書き中(アクセスランプ(□)の点灯中)は少しの衝撃が故障の原因となる場合がありますので注意してください。

データのバックアップについて

ハードディスクが故障すると、大切なデータが失われてしまうことがあります。特に、自分で作成したデータなどは再セットアップしても元通りにはできません。大切なデータは、フロッピーディスクやMOなどのハードディスク以外の媒体にこまめにバックアップ(コピー)をとっておくことをおすすめします。



参照

バックアップの取りかた→PART4の「重要なファイルの管理」、または「サポートセンタ」-「困ったときのQ&A」-「トラブル解決Q&A」-「トラブルの予防」-「データをバックアップする」

ハードディスクの購入時の状態

このパソコンは購入時、ハードディスク全容量の75%がCドライブ、残りの25%がDドライブに割り当てられており、次のように領域が作成されています。

例：ハードディスクの全容量が「12Gバイト」の場合

Cドライブ：約9Gバイト (FAT32)

Dドライブ：約3Gバイト (FAT32)



参照

FAT32について→「FAT32ファイルシステムの利用」(p.25)

ハードディスクの領域の確保とフォーマット

ハードディスクの領域を削除した場合や、新たにハードディスクを増設した場合などには、ハードディスクの領域の確保とフォーマットが必要です。

ハードディスクの領域の確保とフォーマットは、「容量の確認」→「領域の確保」→「フォーマット」の順に行います。

ハードディスクの容量の確認

はじめに、領域を確保しようとしているハードディスクの容量を確認します。

- 1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「MS-DOS プロンプト」をクリックする
次のように表示されます。

C: ¥WINDOWS>

- 2 次のように入力する

FDISK 

「大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか (Y/N)」と表示されます。



メモ

「FDISK」コマンドは「領域の確保」「領域の削除」「ハードディスクの状態の確認」を行うプログラムです。

- 3 「Y」を選んで【Enter】を押す
「FDISK オプション」の画面が表示されます。
- 4 「4」を入力し、【Enter】を押す
- 5 表示された画面でハードディスクの容量を確認する
- 6 【Esc】を押す
- 7 【Esc】を押す
次のように表示されます。

C: ¥WINDOWS>

ハードディスクの領域の確保

1 次のように入力する

- ・ハードディスクの容量が8,192Mバイト以下の場合

FDISK /x 

- ・ハードディスクの容量が8,193Mバイト以上の場合

FDISK 

「大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか(Y/N)」と表示されます。

2 「N」を入力し【Enter】を押す

「FDISKオプション」の画面が表示されます。



メモ

ここで「Y」を入力し【Enter】を押すと、FAT32で領域が作成されます。FAT32を利用する場合は「FAT32ファイルシステムの利用」(p.25)をご覧ください。

3 「1」を入力し【Enter】を押す

領域を作成する画面が表示されます。

4 「2」を入力し【Enter】を押す

「領域のサイズをMバイトか全体に対する割合(%)で入力してください。拡張MS-DOS領域を作ります」と表示されます。



チェック

確保される領域は、入力した領域サイズよりも大きくなる場合があります。例えば、FAT16で2,047Mバイトを取得しようとする、2,052Mバイトなどの値になり、FAT16で取得できない場合があります。このような場合は、2,047Mバイトより小さい値で入力してください。

5 【Enter】を押す

「拡張MS-DOS領域を作成しました。」と表示されます。

6 【Esc】を押す

7 サイズを入力して【Enter】を押す

8 拡張MS-DOS領域がなくなるまで手順7をくりかえし、すべての拡張MS-DOS領域を論理ドライブに割り当てる

- 9 【Esc】を3回押す
次のように表示されます。

C: ¥WINDOWS>

- 10 次のように入力する

EXIT 

Windows 98の画面に戻ります。

- 11 「スタート」ボタン→「Windowsの終了」で「再起動する」を選び、「OK」ボタンをクリックする
再起動します。

ハードディスクをフォーマットする

領域を確保したら、続いてハードディスクをフォーマットします。

- 1 「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックする
- 2 新たに領域を確保したドライブをクリックする
- 3 「ファイル」メニュー→「フォーマット」をクリックする
「フォーマット」の画面が表示されます。
- 4 「通常のフォーマット」をクリックする
- 5 「開始」ボタンをクリックする
確認の画面が表示されます。
- 6 「OK」ボタンをクリックする
フォーマットが始まります。
しばらくすると、フォーマットが終了してフォーマットの結果が表示されます。
- 7 「閉じる」ボタンをクリックする
スキャンディスクの実行を促す画面とヘルプが表示されます。
- 8 「OK」ボタンをクリックする
- 9 「フォーマット」ウィンドウをクリックする

10 「閉じる」ボタンをクリックする

- 11 ヘルプにしたがって、スキャンディスクを実行する
複数の領域を確保したいときは、手順2～11の操作をくりかえしてください。

FAT32ファイルシステムの利用

FATとは

FAT(File Allocation Table)ファイルシステムとは、MS-DOSやWindowsで、ディスクのどの場所にどのようなファイルがあるかを記録／管理するシステムのことです。Windows 98では次の2つのFATファイルシステムをサポートしています。

● FAT16

MS-DOSや従来のWindowsで使われている基本的なファイルシステムです。最大2Gバイトまでの容量をひとつのドライブとして扱うことができます。

● FAT32

FAT16を拡張したファイルシステムです。FAT32では理論上2Tバイト(2,048Gバイト)までの容量を扱うことができます。またFAT16よりも効率よく大容量ハードディスクを利用することができます。



参照

FAT32に関する情報→「Windows」フォルダのGENERAL.TXT

FAT32ファイルシステムを使用するときの注意

FAT32を使用するときは、次の注意事項を確認してから使用してください。

- FAT32はこのパソコンにインストールされているWindows 98でのみ使うことができます。
- 購入時の状態では、FAT32ファイルシステムでハードディスクの領域が確保されています。購入時の状態で使用する場合は、ここでFAT32の設定を行う必要はありません。
- 別売のアプリケーションによっては正しく動作しないことがあります。
- スキャンディスク、バックアップ、およびデフラグなど、「アクセサリ」の「システムツール」にあるディスク管理ツールはFAT32に対応しています。ただし、「ドライブスペース」でFAT32のドライブを圧縮することはできません。
- FAT16に変更するには、カスタム再セットアップする必要があります。



参照

カスタム再セットアップ→『困ったときのQ&A』の「PART3 再セットアップ」

FAT32を利用するには

FAT32を利用するには、「FDISK」コマンドを使用してFAT32ファイルシステムで領域を作成します。また、Windows 98で「ドライブコンバータ(FAT32)」を利用することで、FAT16のドライブをFAT32に変換することもできます。



参照

ドライブコンバータ(FAT32)→Windowsのヘルプ

「FDISK」コマンドでFAT32の領域を作成する

- 1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「MS-DOSプロンプト」をクリックする
「MS-DOSプロンプト」の画面が表示されます。

- 2 次のように入力する

・ハードディスクの容量が8,192Mバイト以下の場合

FDISK /x

・ハードディスクの容量が8,193Mバイト以上の場合

FDISK

ハードディスクの容量が512Mバイト以上のときは、次のような大容量ディスクのサポートを行うかどうかを確認するメッセージが表示されます。

512 MB以上のディスクがあります。このバージョンのWindowsでは、大容量のディスクのサポートが強化され、ディスク領域を有効に使えるようになりました。2 GB以上のドライブを1つのドライブとしてフォーマットできます。

重要：大容量ディスクのサポートを使用可能にして、このディスクに新しいドライブを作成した場合、ほかのオペレーティング システムを使ってこの新しいドライブにアクセスすることはできません。(Windows 95とWindows NTの特定のバージョン、以前のバージョンのWindowsとMS-DOSを含む) また、FAT32ファイルシステム用に設計されていないディスクユーティリティは、正しく動作しません。このディスクでほかのオペレーティングシステムや以前のディスクユーティリティにアクセスする必要がある場合、大容量ドライブのサポートは使用しないでください。

大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか (Y/N) ?



参照

ハードディスクの容量を確認する→「ハードディスクの容量の確認」(p.22)

- 3 [Y]を押して[Enter]を押す

4 領域を作成する

512Mバイト以上の領域を作成すると、その領域にはFAT32が適用されます。作成した領域が512Mバイトよりも小さいときには自動的にFAT16が適用されます。

5 領域の作成が終了したら、【Esc】を押す

6 次のように入力する

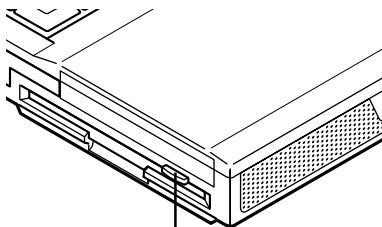
EXIT 

7 「スタート」ボタン→「Windowsの終了」で、「再起動する」を選び、「OK」ボタンをクリックする 再起動します。

8 作成したドライブをフォーマットする(→p.24)

フロッピーディスクドライブ

名称と役割



フロッピーディスクイジェクトボタン
フロッピーディスクを取り出すためのボタンです。

このパソコンで使えるフロッピーディスクの種類

このパソコンのフロッピーディスクドライブでは、次の形式のフロッピーディスクを使うことができます。

作業内容	データの読み書き	フォーマット	ディスクコピー
フォーマット			
640Kバイト	—	—	—
720Kバイト	○	○	○
1.44Mバイト	○	○	○
1.2Mバイト	○	△	△

○：使用可

△：Windows NTでのみ使用可

—：使用不可

フロッピーディスクドライブを使用するときの注意

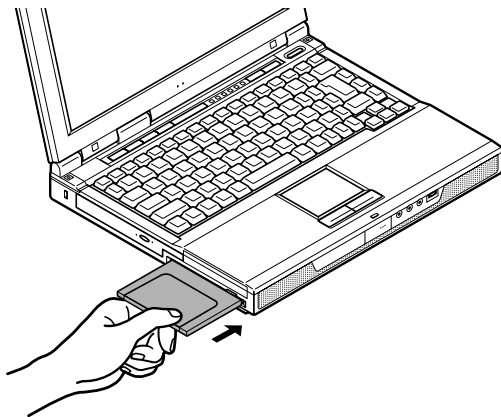
- ・このパソコンでは、PC-9800シリーズのパソコンでフォーマットされたフロッピーディスクを使ってシステムを起動することはできません。
- ・Windowsの「ディスクのコピー」、またはMS-DOSプロンプトのDISKCOPYコマンドでコピーを行うときは、コピー先のフロッピーディスクは、コピー元のフロッピーディスクと同じ容量でフォーマットされたものを使用してください。

- ・フォーマットしていないフロッピーディスクをマイコンピュータなどで選択すると、フロッピーディスクアクセスランプ(□)が点灯し続けたり、フォーマットしようとするフォーマット開始までの時間が長くなる場合があります。これは、フロッピーディスクの種類を判別しているためなので、処理が開始されるまでしばらくお待ちください。
- ・MS-DOS Ver.6.2以前のFORMATコマンドでフォーマットしたフロッピーディスクを、MS-DOSプロンプトからDISKCOPYコマンドでディスクコピーすることはできません。「マイコンピュータ」の「3.5インチFD」アイコンを右クリックし、「メニュー」から「ディスクのコピー」を実行してください。
- ・2DDのフロッピーディスクを720KBでフォーマットした場合、いったんフロッピーディスクを取り出し、もう一度入れ直してから使用してください。フォーマット後に、フロッピーディスクを入れ直さずにファイルを書き込もうとすると、フォーマットが正常に終了していても、エラーが発生する場合があります。
クイックフォーマットされたフロッピーディスクの場合は、この手順は必要ありません。

フロッピーディスクのセットのしかたと取り出しかた

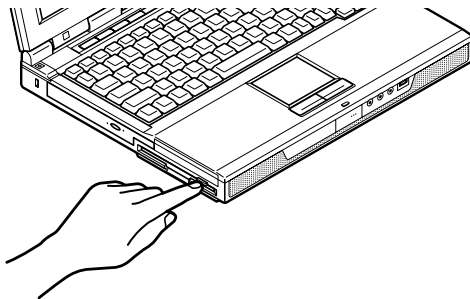
フロッピーディスクをセットする

- 1 カチッと音がするまでフロッピーディスクをゆっくりと水平に差し込む
フロッピーディスクがセットされるとイジェクトボタンが少し飛び出します。



フロッピーディスクを取り出す

- 1 イジェクトボタンを押す
フロッピーディスクが少し飛び出します。



- 2 フロッピーディスクをゆっくりと水平に引き出す



チェック

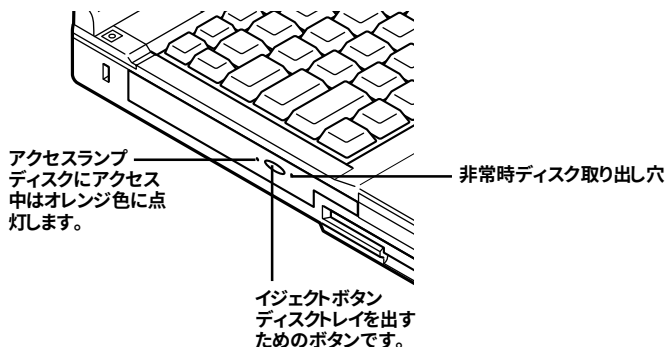
フロッピーディスクを書き込み中、または読み取り中は、フロッピーディスクアクセスランプ(凹)が点灯します。アクセスランプ点灯中は、絶対にフロッピーディスクを取り出さないでください。ドライブの故障やデータの不具合の原因となります。

フロッピーディスクをフォーマットする

- 1 フロッピーディスクをセットする
- 2 「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックする
「マイコンピュータ」ウィンドウが開きます。
- 3 「3.5インチFD」アイコンをクリックする
- 4 「ファイル」メニュー→「フォーマット」をクリックする
「フォーマット」ウィンドウが表示されます。
- 5 「フォーマットの種類」から実行するフォーマットの種類を選ぶ
はじめてフォーマットをするフロッピーディスクのときは「通常のフォーマット」を選んでください。
- 6 「開始」ボタンをクリックする
フォーマット作業が開始されます。

CD-ROMドライブ／CD-RWドライブ

名称と役割



メモ

CD-ROMドライブまたはCD-RWドライブのイジェクトボタンやアクセスランプ、非常時ディスク取り出し穴の位置や形状は、イラストと多少異なることがあります。

使用できるディスク

CD-ROMドライブの場合

CD-ROMモデルにはCD-ROMドライブが内蔵されています。CD-ROMドライブでは、CD-ROMやCD-Rの読み込み、音楽CD、ビデオCD、フォトCDなどの再生ができます。

CD-RWドライブの場合

CD-RWモデルにはCD-RWドライブが内蔵されています。CD-RWドライブでは、CD-ROMなどの読み込みや、音楽CD、ビデオCD、フォトCDの再生のほかに、CD-Rへの書き込みやCD-RWの書き換えを行うことができます。使用できるCD-RおよびCD-RWは、ISO9660、Orange Book Part2 (CD-R) および Part3 (CD-RW) に準拠したディスクです。書き込みできる容量は、使用するアプリケーションによって異なりますので、詳しくはアプリケーションのヘルプをご覧ください。

■CD-RやCD-RWへの書き込み

CD-RWモデルでCD-RまたはCD-RWに書き込みするときは、「Easy CD Creator」または「DirectCD」というアプリケーションを使用します。それぞれの機能や使用方法については、「Easy CD Creatorを使う」(→p.42)または「DirectCDを使う」(→p.44)をご覧ください。

■CD-RやCD-RWへ書き込むときの注意

- お客様がオリジナルのCD-ROM、音楽CD、ビデオCDなどからのコピー作成およびその利用のための著作権を所有していなかったり、著作権の所有者からコピーの許可を得ていない場合は、使用許諾条件または著作権法に違反する場合があります。コピーの際は、オリジナルのCDの使用許諾条件、複製に関する注意事項にしたがってください。
- Easy CD Creatorなど、Track at once(トラック アット ワンス)方式やDisk at once(ディスク アット ワンス)方式で書き込みを行うアプリケーションでは、CD-R、CD-RWへのデータ書き込み中に、他のアプリケーションを使用したり、自動的に省電力機能や一定時間が経過してスクリーンセーバーが働いたり、メールの自動受信プログラムなどが常駐していると、書き込みエラー(バッファアンダーラン)が発生する場合があります。書き込みエラーの発生を抑えるため、データ書き込みの際は、他の動作プログラムを閉じ、省電力機能や常駐するプログラムを無効(オフ)にすることをおすすめします。
- バッテリーの残量がなくなると、書き込みエラーの原因になります。バッテリーのみでパソコンを使用している場合は、書き込みを行う前にACアダプタを接続して、ACコンセントから電源を供給してください。



メモ

- ディスクにデータを書き込むために、パソコンはCD-RWDドライブにデータを転送しています。転送されてきたデータはCD-RWDドライブのバッファ(データの一時的な蓄積場所)に貯められてからディスクに書き込まれますが、途中で割り込んでくる操作(たとえばスクリーンセーバーの起動など)があると、バッファへのデータの転送に遅れが生じてバッファが空になってしまい、ディスクへの書き込みに失敗してしまうことがあります。このような現象を「バッファアンダーラン」と呼びます。
 - DirectCDなど、Packet Write(パケット ライト)方式で書き込みを行うアプリケーションでは、書き込みエラー(バッファアンダーラン)は起こりません。
-
- 書き込みに失敗したCD-Rは再生できなくなります。書き込みの失敗によるCD-Rの補償はできませんので注意してください。
 - DirectCDを使って、データの書き込みや削除をくりかえすと、CD-Rの空き容量が減っていきます。
 - フォーマット形式などによっては、他のCD-ROMドライブ、CD-RWDドライブでは使用できない場合があります。
 - 市販されているCD-RおよびCD-RWの一部に規格外の場合があります。規格外のCD-RおよびCD-RWでは正常に読み込めない場合があります。

- ・データを書き込んだCD-RWを他のパソコンで読む場合、マルチリード対応のCD-ROMドライブを使用してください。マルチリード対応CD-ROMドライブの確認は、各メーカーにお問い合わせください。



メモ

マルチリード対応のCD-ROMドライブとは、CD-RWを読み出せるようにしたCD-ROMドライブのことです。CD-RWはCD-ROMに比べて光の反射率が低い
ため、マルチリードに対応していないCD-ROMドライブでは読み出すことが
できません。

CD-ROMドライブまたはCD-RWドライブを使用するときの注意

- ・CD-ROMドライブまたはCD-RWドライブ内のレンズには触れないでください。指紋などの汚れによってデータが正しく読み取れなくなるおそれがあります。
- ・アクセスランプが点灯しているときは、ディスクを絶対に取り出さないでください。故障の原因となります。
- ・ディスクの盤面にはラベルやテープなどを貼らないでください。故障の原因となることがあります。また、ラベルやテープが貼られているなど、重心バランスの悪いディスクを使用すると、操作中に手に振動を感じる場合があります。
- ・接続していないCD-ROMドライブが存在する場合がありますが、これはVirtual CD 2によって作成された仮想CD-ROMドライブです。



参照

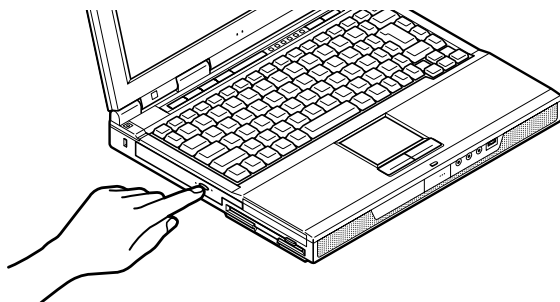
仮想CD-ROMドライブについて→「Virtual CD 2を使う」(p.37)

ディスクのセットのしかたと取り出しかた

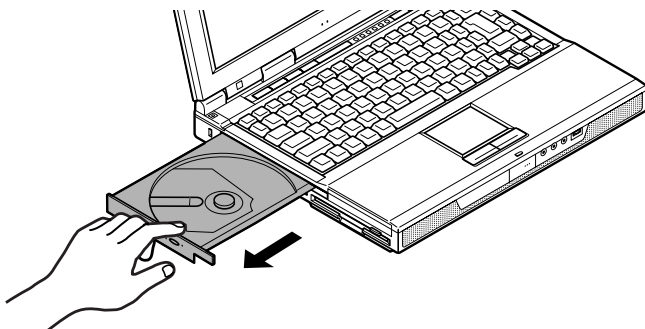
ディスクをセットする

1 電源が入っていない場合は、パソコンの電源を入れる

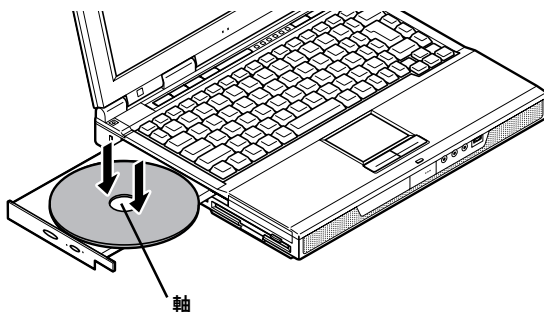
- 2** イジェクトボタンを押す
ディスクトレイが少し飛び出します。



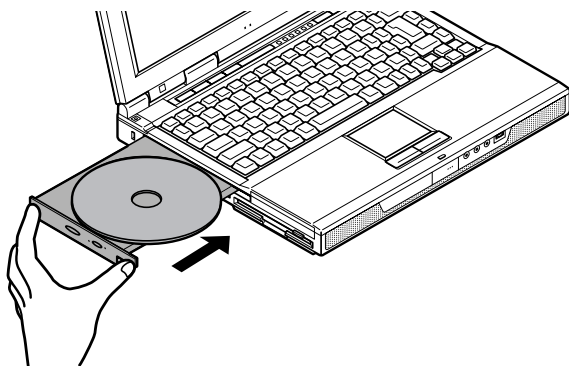
- 3** 手でディスクトレイを静かに引き出す



- 4** ディスクのデータ面（文字などが印刷されていない面）を下にして、傷など付けないようディスクトレイの中央に置き、ディスクを軸にしっかりはめ込む



- 5 イジェクトボタンに触れないようにディスクトレイ前面を押して、ディスクトレイを元の位置に戻す



メモ

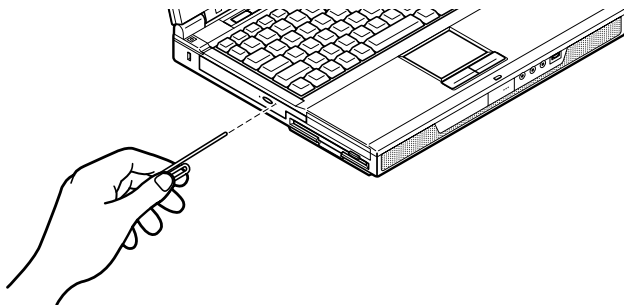
「CDプレーヤー」を使用する場合、CD-ROMドライブまたはCD-RWドライブにディスクをセットしていない状態では、「CDプレーヤー」の「取り出し」ボタンを押してもディスクトレイは出てきません。ディスクトレイを出すためには、CD-ROMドライブまたはCD-RWドライブのイジェクトボタンを押すか、「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックして対象となるドライブのアイコンを右クリックし、「取り出し」メニューを選んでください。

ディスクを取り出す

- 1 電源が入っていない場合は、パソコンの電源を入れる
- 2 イジェクトボタンを押す
ディスクトレイが少し飛び出します。
- 3 手でディスクトレイを静かに引き出してから、ディスクを取り出す
- 4 イジェクトボタンに触れないようにディスクトレイの前面を押して、ディスクトレイを元の位置に戻す

ディスクを取り出せなくなったときは

ソフトウェアの暴走など不慮の原因で、イジェクトボタンを押してもディスクトレイが出てこなくなった場合は、非常時ディスク取り出し穴に太さ1.3 mm程の針金を押し込むと、トレイを手動で引き出すことができます。針金は太めのペーパークリップなどを引き伸ばして代用できます。



チェック

イジェクトボタンを押してもディスクトレイが出てこない、といった非常時以外は、非常時ディスク取り出し穴を使わないようにしてください。

CD制御ボタンを使う

このパソコンにはCD制御ボタンが内蔵されています。CD制御ボタンでは、CDを再生するための「プレーヤー-NX」の操作を行うことができます。

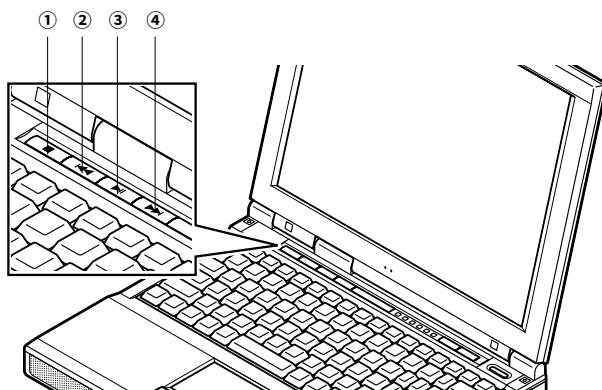


参照

「プレーヤー-NX」の使いかた→「サポートセンタ」-「パソコンを使いこなそう」-「添付ソフトの使い方」-「プレーヤー-NX」

各ボタンの役割

それぞれのボタンの役割は、次のとおりです。



	ボタン	機能
①	■	停止／ディスクの取り出し
②	◀◀	前のトラック／巻き戻し
③	▶	再生／一時停止
④	▶▶	次のトラック／早送り

Virtual CD 2を使う

Virtual CD 2は、パソコンに仮想CD-ROMドライブを追加して、そのドライブで利用できる仮想CDを作成し、利用するためのアプリケーションです。作成した仮想CD-ROMドライブは、Windows上で通常のCD-ROMドライブを扱うような感覚で利用できます。



メモ

仮想CDとは、CD-ROMや音楽CDの内容をハードディスク上に1つのファイルとしてまとめたもので、Virtual CD 2によって追加された仮想CD-ROMドライブで利用することができます。

■ Virtual CD 2のおもな機能

Virtual CD 2には次のような機能があります。

- 仮想CD-ROMドライブとハードディスクドライブ上の仮想CDを使用するので、CD-ROMなどのディスクを利用するたびに入れ替えたり、外出時に持ち歩いたりする必要がなくなります。
- ハードディスクドライブ上の仮想CDを使用するので、通常のCD-ROMドライブにくらべて高速にデータの読み出しができます。

- 仮想CD-ROMドライブを最大20台まで追加して使用できます。また、複数の仮想CD-ROMドライブを同時に使用できます。
- 通常のCD-ROMだけでなく、音楽CDを仮想CDにすることができます。
- 仮想CDは必要に応じてデータを圧縮できるので、ハードディスクの容量に応じて作成することができます。

Virtual CDマネージャの起動と終了

■ 起動する

Virtual CDマネージャは、CD-ROMから仮想CDを作成したり、仮想CD-ROMドライブに仮想CDをセットしたり、取り出すためのアプリケーションです。次の手順で起動してください。

- 1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「Virtual CD」→「Virtual CDマネージャ」をクリックする
「Virtual CDマネージャ」が表示されます。
著作権についての注意事項が書かれた画面が表示された場合は、「OK」ボタンをクリックしてください。



メモ

タスクトレイに表示されているをダブルクリックして起動することもできます。

■ 終了する

Virtual CDマネージャを終了するときは、「Virtual CDマネージャ」画面のをクリックしてください。

仮想CDを作成する

CD-ROMなどを仮想CD-ROMドライブで使用するには、CD-ROMから仮想CD(VCDファイル)を作る必要があります。仮想CDの作成は次の手順で行います。

- 1 仮想CDとして作成したいCD-ROMをCD-ROMドライブまたはCD-RWドライブにセットする
- 2 「Virtual CDマネージャ」を起動する
- 3 ツールバーのをクリックする
「VCDの構築」の画面が開きます。



- 4 「コピー元」欄の「CD-ROM」が、CD-ROMをセットしたドライブになっていることを確認する
ドライブが違っている場合は、をクリックして正しいドライブを選んでください。
- 5 「コピー先」の「ファイルの場所」で仮想CDを作成するドライブを選び、ファイル名を入力する
- 6 データ圧縮を行う場合は、「データ圧縮を使う」を☒にして、圧縮の比率を選ぶ
- 7 「VCDの説明」欄に、作成する仮想CDの説明を入力する
- 8 「OK」ボタンをクリックする
仮想CDの作成がはじまります。

音楽CDをVCDファイルにする

Virtual CD 2では音楽CDの仮想CDを作成して再生することができます。また、好きな曲だけを選んで仮想CDにすることも可能です。音楽CDを仮想CDにするときは次の手順で行います。

- 1 仮想CDとして作成したい音楽CDをCD-ROMドライブまたはCD-RWドライブにセットする
- 2 「Virtual CDマネージャ」を起動する
- 3 ツールバーの  をクリックする
「CDオーディオからのVCD作成」の画面が開きます。



- 4 「トラック選択」の「CD-ROM」が、音楽CDをセットしたドライブになっていることを確認する
ドライブが違っている場合は、 をクリックして正しいドライブを選んでください。
- 5 「トラック選択」で曲を選ぶ
一度クリックすると反転表示になり選択されます。もう一度クリックすると選択を解除します。
- 6 「記録先」の「フォーマット選択」ボタンをクリックする
「サウンドの選択」の画面が表示されます。
- 7 「サウンド名」の ☒ をクリックして音質を選ぶ
より細かく設定したい場合は「形式」や「属性」で設定してください。
- 8 「OK」ボタンをクリックする
「サウンドの選択」の画面が閉じます。
- 9 「ファイル名」と「説明」を入力する

- 10 「ボリュームコントロール」ボタンをクリックする
「ボリュームコントロール」の画面が表示されます。

- 11 録音レベルを調節する



参照

録音レベルの調節→このPARTの「サウンド機能」(p.85)

- 12 「ボリュームコントロール」のをクリックして画面を閉じる

- 13 「録音開始」ボタンをクリックする

仮想CDの作成がはじまります。

仮想CDの作成が終了すると、「VCD (CD オーディオ) の作成に成功しました。」と表示されます。

- 14 「OK」ボタンをクリックする

作成した仮想CDを使う

■ 仮想CDをセットする

- 1 「Virtual CDマネージャ」を起動する
- 2 左側の「VDrive」ウィンドウで使用する仮想CD-ROMドライブを選ぶ
- 3 右側のウィンドウで使用する仮想CDを選ぶ
- 4 ツールバーのをクリックする

■ 仮想CDを使う

「仮想CDをセットする」の手順にしたがってセットしたあとは、通常のCD-ROMドライブにCD-ROMがセットされているのと同じように、仮想CD-ROMドライブを使用することができます。

■ 仮想CDを取り出す

- 1 「Virtual CDマネージャ」を起動する
- 2 左側の「VDrive」ウィンドウで仮想CDを取り出したい仮想CD-ROMドライブを選ぶ
- 3 ツールバーのをクリックする



参照

Virtual CD 2の詳しい使いかたについて→「Virtual CD 2 マニュアル」



メモ

「Virtual CD 2 マニュアル」は、「スタート」ボタン→「プログラム」→「Virtual CD」→「Virtual CD 2 マニュアル」をクリックすると表示されるオンラインのマニュアルです。

Easy CD Creatorを使う

Easy CD Creatorは、CD-RやCD-RWにデータを書き込むことができるアプリケーションです。データを書き込む以外にも、音楽CDを作成したり、CD全体のバックアップなどの機能があります。ここでは、基本的なデータを書き込む操作について説明します。そのほかの機能について詳しくは、ヘルプをご覧ください。



メモ

Easy CD Creatorで書き込んだCD-RWは、マルチリード対応のCD-ROMドライブで読み出すことができます。

データを書き込む

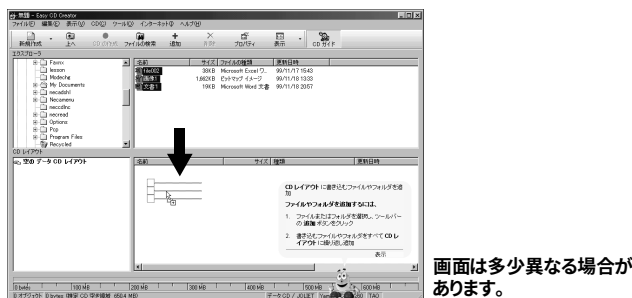
ここでは、CD-RWを使ったデータの書き込みについて説明します。はじめに、CD-RWを用意しておいてください。なお、CD-Rの場合でも同様の手順で利用できます。その際はCD-RWをCD-Rに読み替えてください。

- 1 CD-RWをCD-RWドライブにセットする
「作成したいCDの種類を選択してください。」というウィンドウが自動的に開いた場合は、ウィンドウ右下の「×」のイラストをクリックしてウィンドウを閉じてください。
- 2 「スタート」ボタン→「プログラム」→「Adaptec Easy CD Creator 4」→「Features」→「Easy CD Creator」をクリックする

3 画面の上段で、書き込みたいデータがあるフォルダを選び、データのファイル名を表示させる



4 書き込みたいデータのファイル名を選んで、画面の下段にドラッグ&ドロップする 書き込むデータが画面の下段に表示されます。このとき、まだ書き込みは開始していません。



メモ

- ・ ファイル名を選んだ後、 (追加) ボタンを押しても同様の操作ができます。
- ・ 書き込みたいデータがほかにもある場合は、手順 3～4 をくりかえしてください。
- ・ 下段に表示されたデータの中で書き込みを取りやめたいものがあれば、そのファイル名を選んで  (削除) ボタンをクリックしてください。

- 5  (CDの作成) ボタンをクリックする
- 6 「CD作成セットアップ」画面が表示されるので、「OK」ボタンをクリックする書き込みを開始します。
- 7 書き込み終了後、「OK」ボタンをクリックする
- 8 画面右上の  ボタンをクリックし、Easy CD Creatorを終了する
「CDレイアウトの変更を無題に保存します。」というメッセージが表示されます。書き込みが正常に終了した場合は保存の必要がないので、「いいえ」をクリックしてください。書き込みに失敗した場合や同じデータを別のCD-RWに書き込む場合は、「はい」をクリックして保存してください。

DirectCDを使う

DirectCDを使うと、フロッピーディスクやハードディスクと同じような感覚で、CD-RやCD-RWにデータを保存したり移動したりすることができます。簡単にデータを保存することができますので、データのバックアップなどに適しています。ここでは、DirectCDを使ってCD-RWまたはCD-Rにデータを書き込むときの基本的な操作を説明しています。そのほかの機能や使いかたについて詳しくは、ヘルプをご覧ください。

準備をする

DirectCDで使用するCD-RまたはCD-RWは、フォーマットされている必要があります。データを書き込む前に、次の手順でフォーマットしてください。すでにフォーマットされたCD-RWまたはCD-Rを使用する場合は、この手順は必要ありません。次の「DirectCDで書き込む」(→p.45)の手順でデータの書き込みを行ってください。

- 1 CD-RまたはCD-RWをCD-RWドライブにセットする
「作成したいCDの種類を選択してください。」というウィンドウが自動的に開いた場合は、ウィンドウ右下の「×」のイラストをクリックして、ウィンドウを閉じてください。フォーマット済みのCD-RまたはCD-RWをセットした場合、「CDの準備ができました」と表示されます。次の「DirectCDで書き込む」(→p.45)の手順2に進んで、データの書き込みを行ってください。
- 2 「スタート」ボタン→「プログラム」→「Adaptec DirectCD」→「DirectCD ウィザード」をクリックする
Adaptec DirectCD ウィザードの画面が表示されます。
- 3 「次へ」をクリックする
レコーダ情報の画面が表示されます。

- 4 「次へ」ボタンをクリックする
CDのフォーマットの画面が表示されます。
- 5 「次へ」をクリックする
CD名を付ける画面が表示されます。
- 6 「CD名」欄にCD名を入力して、「完了」ボタンをクリックする
CD名を付けておくと、あとから何のデータが入っているCDかを検索したいときに便利です。特に付ける必要がない場合は、何も入力しないで「完了」ボタンをクリックしてください。
- 7 処理時間を確認する画面が表示された場合は、処理時間を確認して「OK」ボタンをクリックする
フォーマットがはじまりますので、そのまましばらくお待ちください。
フォーマットが終了すると「CDの準備ができました」と表示されます。
- 8 「OK」ボタンをクリックする
CD-RWドライブのウィンドウが自動的に開いた場合は、 ボタンをクリックしてウィンドウを閉じてください。

これで、CD-RまたはCD-RWをDirectCDで使用するための準備ができました。
このまま続けてデータの書き込みを行う場合は、次の「DirectCDで書き込む」の手順3に進んでください。

DirectCDで書き込む

- 1 DirectCDでフォーマットしたCD-RまたはCD-RWをCD-RWドライブにセットしていない場合はセットする
「CDの準備ができました」と表示されます。
- 2 「OK」ボタンをクリックする
- 3 CD-RまたはCD-RWにデータを書き込む
フロッピーディスクやハードディスクと同じように、「マイコンピュータ」や「エクスプローラ」を使ってデータを書き込むことができます。

CD-RまたはCD-RWを取り出す

DirectCDを使用しているときは、ディスクによって取り出し方が異なります。

■ CD-Rを取り出す

CD-Rを取り出すときは、DirectCDで書き込んだCD-RをほかのパソコンのCD-ROMドライブで読み出すことができるようにするかどうかを選ぶ必要があります。

- 1 CD-RWDライブのイジェクトボタンを押す
「CDの取り出し」の画面が表示されます。



メモ

タスクトレイに表示されているを右クリックし、表示されたメニューから「取り出し」をクリックしても同様の操作ができます。

- 2 CD-Rに、ほかのパソコンのCD-ROMドライブでも読み出せるように処理を行うかどうかを選ぶ

次もDirectCDで使用する場合は、「次回、このCDへはDirectCDで読み書きを行います。」がになっていることを確認してください。

ほかのパソコンのCD-ROMドライブで読み出したい場合は、「CD-ROMドライブで読み込めるようにCDを構成します。」のをにします。また、必要であれば「再び書き込みができないように、CDを書き込み禁止にする」をにしてください。



メモ

「CD-ROMドライブで読み込めるようにCDを構成します。」を選んで取り出した後、再度DirectCDで書き込みを行いたい場合は、を右クリックして「書き込み可能にする」を選び、設定を行ってください。

- 3 「完了」ボタンをクリックする
「CDは取り出されました。」と表示されるまで、そのまましばらくお待ちください。自動的にディスクトレイが少し飛び出します。

- 4 表示されているメッセージを確認して、「OK」ボタンをクリックする



チェック

書き込んだCD-Rを読み出すことができる環境についてのメッセージが表示されています。表示されたメッセージ以外の環境では、このCD-Rを読み出すことはできません。

- 5 CD-RWDドライブからCD-Rを取り出し、ディスクトレイを元の位置に戻す

■ CD-RWを取り出す

- 1 CD-RWドライブのイジェクトボタンを押す
しばらくすると、「CDは取り出されました。」と表示され、ディスクトレイが少し飛び出します。



メモ

タスクトレイに表示されているを右クリックし、表示されたメニューから「取り出し」をクリックしても同様の操作ができます。

- 2 表示されているメッセージを確認して「OK」ボタンをクリックする



チェック

書き込んだCD-RWを読み出すことができる環境についてのメッセージが表示されています。表示されたメッセージ以外の環境では、このCD-RWを読み出すことはできませんので注意してください。

- 3 CD-RWドライブからCD-RWを取り出し、ディスクトレイを元の位置に戻す

液晶ディスプレイ

画面表示を調整する

キーボードの【Fn】を使うと、次のような表示の調整ができます。

機能	キー操作	説明
ディスプレイ切り替え※1 ( / )	【Fn】+【F3】	別売のCRTディスプレイが接続されているとき、キーを押すごとに、「液晶ディスプレイとCRTの同時表示」→「テレビ」※2→「液晶ディスプレイ」→「CRT」の順に切り替わります(→p.129)。
輝度を上げる()	【Fn】+【F8】	キーを押すごとに、液晶ディスプレイの輝度が増加します(8段階)。
輝度を下げる()	【Fn】+【F9】	キーを押すごとに、液晶ディスプレイの輝度が低下します(8段階)。
画面の伸縮	【Fn】+【F10】	低解像度時に、ディスプレイの画面を拡大表示する／しないを切り替えます。

※1: Windows NTを使用している場合、この操作で表示するディスプレイを切り替えることはできますが、設定の変更は保存されず、解像度や色数をダイナミックに変更した場合などは、【Fn】+【F3】で表示先を変更する前の状態に戻ります。変更を保存する場合には、「コントロールパネル」で「画面」アイコンをダブルクリックして「画面のプロパティ」を開き、「ATI 画面」タブをクリックして表示される画面で表示先を変更してください。

※2: テレビが接続されているときのみ切り替わります。

表示するディスプレイを変更する

このパソコンは、液晶ディスプレイだけでなく、別売のCRTディスプレイやプロジェクタ、テレビなどに画面を表示することもできます。



チェック

複数のディスプレイで同時表示を行っているとき、一方のディスプレイにおいて、メディアプレーヤーなどでビデオCDが正しく表示されない場合があります。このディスプレイでビデオCDを表示させるには、「コントロールパネル」で「画面」アイコンをダブルクリックして「画面のプロパティ」を開き、「ATI 画面」タブをクリックして表示される画面で、ディスプレイのイラストの下にある水色の丸いボタンをクリックして、「プライマリ」に設定してください(液晶ディスプレイとTVを同時にプライマリに設定することはできません)。



参照

別売のディスプレイやプロジェクタ、テレビの接続→PART2の「外部ディスプレイを使う」(p.126)

表示できる解像度と表示色



メモ

解像度とは、ディスプレイの画面上に表示できる文字や図面などの情報量を表すものです。この数字が大きくなるほど、画面上に一度に多くの情報を表示することができ、より細かな表現ができます。

このパソコンの液晶ディスプレイは、標準で次の解像度と表示色を表示できます。

解像度 (ドット)	表示色	液晶 ディスプレイ のみに表示	別売の ディスプレイ のみに表示	液晶 ディスプレイ と別売の ディスプレイ の同時表示 ^{※1}	TVのみ
640×480	16色	●	○	●	○
	26万色中256色	●	○	●	○
	65,536色	●	○	●	○
	1,677万色 ^{※2}	●	○	●	○
800×600	26万色中256色	○	○	○	○
	65,536色 ^{※3}	○	○	○	○ ^{※3}
	1,677万色 ^{※2}	○	○	○	○
1,024×768	26万色中256色	◎ ^{※5}	○	◎ ^{※6}	○
	65,536色 ^{※4}	◎ ^{※5}	○	◎ ^{※6}	○
	1,677万色	◎ ^{※5}	○	◎ ^{※6}	○
1,280×1,024	26万色中256色	△	○	◎ ^{※6}	△
	65,536色	△	○	◎ ^{※6}	△
	1,677万色	△	○	◎ ^{※6}	△
1,600×1,200	26万色中256色	△	○	◎ ^{※6}	△
	65,536色	△	○	◎ ^{※6}	△

●：[Fn]を押しながら[F10]を押して拡大／縮小切り替え可能（縮小画面の場合、画面のまわりが黒く表示される）

○：14.1型モデルおよび13.3型モデルでは、画面のまわりが黒く表示される（[Fn]を押しながら[F10]を押して拡大表示可能）

◎：フルスクリーン表示可能

△：バーチャルスクリーン（→p.51）でのみ表示可能

※1：別売のCRT未接続時は、このパソコンの液晶ディスプレイのみに表示される

※2：このパソコンの液晶ディスプレイでは、ウィンドウアクセラレータのディザリング機能により実現

※3：12.1型モデルの購入時の設定

※4：14.1型モデル、13.3型モデルの購入時の設定

※5：14.1型モデルおよび13.3型モデルではフルスクリーン表示、12.1型モデルではバーチャルスクリーン表示（→p.51）

※6：解像度の組み合わせによってはバーチャルスクリーン表示（→p.51）



メモ

320×200ドット、320×240ドット解像度対応のアプリケーションなどは、このパソコンでは画面のまわりが黒く表示されます。

解像度と表示色の設定

ディスプレイの解像度と表示色の変更はコントロールパネルで設定します。

- 1 「コントロールパネル」を開き、「画面」アイコンをダブルクリックする
「画面のプロパティ」が表示されます。



- 2 「設定」タブをクリックする

- 3 「画面の領域」または「色」を変更する

画面の領域の変更をする場合

「画面の領域」でつまみを「大」の方向へドラッグすると高解像度に、「小」の方向へドラッグすると低解像度になります。

色の変更をする場合

「色」で  をクリックし、選択一覧から変更します。この選択一覧には、使用している液晶ディスプレイとディスプレイアダプタが対応しているカラーパレットが一覧表示されます。



メモ

High Colorとは65,536色のことで、True Colorは1,677万色のことです。

- 4 設定が終了したら、「OK」ボタンをクリックする
このあとは、画面の指示にしたがって操作してください。

バーチャルスクリーン

バーチャルスクリーンとは、実際に表示可能な解像度よりも大きい解像度を使用できるようにするための仮想画面のことです。バーチャルスクリーンでは、仮想画面全体のサイズが実際のディスプレイの画面より大きくなるので、ディスプレイには常に仮想画面の一部が表示されている状態となります。画面をスクロールすると、ディスプレイの画面上で見えていない部分を表示することができます。



メモ

バーチャルスクリーンでは、「スタート」ボタンがディスプレイの画面上から外れ、表示されないことがあります。ディスプレイの画面上の見えていない部分を見るには、ポインタをディスプレイの画面の端に移動させます。ポインタの移動した方向に画面がスクロールし、見えなかった部分が表示されます。

バーチャルスクリーンモードの設定方法

- 1 「コントロールパネル」を開き、「画面」アイコンをダブルクリックする
「画面のプロパティ」が表示されます。
- 2 「設定」タブをクリックし、「詳細」ボタンをクリックする
- 3 「モニタ」タブをクリックし、「変更」ボタンをクリックする
「デバイスドライバの更新ウィザード」が表示されます。
- 4 「次へ」ボタンをクリックする
- 5 検索方法で「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を作成し、インストールするドライバを選択する」を選び、「次へ」ボタンをクリックする
- 6 「すべてのハードウェアを表示」を選ぶ
- 7 「モデル」から「Super VGA 1600×1200」をクリックする
- 8 「次へ」ボタンをクリックし、再び「次へ」ボタンをクリックする
- 9 「完了」ボタンをクリックし、「閉じる」ボタンをクリックする
- 10 「OK」ボタンをクリックする
これで設定が完了しました。

このあとは、画面の指示にしたがって操作してください。上記の設定をしたあとは、「設定」タブで、次の解像度を設定できるようになります。

640×480ドット／800×600ドット／1,024×768ドット／1,280×1,024ドット／
1,600×1,200ドット

デュアルディスプレイ機能

デュアルディスプレイ(Dual Display)とは、CRTディスプレイなどの外部ディスプレイを接続したときに、本体の液晶ディスプレイと外部ディスプレイを使ってひとつの画面として表示できる機能です。液晶ディスプレイと外部ディスプレイを続き画面として利用できるので、表示できる範囲が広がります。



メモ

デュアルディスプレイ機能は、同じ画面を2つのディスプレイに表示するのは別の機能です。



チェック

画面の解像度によっては、デュアルディスプレイ表示にならない場合があります。



参照

別売のCRTディスプレイなどを接続するには→「外部ディスプレイを使う」(p.126)

デュアルディスプレイ機能を使う準備をする

画面を表示するディスプレイのオン／オフ、プライマリ／セカンダリを次の手順にしたがって設定します。

- 1 別売のディスプレイを接続し、電源を入れる(→p.127)
- 2 パソコンの電源を入れる
- 3 「コントロールパネル」を開き、「画面」アイコンをダブルクリックする
「画面のプロパティ」が表示されます。
- 4 「設定」タブをクリックし、「詳細」ボタンをクリックする
- 5 「ATI画面」タブをクリックする
「モニタ」「パネル」「テレビ」の接続状態が表示されます。
- 6 「モニタ」の左上のボタンをクリックする
接続したモニタへの表示がオンになります。



チェック

表示をすべてオフにすることはできません。どれかひとつはオンの状態になっています。

- 7 「モニタ」「パネル」の下ボタンをクリックする
「プライマリ」ディスプレイ、「セカンダリ」ディスプレイが指定されます。



チェック

すべてをセカンダリに設定することはできません。

接続が認識され、ディスプレイの表示がオンに設定されると、解像度とリフレッシュレート(水平同期周波数)が表示されます。

- 8 「OK」ボタンをクリックする

デュアルディスプレイ機能を使う

- 1 「コントロールパネル」を開き、「画面」アイコンをダブルクリックする
「画面のプロパティ」が表示されます。
- 2 「設定」タブをクリックする
- 3 「2」と表示されたディスプレイのイラストをクリックする
モニタの使用を確認するメッセージが表示されます。
- 4 「はい」ボタンをクリックする
- 5 「適用」ボタンをクリックする
これでデュアルディスプレイ機能を使うことができます。

デュアルディスプレイ機能を解除する

- 1 「デュアルディスプレイ機能を使う」の手順1～2を行う
- 2 「2」と表示されたディスプレイのイラストを右クリックする
- 3 表示されたメニューから「使用可能」をクリックする
- 4 「適用」ボタンをクリックする
これでデュアルディスプレイ機能は解除されました。

バッテリー

バッテリーのみで使う

このパソコンは、ACアダプタを使用せずにバッテリーだけで駆動することができます。バッテリーだけでの駆動時間は限られていますので、長時間使用する場合は、省電力機能を使用することをおすすめします。



参照

省電力機能について→このPARTの「省電力機能」(p.62)

さらに次のような点に気をつけると、バッテリーパックを長持ちさせることができます。

- ・バッテリーの残量をできるだけなくしてから充電する
- ・充電はフル充電(バッテリー充電ランプが消灯)になるまで中断しない
- ・定期的にバッテリーリフレッシュを実行する(→p.57)
- ・このパソコンを1カ月以上使わないときは、バッテリーパックを取り外して、涼しいところに保管する



メモ

バッテリーは自然放電していますので、使用していない場合でも2〜3カ月に一度は充電することをおすすめします。

バッテリーを充電する



チェック

- ・バッテリーの充電中は、バッテリーパックをパソコンから取り外さないでください。ショートや接触不良の原因になります。
- ・購入直後や長時間放置したバッテリーでは、バッテリー駆動ができないことや動作時間が短くなること、バッテリー残量が正しく表示されないことがあります。必ずフル充電してから使用してください。
- ・充電を行う際にはできるだけフル充電するようにしてください。バッテリー残量が少ない場合などに少量の充放電を何度もくりかえして使用すると、バッテリー残量に誤差が生じることがあります。

バッテリーの充電のしかた

バッテリーパックを取り付けてACアダプタをACコンセントに接続すると、自動的にバッテリーの充電が始まります。

パソコンの電源を入れて使用しているときでもバッテリーは充電されます。



メモ

充電できる電池容量は、周囲の温度によって変わります。また、高温になると充電が中断されることがありますので、18～28℃での充電をおすすめします。



参照

バッテリーの充電時間について→PART6の「機能一覧」(p.214, 217)

充電状態を表示ランプで確認する

バッテリーの充電状態を、バッテリー充電ランプ(□)で確認することができます(→p.5)。

ランプ		状態
オレンジ	点灯	バッテリー充電中
	点滅	バッテリーのエラー※
消灯		ACアダプタが接続されていない、または充電完了

※：バッテリーを取り付けなおしてもエラーが出るときは、バッテリーリフレッシュを行ってください(→p.57)。

バッテリーの残量を確認する

バッテリー残量は、次の3つの方法で確認することができます。

- Windowsのタスクトレイにある の上にポインタを合わせる



アイコンはバッテリーの残量により異なります。

- タスクトレイのをダブルクリックして、表示された「電源メーター」ウィンドウを見る



- 「コントロールパネル」を開き、「電源の管理」アイコンをダブルクリックして、表示された「電源の管理のプロパティ」ウィンドウの「電源メーター」タブを見る



メモ

ACコンセントから電源を供給しているときは、はに変わります。

バッテリー駆動中にバッテリー残量が少なくなったときは

バッテリーの残量が少なくなると、警告音が3回鳴り、電源ランプ(④)が黄色に点灯します。この場合は、次の操作を行ってください。次の操作をしないでそのままにしておくと、再度バッテリー残量が少ないというメッセージが表示され、しばらくすると自動的に休止状態(→p.66)になります。

- ACコンセントから電源を供給する
いったんパソコンの電源を切り、ACアダプタを接続してACコンセントから電源を供給してください。ACコンセントから電源を供給すると、バッテリー充電ランプ(□)が点灯し、バッテリーの充電がはじまります。
- ACコンセントが使えない場合
使用中のアプリケーションを終了して、パソコンの電源を切ってください。



チェック

フロッピーディスクやハードディスクの読み書き中にバッテリー残量がなくなり、電源が切れてしまうと、作成中のデータが失われたり、フロッピーディスクやハードディスクのデータが失われたり、壊れたりすることがあります。

バッテリーリフレッシュ

バッテリーリフレッシュは、一時的に低下したバッテリーの性能を回復させるときに行います。次のようなときには、バッテリーリフレッシュを実行してください。

- バッテリーでの駆動時間が短くなった
バッテリーを完全に使い切らないまま充電をくりかえしていると、バッテリーの充電可能容量が目減りして、駆動時間が短くなる場合があります。これをバッテリーのメモリ効果と呼びます。
- 購入直後や、長期間の放置で、バッテリーの性能が一時的に低下した
- バッテリーの残量表示に誤差が生じている
バッテリーの充電が完了し、バッテリー充電ランプ(□)が消えてしばらくしても、バッテリーの残量表示が95%以上にならない場合は、バッテリーの残量表示に誤差が生じていると考えられます。

バッテリーリフレッシュの実行

- 1 パソコンを使用中の場合は、「スタート」ボタン→「Windowsの終了」で「電源を切れる状態にする」を選び、「OK」ボタンをクリックして電源を切る
- 2 バッテリーパックを取り付けていない場合は、バッテリーパックを本体に取り付ける(→p.61)
- 3 パソコンにACアダプタを接続していない場合は、ACアダプタを接続し、電源コードをACコンセントに接続する

- 4 バッテリ充電ランプが点滅している場合は、一度バッテリパックを本体から外して、再度取り付ける
- 5 バッテリをフル充電(バッテリ充電ランプが消灯した状態)まで充電する
- 6 電源を入れ、「NEC」のロゴが表示されたらすぐに【F2】を押す
BIOSセットアップメニューが表示されます。
- 7 電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタを本体から取り外す
- 8 【↑】または【↓】で「バッテリリフレッシュ」を選び、【Enter】を押す
- 9 「バッテリリフレッシュを行いますか?」と表示されたら、「はい」を選んで【Enter】を押す
次ような画面が表示されます。



- 10 【↑】または【↓】で「Continue Battery Refresh」を選んで【Enter】を押す
次のような画面が表示され、バッテリリフレッシュが始まります。
バッテリリフレッシュが完了し、バッテリ内の電力がなくなると自動的にパソコンの電源が切れますので、電源が切れるまでお待ちください。

Battery Refresh Now(55% LEFT).....Don't close Display.....Prease ESC Key to Cancel



チェック

バッテリリフレッシュ中は、液晶ディスプレイを開いたままにしてください。液晶ディスプレイを閉じると、ビビビと警告音が鳴ります。



メモ

バッテリリフレッシュの所要時間の目安は、標準バッテリ使用時で約160分です。

■ バッテリリフレッシュを中断する

バッテリリフレッシュを中断するときは、次の手順で行ってください。

1 【Esc】を押す

次のようなメッセージが表示されます。



2 【↑】または【↓】で「Cancel Battery Refresh」を選び、【Enter】を押す 再起動します。



バッテリリフレッシュ中にパソコンの電源を切ろうとしたり、ACアダプタを接続したときも、バッテリリフレッシュの中断を確認するメッセージが表示されます。バッテリリフレッシュを続ける場合は「Continue Battery Refresh」を選んでください。中断する場合は「Cancel Battery Refresh」を選ぶと、バッテリリフレッシュを中断して再起動します。

バッテリーパックを交換する

交換の目安

フル充電（バッテリーを充電してバッテリー充電ランプ（）が消灯した状態）にしても使用できる時間が短くなったら、バッテリリフレッシュ（→p.57）を行ってください。それでも使用できる時間が回復しないときは、新しいバッテリーパックを購入して交換してください。

■ 交換用のバッテリーパック

このパソコンに取り付けられる交換用バッテリーパックは次の2種類です。

- PC-VP-WP12（リチウムイオンバッテリーパック）
- PC-VP-WP13（ニッケル水素バッテリーパック）



リチウムイオンバッテリーパックを取り付けると、ニッケル水素バッテリーパックを取り付けた場合よりも、バッテリー駆動時間が20%程度長くなります。

バッテリーパックの交換のしかた

⚠ 警告



感電注意

- 雷が鳴りだしたら、本機や電源コードに触れないでください。また、機器の接続や取り外しを行わないでください。落雷による感電のおそれがあります。



破裂注意



毒物注意

- 使用を終えたバッテリーパックを分解したり、火気に投じることは危険です。絶対にしないでください。破裂したり、液漏れしたりすることがあります。

⚠ 注意



感電注意

- 濡れた手で電源コードを抜き差ししないでください。感電の原因となります。

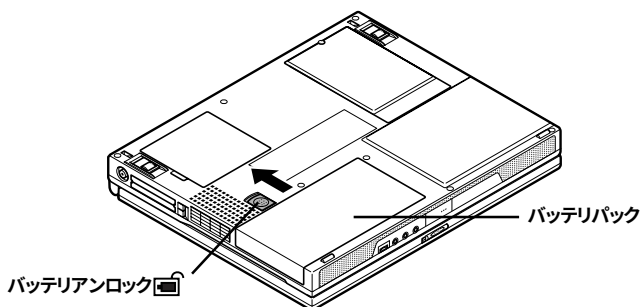


チェック

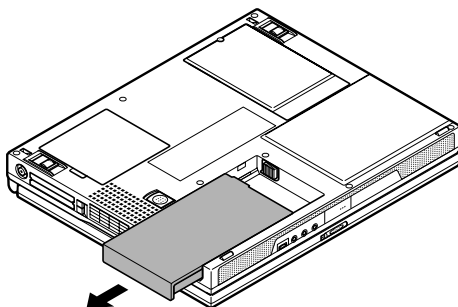
- ・ バッテリスロットの端子部分には絶対に触れないでください。接触不良の原因となります。
- ・ スタンバイ状態のときにバッテリーパックを交換すると、作業中のデータが失われます。電源ランプ(④)が点滅しているときには、一度スタンバイ状態から復帰し、作業中のデータを保存してからWindowsを終了し、パソコンの電源を切ってください。
- ・ 特に必要でない限り、バッテリーパックの取り付けや取り外しをしないでください。故障の原因になります。

- 1 パソコンを使用中の場合は、「スタート」ボタン→「Windowsの終了」で、「電源を切れる状態にする」を選び、「OK」ボタンをクリックして電源を切る
- 2 電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタを本体から取り外す
- 3 液晶ディスプレイを閉じて、本体を裏返す

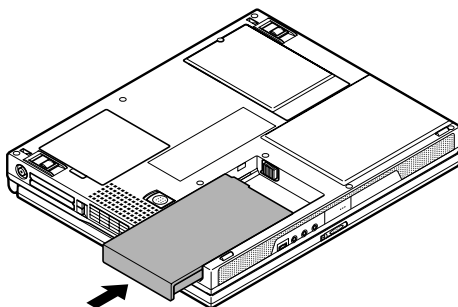
- 4** バッテリーパックの横にあるバッテリーアンロック (🔓) を矢印の方向にスライドさせる
スライドさせたままの状態、そのまま次の手順へ進んでください。



- 5** バッテリーパックを矢印の方向にスライドさせる
バッテリーパックが外れます。



- 6** 新しいバッテリーパックを矢印の方向にカチッと音がするまでスライドさせる



省電力機能

省電力機能とは

省電力機能とは、CPUやハードディスク、ディスプレイといった、パソコンの主要な部分への電力供給を停止することで、本体の消費電力を抑える機能です。また、作業を一時的に中断したいときや、中断した作業をすぐに再開したいときにも便利な機能です。

このパソコンの省電力機能

このパソコンの省電力機能には、「スタンバイ状態(サスペンド)」、「休止状態(ハイバネーション)」、「パワーマネージメント」の機能があります。また、「スタンバイ状態」と「休止状態」を合わせて「スリープ状態」と呼ぶこともあります。

● スタンバイ状態(サスペンド)

作業中のデータを一時的にメモリに保存し、消費電力を抑える機能です。スタンバイ状態のことを「サスペンド」と呼ぶこともあります。データはメモリに保存されているため、すぐに元の状態に戻すことができます。元の状態に戻すことを「復帰(レジューム)」と呼びます。



参照

スタンバイ状態にする→「スタンバイ状態(サスペンド)」(p.63)

● 休止状態(ハイバネーション)

作業中のデータをハードディスクに保存し、電源を切る機能です。休止状態のことを「ハイバネーション」と呼ぶこともあります。普通に電源を切るのとは異なり、次に電源を入れるときに、Windows 98を起動する操作をせずに、すぐに元の状態に戻すことができます。元の状態に戻すことを「復帰(レジューム)」と呼びます。データを保持するための電力を消費しないので、長時間作業を中断するときなどに便利です。



参照

休止状態にする→「休止状態(ハイバネーション)」(p.66)

● パワーマネージメント

バッテリー駆動時などに、無駄な電力の消費を抑える機能です。BIOSセットアップメニューで設定し、キーボードを使って節電モードを切り替えるパワーマネージメントと、Windows 98のコントロールパネルで設定するパワーマネージメントの2種類があります。



参照

パワーマネージメントを利用する→「パワーマネージメント」(p.70)

スタンバイ状態(サスペンド)

スタンバイ状態を利用できないとき

次のようなときには、スタンバイ状態にしないでください。パソコンが正常に動かなくなったり、スタンバイ状態から正しく復帰できなくなることがあります。

- ・ ネットワーク(LAN)に接続しているとき
- ・ プリンタへ出力中
- ・ 赤外線通信をしているとき(赤外線通信アプリケーションを実行中)
- ・ 通信用アプリケーションを実行中
- ・ 電話回線を使って通信中
- ・ 音声または動画を再生中
- ・ ハードディスク、CD-ROMなどのディスク、フロッピーディスクにアクセス中
- ・ システムの「プロパティ」ウィンドウを表示中
- ・ Windowsの起動／終了処理中
- ・ スタンバイ状態に対応していないアプリケーションを使用中
- ・ スタンバイ状態に対応していないPCカードを使用中

スタンバイ状態のときの注意

スタンバイ状態のときは、次のことに注意してください。

- ・ スタンバイ状態のときにバッテリーの残量がなくなると、自動的に休止状態になります。休止状態への移行中は、パソコンに衝撃や振動を加えないでください。故障やデータ消失の原因となります。また、バッテリーのみで使用している場合は、あらかじめバッテリーの残量を確認しておいてください。
- ・ スタンバイ状態への移行中は、各種ディスクやPCカードの入れ替えなどを行わないでください。データが正しく保存されないことがあります。
- ・ スタンバイ状態のときに、PCカードを入れ替えるなどの機器構成の変更をすると、スタンバイ状態から正しく復帰できなくなることがあります。

スタンバイ状態にする

次のいずれかの方法で、スタンバイ状態にすることができます。
スタンバイ状態になると、電源ランプ(④)が緑色に点滅します。

- Windowsの「スタート」メニュー→「Windowsの終了」で「スタンバイ」を選び、「OK」ボタンをクリックする
- 【Fn】+【F4】を押す



メモ

上記の方法でスタンバイ状態にできるのは、BIOSセットアップメニューの「省電力セットアップ」→「スリープ種別」を「サスペンド」に設定してある場合です。購入時は「サスペンド」に設定してありますので、設定を変更していない場合は、特に設定する必要はありません。

- 【Fn】+【Esc】を押す

ほかにも、設定を行うことにより、次のような方法でスタンバイ状態にできます。

スタンバイ状態にする方法	設定方法
自動	「コントロールパネル」を開き、「電源の管理」→「電源設定」タブの「システムスタンバイ」で設定
液晶ディスプレイを閉じる	BIOSセットアップメニューの「省電力セットアップ」→「LCDパネル連動スリープ」を「使用する」に設定
電源スイッチを押す	BIOSセットアップメニューの「省電力セットアップ」→「システムスイッチ切り替え」を「スリープボタン」に設定



メモ

- ・ ATAカードをセットした状態でスタンバイ状態にすると、スタンバイ状態になるまでに時間がかかる場合があります。
- ・ 「スタート」ボタン→「設定」→「アクティブデスクトップ」の「Webページで表示」を ☒ にしていると、自動的にスタンバイ状態にできない場合があります。この場合は、「Webページで表示」を ☐ にしてください。

スタンバイ状態から復帰するときの注意

スタンバイ状態から復帰させるときには、次のことに注意してください。

- スタンバイ状態にしてからすぐに復帰させたいときは、パソコンに負担がかからないよう、スタンバイ状態になった後、約5秒以上たってから操作してください。
- スタンバイ状態のときにPCカードの入れ替えや周辺機器の取り付け／取り外しなどの機器構成の変更をすると、正常に復帰できなくなることがあります。
- CD-ROMドライブまたはCD-RWドライブにフォトCDを入れたままスタンバイ状態にした場合、復帰に時間がかかることがあります。
- スタンバイからの復帰時にパスワードを入力するように設定してある場合は、パスワード入力画面でパスワードを入力します。



参照

パスワード設定時のスタンバイからの復帰→このPARTの「パスワードを設定するときの復帰のしかた」(p.77)

スタンバイ状態から復帰する

スタンバイ状態から元の状態に戻すことを「復帰」または「レジューム」といいます。スタンバイ状態からの復帰は次の方法で行うことができます。

- 電源スイッチを押す
- ディスプレイを開く

次の設定を行うことにより、リモートで復帰させたり、時刻を指定して自動で復帰させることもできます。

レジュームする方法	設定方法
リモート電源制御	BIOSセットアップメニューの「省電力セットアップ」→「リモート電源制御」を「使用する」に設定
時刻指定によるレジューム	Windows 98の「タスク スケジューラ」※を使う

※:「タスク スケジューラ」については、Windowsのヘルプをご覧ください。

休止状態(ハイバネーション)

休止状態を利用できないとき

次のようなときには、休止状態にしないでください。パソコンが正常に動かなくなったり、休止状態から正しく復帰できなくなることがあります。

- ・ ネットワーク(LAN)に接続しているとき
- ・ プリンタへ出力中
- ・ 赤外線通信をしているとき(赤外線通信アプリケーションを実行中)
- ・ 通信用アプリケーションを実行中
- ・ 電話回線を使って通信中
- ・ 音声または動画を再生中
- ・ ハードディスク、CD-ROMなどのディスク、フロッピーディスクにアクセス中
- ・ システムの「プロパティ」ウィンドウを表示中
- ・ Windowsの起動／終了処理中
- ・ 休止状態に対応していないアプリケーションを使用中
- ・ 休止状態に対応していないPCカードを使用中

休止状態のときの注意

休止状態のときは、次のことに注意してください。

- ・ 休止状態への移行中は、各種ディスクやPCカードの入れ替えなどを行わないでください。データが正しく保存されないことがあります。
- ・ 休止状態のときに、PCカードを入れ替えるなどの機器構成の変更をすると、休止状態から正しく復帰できなくなることがあります。

休止状態にする

休止状態にするには、次の方法で行います。

- 【Fn】を押したまま電源スイッチを押す
「Suspend to Disk」の表示とともに、作業状況を示す棒グラフが表示されます。休止状態になると、電源ランプ(①)が消灯し、パソコンの電源が切れます。

ほかにも、休止状態にするには次のような方法がありますが、それぞれの方法で休止状態にできるようにするためには設定が必要です。

休止状態にする方法	設定方法
自動	①BIOSセットアップメニューの「省電力セットアップ」→「スリープ種別」を「ハイバネーション」に設定 ②「コントロールパネル」を開き、「電源の管理」→「電源設定」の「システムスタンバイ」で設定
Windowsの「スタート」メニュー→「Windowsの終了」で「スタンバイ」を選び、「OK」ボタンをクリックする	①BIOSセットアップメニューの「省電力セットアップ」→「スリープ種別」を「ハイバネーション」に設定
【Fn】+【F4】を押す	
液晶ディスプレイを閉じる	BIOSセットアップメニューの「省電力セットアップ」で以下を設定 ①「スリープ種別」を「ハイバネーション」に設定 ②「LCDパネル連動スリープ」を「使用する」に設定
電源スイッチを押す	BIOSセットアップメニューの「省電力セットアップ」で以下を設定 ①「スリープ種別」を「ハイバネーション」に設定 ②「システムスイッチ切り替え」を「スリープボタン」に設定



メモ

- ・ATAカードをセットした状態で休止状態にすると、時間がかかる場合があります。
- ・「スタート」ボタン→「設定」→「アクティブデスクトップ」の「Webページで表示」を ☒ にしていると、自動的に休止状態にできない場合があります。この場合は、「Webページで表示」を ☐ にしてください。

休止状態から復帰するときの注意

休止状態から復帰させるときには、次のことに注意してください。

- ・休止状態にしてからすぐに復帰させたいときは、パソコンに負担がかからないよう、休止状態になった後、約5秒以上たってから操作してください。
- ・休止状態のときにPCカードの入れ替えや周辺機器の取り付け／取り外しなどの機器構成の変更をすると、正常に復帰できなくなることがあります。
- ・CD-ROMドライブまたはCD-RWドライブにフォトCDを入れたまま休止状態にした場合、復帰に時間がかかることがあります。
- ・休止状態からの復帰時にパスワードを入力するように設定してある場合は、パスワード入力画面でパスワードを入力します。



参照

パスワード設定時の休止状態からの復帰→「パスワードを設定しているときの復帰のしかた」(p.77)

休止状態から復帰する

休止状態から元の状態に戻すことを「復帰」または「レジューム」といいます。休止状態からの復帰は次の方法で行います。

● 電源スイッチを押す

「Resuming from Disk」の表示とともに、作業状況を示す棒グラフが表示され、復帰が完了すると、元の状態(休止状態に入る前)の画面が表示されます。

休止状態の設定の解除と再設定

休止状態中は、元の状態をハードディスクにファイルとして保存します。このファイルのことを「休止状態のためのファイル」または「ハイバネーション用ファイル」と呼び、購入時には、あらかじめ用意されています。その休止状態ためのファイルをいったん削除することを「休止状態の設定の解除」と呼び、メモリの取り付け／取り外しを行ったり、ドライブの圧縮／圧縮解除を行ったときには、この「休止状態の設定の解除」を行う必要があります。

設定を解除したあと、再び休止状態を利用したいときは、「休止状態の再設定」で休止状態のためのファイルを作成する必要があります。

■ 休止状態の設定を解除する

休止状態の設定を解除するには、「ハイバネーション設定ユーティリティ」を使います。



チェック

「ハイバネーション設定ユーティリティ」は、MS-DOSモードで起動します。
Windows 98の「MS-DOSプロンプト」ウィンドウでは実行できません。

- 1 「スタート」ボタン→「Windowsの終了」で「MS-DOSモードで再起動する」を選ぶ
- 2 「OK」ボタンをクリックする
MS-DOSモードで再起動します。
- 3 次のように入力する

HIBEROFF

4 次のようなメッセージが表示されたら、電源スイッチ(⏻)を押してパソコンの電源を切る

ハイバネーション用ファイルを削除しました。
電源を切って5秒以上たってから再び電源を入れてください。
再起動後、BIOSセットアップメニューでハイバネーションに
関する設定を確認してください。

5 5秒以上待ってから、もう一度パソコンの電源を入れる

これで休止状態の機能を使うためのファイル(ハイバネーション用ファイル)が削除され、休止状態の設定を解除することができました。



メモ

すでに休止状態の機能を使うためのファイルが削除されている状態で「ハイバネーション設定ユーティリティ」を実行すると、「ハイバネーション用ファイルは存在しません。」と表示されます。

■ 休止状態を再設定する

休止状態の設定を解除したときや、休止状態のためのファイルを削除してしまったときは、休止状態の再設定を行ってください。



チェック

「ハイバネーション設定ユーティリティ」は、MS-DOSモードで起動します。
Windows 98の「MS-DOSプロンプト」ウィンドウでは実行できません。

- 1 「スタート」ボタン→「Windowsの終了」で「MS-DOSモードで再起動する」を選ぶ
- 2 「OK」ボタンをクリックする
MS-DOSモードで再起動します。
- 3 次のように入力する

HIBERON

しばらくの間、ハイバネーション用ファイルの作成画面が表示されることがあります
(お使いの機器のメモリ容量によって異なります)。

ハードディスクの空き容量が不足しているというメッセージが表示された場合は、
不要なファイルを削除するなどしてハードディスクの空き領域を確保したあと、手
順1からやり直してください。必要なハードディスクの空き領域の目安は、パソコン
に搭載されているメモリ容量+8Mバイトです。

4 次のようなメッセージが表示されたら、電源スイッチ(⏻)を押してパソコンの電源を切る

ハイバネーションファイルを作成しました。
電源を切って5秒以上たってから再び電源を入れてください。
実際にハイバネーション機能を使用するには、BIOSセットアップ
メニューでの設定が必要です。

5 5秒以上待ってから、もう一度パソコンの電源を入れる



メモ

すでに休止状態の機能を使うためのファイルがある状態で実行すると、「ハイバネーションファイルはすでに存在します」と表示されます。

パワーマネージメント

省電力(節電)機能

■ 節電のモードを切り替える

節電のモードの設定やモードの切り替えは、BIOSセットアップメニューの「省電力セットアップ」の「省電力レベルの設定」で行います。また、モードは【Fn】+【F7】を押すごとに切り替えることもでき、キーボードを使って切り替えた場合は、切り替えるごとにモードを識別するビープ音が鳴ります。



メモ

【Fn】を押したまま【F6】を押してビープ音の音量を「オフ」に設定していると、モード識別のビープ音が鳴りません。【Fn】+【F6】を押してビープ音を「オン」に設定してください。

設定できるモードには次のようなモードがあります。

モード	機能	ビープ音の回数
オフ	すべてのBIOSによる省電力機能が無効になります。	1
ユーザ設定	節電する機能を自分で選ぶことができます。どの機能を使うかは、BIOSセットアップメニューで設定します。	2
性能優先	このパソコンの性能を最優先した省電力設定になります。節電効果はやや低めです。	3
最大省電力	このパソコンの動作時間を優先した省電力設定になります。性能を抑えることにより節電効果を高めたいときに選びます。	4

：購入時の設定



メモ

パワーマネジメントは、バッテリー駆動時に有効になります。ACコンセントから電源を供給しているときにパワーマネジメントを使いたい場合は、BIOSセットアップメニューで「省電力セットアップ」の「AC電源駆動時の省電力」を「オン」に設定してください。



参照

AC電源使用時に省電力を有効にする→PART5の「省電力セットアップ」(→p.181)

Windows 98でのパワーマネジメントを設定する

■ 電源の管理のモード

コントロールパネルの「電源の管理」の機能を使うと、あらかじめ設定されている電源の状態を選ぶことができます。購入時には、「常にオン」「ホーム／オフィスデスク」「ポータブル／ラップトップ」の3つのモードが設定されています。それぞれのモードの設定内容は、「電源設定」タブで確認することができます。

■ 新しいモードを設定する

パソコンの利用形態に合わせて、好みの電源状態を新たに登録することができます。

- 1 「コントロールパネル」を開き、「電源の管理」アイコンをダブルクリックする
「電源の管理のプロパティ」が表示されます。
- 2 「電源設定」タブをクリックする
- 3 「システムスタンバイ」「モニタの電源を切る」「ハードディスクの電源を切る」のそれぞれの時間を設定する
- 4 「名前を付けて保存」ボタンをクリックする
- 5 任意の保存名を入力し、「OK」ボタンをクリックする
これで、新しいモードが登録されました。

電源管理のモード

このパソコンには次の2種類の電源管理モードがあります。

● APM モード

APMとは、「Advanced Power Management」の略で、パソコンや周辺機器の電源管理をBIOSで行うモードのことです。購入時は、APMモードに設定されています。

● ACPI モード

ACPIとは、「Advanced Configuration and Power Interface」の略で、パソコンや周辺機器の電源管理、または周辺機器の管理をWindows 98で行うモードです。

電源管理モードを切り替えるには

購入時の設定はAPMモードに設定されています。ACPIモードは、APMモードに比べて制限や注意事項があります。特に必要でなければ、APMモードで使用することをおすすめします。

電源管理モードをACPIモードに切り替えたい場合は、制限事項や注意事項をよくお読みください。



参照

電源管理モードを切り替える→PART6の「ACPIモードについて」(p.190)



チェック

- ・ APMモードからACPIモードへの切り替えは、購入時のセットアップ直後か、再セットアップ直後のみ可能です。
- ・ ACPIモードからAPMモードへ戻す場合は、再セットアップしてください。



参照

再セットアップ→『困ったときのQ&A』の「PART3 再セットアップ」

セキュリティ機能

このパソコンのセキュリティ機能

セキュリティ機能を利用すると、パソコンの不正使用やデータの盗難を防止するためのパスワードを設定したり、起動に必要なファイルを保護したりすることができます。



チェック

セキュリティ機能を使用している場合でも、「絶対に安全」ということはありません。重要なデータなどの管理や取り扱いには十分注意してください。

パスワードを設定してパソコンの使用者を制限する

パスワードを設定することで、このパソコンの使用者を制限するとともに、不正使用を防止することができます。パスワードはBIOSセットアップメニューで設定します。パスワードを設定することにより、次のような機能を制限することができます。

- パソコンの起動
- BIOSセットアップメニューの起動と設定変更
- スリープ状態（スタンバイ状態または休止状態）からの復帰
- キーボードやポインティングデバイスからの入力



チェック

設定したパスワードを忘れないようにしてください。パスワードは再セットアップしても解除できません。パスワードは忘れないように控えておくことをおすすめします。



参照

パスワードを忘れてしまった→『困ったときのQ&A』PART2の「パスワード」

パスワードの種類

設定可能なパスワードには、「スーパーバイザパスワード」と「ユーザパスワード」があります。

● スーパーバイザパスワード

スーパーバイザパスワードは、おもに管理者用のパスワードで、管理者以外の不正な使用や設定の変更を防止したり、このパソコンの使用者を制限するために設定します。また、使用者の使用できる機能を制限することもできます。

パスワードを設定しておく、BIOSセットアップメニュー起動時にパスワードの入力画面が表示され、パスワードを入力しないかぎりBIOSセットアップメニューを起動できなくなります。また、パスワード入力のタイミングを、起動時やスリープからの復帰時に設定しておくこともできます。

● ユーザパスワード

ユーザパスワードは、スーパーバイザパスワードが設定されていないと設定できないパスワードです。おもに使用者のためのパスワードで、パスワードを入力しないと、パソコンを使用できなくなります。

パスワードを使った管理

たとえば、管理者がスーパーバイザパスワードとユーザパスワードの両方を設定し、通常の利用者にはユーザパスワードのみを通知します。このように設定しておく、管理者以外はBIOSセットアップメニューの設定を変更できなくなります。また、どちらのパスワードも通知されていない人は、パソコンを起動することもできません。

パスワードを設定する

スーパーバイザパスワードとユーザパスワードは、BIOSセットアップメニューで設定します。パスワードを設定後にBIOSセットアップメニューを起動するときは、設定したパスワードを入力しなければ、BIOSセットアップメニューを起動することができなくなります。

1 BIOSセットアップメニューを起動する(→p.176)

2 「セキュリティセットアップ」を選ぶ

3 【↑】または【↓】で、「スーパーバイザパスワードの設定」または「ユーザパスワードの設定」を選ぶ



チェック

スーパーバイザパスワードを設定していないと、ユーザパスワードを設定することはできません。

4 【Enter】を押す

パスワード設定の画面が表示されます。

5 パスワードを入力する



チェック

パスワードの文字列は、6文字以内で設定してください。使用できる文字は、半角英字のA～Z(大文字／小文字の区別はありません)と半角数字の0～9だけです。

6 【Enter】を押す

7 手順5で入力したパスワードを、もう一度入力する

8 【Enter】を押す



チェック

設定したパスワードを忘れないようにしてください。パスワードは再セットアップしても解除できません。パスワードは忘れないように控えておくことをおすすめします。

パスワードを入力するタイミング

パスワードを設定しておくと、BIOSセットアップメニュー起動時にパスワードを入力するように要求されます。BIOSセットアップメニュー起動時以外にも、次のようなタイミングに設定できます。

■ パソコンの起動時

パソコンの起動時に常にパスワードを入力するように設定するには、次の手順で行います。

- 1 BIOSセットアップメニューを起動する(→p.176)
- 2 「セキュリティセットアップ」の「起動時のパスワード」を選ぶ
- 3 「はい」を選ぶ
- 4 BIOSセットアップメニューを終了する

■ スリープ状態からの復帰時



チェック

「起動時のパスワード」を「はい」に設定していないと、「レジューム時のパスワード」の設定は変更できません。

スリープ状態からの復帰時にパスワードを入力するように設定するには、次の手順で行います。

- 1 BIOSセットアップメニューを起動する(→p.176)
- 2 「セキュリティセットアップ」の「レジューム時のパスワード」を選ぶ
- 3 「はい」を選ぶ
- 4 BIOSセットアップメニューを終了する

パスワードを入力する

■ パスワードを設定しているときの電源の入れかた

BIOSセットアップメニューの「セキュリティセットアップ」の「起動時のパスワード」が「はい」に設定されている場合は、次の手順で電源を入れます。

- 1 パソコンの電源を入れる
次のようなパスワードを入力する画面が表示されます。

Enter CURRENT Password : _

- 2 設定されているパスワードを入力する
- 3 【Enter】を押す

正しいパスワードが入力されると、Windowsが起動します。



チェック

- ・ 誤ったパスワードが入力されると、警告が表示されます。パスワードの入力に3回失敗すると、パスワードが入力できなくなります。このときは、電源スイッチ(⏻)を押して電源を切ったあと、もう一度手順1からやり直してください。
- ・ パスワードの入力中にキーボードの【Back Space】などを押しても、文字を修正することはできません。

■ パスワードを設定しているときの復帰のしかた

BIOSセットアップメニューの「セキュリティセットアップ」の「レジューム時のパスワード」が「はい」に設定されている場合は、次の手順で電源を入れます。

1 パソコンの電源を入れる

キャップスロックキーランプ (Ⓐ) とスクロールロックキーランプ (ⓗ) が交互に点灯します。このとき、画面には何も表示されません。



メモ

ランプは、キーボード入力がないと1分ほどで消灯します。消灯後、キーボード入力を行うと、再度ランプが点灯します。

2 設定されているパスワードをキーボードから入力する

3 [Enter]を押す

正しいパスワードが入力されると、データが復帰されてデータの内容が表示されます。



チェック

- ・ スーパーバイザパスワードとユーザパスワードの両方が設定されている場合、前回、電源を入れたときに入力したパスワードでないと復帰できません。
- ・ 誤ったパスワードが入力されると復帰できません。
- ・ パスワードの入力中にキーボードの【Back Space】などを押しても、文字を修正することはできません。

キーボードロック

キーボードロックを設定すると、キーボードやポインティングデバイスからの入力ができなくなります。

■ キーボードロックを設定する

- 1 パスワードが設定されているときに【Ctrl】+【Alt】+【Back Space】を押す
キャップスロックキーランプ (Ⓐ) とスクロールロックキーランプ (ⓗ) が交互に点灯し、キーボードやポインティングデバイスからの入力ができなくなります。



メモ

ランプは、キーボード入力がないと1分ほどで消灯します。消灯後、キーボード入力を行うと、再度ランプが点灯します。

■ キーボードロックを解除する

キーボードロックは次の手順で解除してください。

- 1 キャップスロックキーランプ (Ⓐ) とスクロールロックキーランプ (ⓗ) が交互に点灯していることを確認する
ランプが点灯していないと、パスワードを入力しても解除できません。いずれかのキーを押してランプを点灯させてください。
- 2 設定されているパスワードをキーボードから入力する
このとき、画面にはパスワード入力画面は表示されません。
- 3 【Enter】を押す
正しいパスワードが入力されるとランプは消灯し、キーボードやポインティングデバイスからの入力が可能になります。



チェック

- ・ スーパバイザパスワードとユーザパスワードの両方が設定されている場合、前回、電源を入れたときに入力したパスワードでないと解除できません。
- ・ 誤ったパスワードが入力されると解除できません。
- ・ パスワードの入力中にキーボードの【Back Space】などを押しても、文字を修正することはできません。

その他のセキュリティ機能を使う

起動セクタへのウィルス感染防止

ハードディスクの起動セクタを書き込み禁止に設定できます。起動セクタ部分が削除されたり、書き換えられたりすると、パソコンを正常に起動することができなくなります。書き込み禁止に設定すると、起動セクタをコンピュータウイルスなどから保護できます。

「起動セクタへのウィルス感染防止」の設定は、BIOSセットアップメニューで行います。



参照

ハードディスク起動セクタを保護する→PART5の「標準セットアップ」(p. 178)

盗難防止用ロック

本体の盗難防止用ロックに市販の盗難防止用ケーブルを取り付けると、本体の盗難を防止できます。



参照

盗難防止用ロック→このPARTの「本体の各部の名称」の「本体背面」(p.3)



メモ

このパソコンの盗難防止用ロックは、Kensington社製のマイクロセーバーセキュリティシステムに対応しています。日本国内総販売代理店の連絡先は次のとおりです(1999年12月現在)。

日本ポラロイド株式会社 電子映像事業部
〒105-8456 東京都港区虎ノ門3丁目2番2号 第30森ビル
Tel:03-3438-8879 Fax:03-5473-1630

ファイル転送機能

ファイル転送機能について

ファイル転送機能とは、赤外線やケーブルを使って2台のパソコン間でデータの交換を行う機能です。

IrDA SIR Data Link Std.に準拠した赤外線通信を使用する方法と、シリアルポートまたはパラレルポートをケーブルで接続してファイル転送を行う方法があります。

赤外線通信機能を利用する

赤外線通信機能を使う準備をする

このパソコンは購入時の状態では赤外線通信機能を利用できる状態になっていません。赤外線通信機能を利用するには準備が必要です。次の手順にしたがって設定を行ってください。



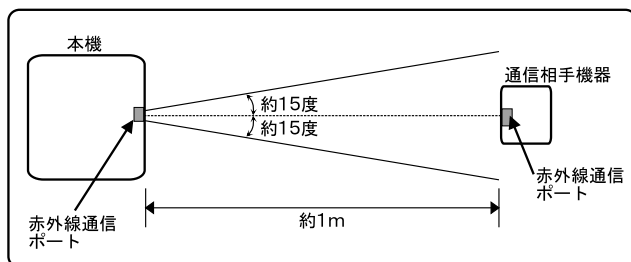
チェック

ワイヤレスインターネットモデルの場合は、赤外線通信機能とワイヤレス通信機能を同時に使用することはできません。また、購入時には赤外線通信機能は使用できない設定になっているので、「赤外線ポート」の設定をする前にBIOSセットアップメニューの「周辺機器セットアップ」の「IR/PIAFS切り替え」を「IR」に設定しておいてください。

- 1 BIOSセットアップメニューを起動する(→p.176)
- 2 「周辺機器セットアップ」の「赤外線ポート」を選び、「自動」に設定するか、COM番号を直接指定する
通常は「自動」に設定することをおすすめします。
- 3 BIOSセットアップメニューを終了する
「NEC 4Mbps 内蔵赤外線ポート」が検出され、赤外線ドライバが自動的にインストールされます。そのあと、「システム設定の変更」の画面が表示されます。
- 4 「はい」ボタンをクリックする
再起動します。

赤外線通信を行うときの機器の配置

赤外線通信を行う機器は次の範囲内に配置してください。



- 互いの機器の赤外線通信ポートが真正面に向き合うようにする
- 互いの機器の赤外線通信ポートの距離を約1m以内にする



チェック

通信相手の赤外線がこのパソコンの赤外線ポートまで届かないときや、通信相手機器の通信可能距離がこのパソコンよりも短い(このパソコンの場合は約1m以内)ときは、通信相手の機器がこのパソコンの通信可能範囲にあっても通信できないことがあります。このようなときは、お互いの赤外線通信ポートを真正面に向き合わせて、できるかぎり近くに置いてください。このとき、お互いの装置が接触しないようにしてください。

■ こんなときは通信距離が短くなってしまうことがあります

- 直射日光や蛍光灯の直下
- 機器どうしが正しく向き合っていない
- 他の赤外線通信機器やノイズを発生する機器の近くにある
- このパソコンの赤外線通信ポートの指向性(約15度程度)の範囲を越えている

赤外線モニタについて

Windows 98には、赤外線通信の設定や監視を行う「赤外線モニタ」というプログラムがあります。「赤外線モニタ」の使いかたについては、「コントロールパネル」を開き、「赤外線モニタ」アイコンをダブルクリックしてヘルプをご覧ください。

ケーブルによるファイル転送を利用する

ケーブルによるファイル転送の準備をする

ケーブルによるファイル転送を行う場合、2台のパソコンをケーブルで接続する必要があります。ケーブルは次の規則にしたがって接続してください。

- ・シリアルポートとシリアルポート、パラレルポートとパラレルポートのように、2台のパソコンの同じポートを接続する
- ・使用するポート用のクロスケーブルを使用する



参照

- ・シリアルポートに接続する →PART2の「シリアルコネクタ」(p.146)
- ・パラレルポートに接続する →PART2の「パラレルコネクタ」(p.147)

ファイル転送を行う

ファイル転送機能には、次の3つの方法があります。

- ・「Intellisync」を使う
- ・Windows 98の「ケーブル接続」を使う
- ・Windows 98の「赤外線転送」を使う



チェック

- ・「赤外線転送」は赤外線で接続時のみ使用可能です。
- ・Windows 98の「赤外線転送」と「Intellisync」を同時に使うことはできません。

Intellisyncを使う

Intellisyncは、赤外線やケーブルを使ってファイルの転送を行うアプリケーションです。



参照

「Intellisync」の使いかた →「サポートセンタ」-「パソコンを使いこなそう」-「添付ソフトの使い方」-「Intellisync」

Windows 98の「ケーブル接続」を使う

「ケーブル接続」は、赤外線やケーブルを使って他のコンピュータのネットワークや共有フォルダにアクセスする機能です。



チェック

「ケーブル接続」で赤外線を使用してファイル転送をする場合は、「ケーブル接続」で使用するポートを選ぶとき、「仮想赤外線COMポート」を指定してください。詳しくはWindows 98のヘルプの「目次」タブ→「アクセサリを使う」→「通信」→「ケーブル接続」をご覧ください。



参照

Windows 98のヘルプ→『困ったときのQ&A』PART1の「トラブルを解決するには」

Windows 98の「赤外線転送」を使う

「赤外線転送」は2台のパソコンの間で赤外線を使ってファイルの転送を行うWindows 98の機能です。「赤外線転送」には次の3通りの方法があります。

■ エクスプローラを使う

- 1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「エクスプローラ」をクリックする
- 2 送信するファイルを表示させる
- 3 送信するファイルを選び、右クリックする
- 4 「送る」→「赤外線の受信側」をクリックする

■ ドラッグ&ドロップを使う

- 1 「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックする
「マイコンピュータ」の画面が表示されます。
- 2 「スタート」ボタン→「プログラム」→「エクスプローラ」をクリックする
- 3 送信するファイルを表示させる
- 4 送信するファイルを「マイコンピュータ」の「赤外線の受信側」へドラッグ&ドロップする

■ マイコンピュータを使う

- 1 「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックする
「マイコンピュータ」の画面が表示されます。
- 2 「範囲内にある利用可能デバイス」から送信相手のパソコンを選ぶ
- 3 「ファイルの送信」ボタンをクリックし、送信するファイルを選ぶ

サウンド機能

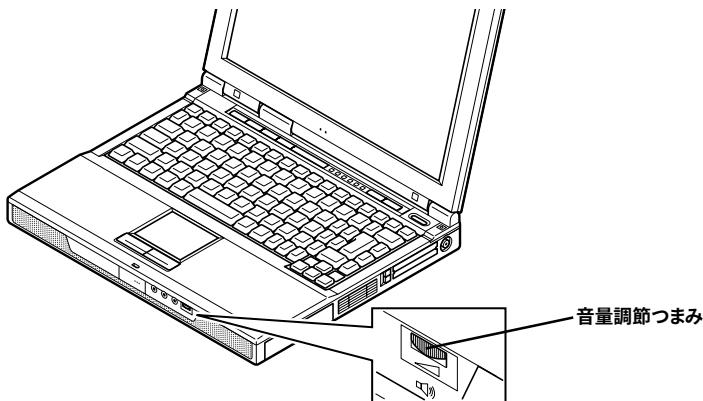
音量を調節するには

このパソコンにはスピーカが内蔵されています。スピーカからの再生音量は、本体の「音量調節つまみ」や、「ボリュームコントロール」を使って調節できます。「ボリュームコントロール」では再生音量だけでなく、録音時の入力レベルなども調節できます。

音量調節つまみを使う

1 音量調節つまみを回して調節する

音量を上げたいときはつまみを右側に回し、下げたいときは左側に回します。

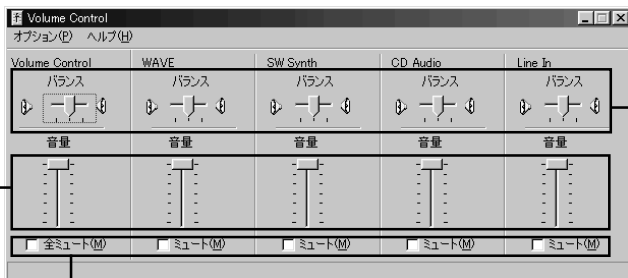


ボリュームコントロールを使う

ボリュームコントロールでは、内蔵音源の再生音量や録音するときの入力レベルを調節することができます。

ボリュームコントロールを起動する

- 1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」→「エンターテインメント」→「ボリュームコントロール」をクリックする
ボリュームコントロールの画面が表示されます。



☐ をチェックすると消音状態になる

つまみを上下すると、音量調節ができる

各音源で、左右のスピーカのバランスを調節できる

2 や をドラッグして調節する



チェック

ディスプレイの解像度を低解像度に設定しているときにボリュームコントロールを表示させると、ボリュームコントロールのすべての音源コントロールが表示されない場合や右端の音源コントロールの表示が一部欠ける場合があります。このようなときには、ディスプレイの解像度を変更する(→p. 50)か、または「プロパティ」ウィンドウの「表示するコントロール」欄で、使用しない音源の選択を解除し、必要な音源コントロールが表示されるように変更してください。なお、ディスプレイの解像度を変更する場合は、ボリュームコントロールを一旦終了し、解像度を変更後に再度ボリュームコントロールを起動してください。

表示項目を切り替える

ボリュームコントロールに表示させる項目を切り替えることができます。

- 1 メニューバーの「オプション」→「プロパティ」をクリックする
「プロパティ」が表示されます。



2 「再生」「録音」のどちらかを●にする 表示項目が切り替わります。

■ 設定項目一覧

表示できる項目と各項目の説明は、次のようになります。

項目	音量調整の種類		説明
	再生	録音	
Volume Control	○		スピーカから出力されるすべての音量を調整します。
W A V E	○		WAVEなどのPCM音源のボリュームを調整します。
SW Synth	○		MIDIデバイスとして「Microsoft GS Wavetable SW Synth」を選択した場合のMIDIのボリュームを調整します。
3D Wide	○		3Dエンハンスメントの効果を調整します。3Dエンハンスメントはステレオ音声に対して効果がかかります。
Auxiliary	○	○	本機では使用できません。
Video	○	○	Videoから入力される音声のボリュームを調整します。
CD Audio	○	○	CD-ROMで再生した音楽CDを再生、または録音する時のボリュームを調整します。
Line In	○	○	Line Inに接続している機器から入力される音をスピーカから出力するとき、または録音するときのボリュームを調整します。
Microphone	○	○	マイクロホン端子から入力される音声をスピーカから出力するとき、または録音するときのボリュームを調整します。
Telephony	○	○	本機では使用できません。
PC Beep	○		PCMCIA、Modemからのビーブ音のボリュームを調整します。
XG Synth	○		MIDIデバイスとして「YAMAHA AC-XG WDM XG Synth」を選択した場合のMIDIのボリュームを調整します。
Master Out 2	○		本機では使用できません。
Mono Out	○		本機では使用できません。
Mono Mix		○	Line Outへ出力する音声をループバックさせて録音するときのボリュームを調整します。ステレオ音声をミックスしモノラルにした音声で録音されます。
Stereo Mix		○	Line Outへ出力する音声をループバックさせて録音するときのボリュームを調整します。ステレオのまま録音されます。

トーン調整で調整する

- 1 「ボリュームコントロール」画面に「Volume Control」が表示されていることを確認し、メニューバーの「オプション」→「トーン調整」をクリックする
「ボリュームコントロール」画面の「Volume Control」項目に「トーン」ボタンが追加表示されます。
- 2 「トーン」ボタンをクリックする
トーン調整画面が表示されます。



チェック

- ・ このパソコンでは「その他の調整」のみ調整可能です。
- ・ このパソコンには、ハードウェアに高音、低音の調整機能がないため「トーン調整」の高音、低音の調整はできません。

ビープ音を設定する

キーボードを使ってビープ音のオン／オフの設定ができます。

- 1 **【Fn】+【F6】を押す**
キーを押すごとに、ビープ音のオン／オフを切り替えることができます。

モデム

内蔵のモデムを利用する

内蔵モデムと電話回線を接続すると、「インターネットに接続する」「メールの送受信をする」「FAXの送受信をする」などができるようになります。

電話回線に接続するときは

使用する電話回線の種類によってはすぐに接続できない場合があります。

電話回線の種類	対処方法
モジュラージャック方式	このパソコンに付属しているモジュラーケーブルを使って接続してください。
3ピンプラグ式コンセント	そのままでは接続できません。市販の3ピンプラグ変換アダプタを使用するか、NTTにモジュラージャックの取り付けをご相談ください。
直結配線方式	そのままでは接続できません。モジュラージャックに変更する必要があります。NTTにモジュラージャックの取り付けをご相談ください。

■ 電話回線に接続する

このパソコンと電話回線とを接続するときは、添付のモジュラーケーブルを使用して、本体のモジュラーコネクタと電話回線を接続してください。

接続について詳しくは、『たのしくインターネット&メール』をご覧ください。



参照

電話回線に接続する→『たのしくインターネット&メール』PART1の「電話回線に接続する」



メモ

このパソコンに付属のモジュラーケーブルの長さが足りないときには、十分な長さの市販のモジュラーケーブルを購入してください。



チェック

内蔵のFAXモデムは、加入電話回線に適合するように設計されています。加入電話回線以外と接続すると、うまく動作しないことや、内蔵FAXモデムやパソコン本体などを破損するおそれがあります。

1つの電話回線のモジュージャックをパソコン以外の機器(たとえば電話機など)と共用する場合は、機器を使用するごとにケーブルの接続や取り外しが必要になります。パソコンと電話機などを両方とも電話回線に接続したままにしたいときは、次の「1つの電話回線にパソコンと電話機の両方を接続する」をご覧ください。

1つの電話回線にパソコンと電話機の両方を接続する

電話回線のモジュージャックが1つの場合、パソコンで通信している間は、電話機のモジュラーケーブルの接続を取り外す必要があります。電話機のモジュラーケーブルを取り外したくない場合は、市販の分岐アダプタを利用することができます。

⚠ 警告



感電注意

- 雷が鳴りだしたら、本機や電源コードに触れないでください。また、機器の接続や取り外しを行わないでください。落雷による感電のおそれがあります。

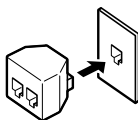
⚠ 注意



感電注意

- モジュージャックの端子に触れないでください。電話回線と接続しているモジュージャックを抜いたときに電話がかかってくると、電話回線上に電圧がかかるため、端子に触れると感電することがあります。

1 分岐アダプタをモジュージャックに接続する



2 モジュラーケーブルを、分岐アダプタの一方と内蔵モデムのモジュージャックに接続する

3 電話機と分岐アダプタのもう一方のモジュージャックを接続する



チェック

- ・ 分岐アダプタを使用しても、パソコンと電話機が同時に電話回線を使用することはできません。
- ・ パソコンで通信中は、電話機の手話器を外さないでください。通信が妨害され、切断されることがあります。



メモ

分岐アダプタの2つのモジュージャックは同じものです。電話機とパソコンのどちらも接続可能です。

内蔵モデム使用上の注意

- ・このパソコンでは、データ通信、ファクシミリ通信、インターネット通信の各機能が使えますが、これらの機能は添付のアプリケーション以外では動作しない場合があります。これらの機能の詳しい使用方法については『たのしくインターネット&メール』または「サポートセンタ」をご覧ください。
- ・内蔵FAXモデムは一般電話回線のみに対応しています。
- ・加入電話回線がトーン式かパルス式かわからないときは、NTTに確認してください。
- ・回線の状態によっては、接続しにくかったり、通信時に雑音が入ることがあります。
- ・キャッチホンサービスを受けている場合、モデムで通信中に電話がかかってくると、モデムによる通信が切れる場合があります。
- ・コードレスホンや親子電話などの加入電話回線以外の回線を使っている場合は、正常なデータの送受信ができなくなる場合があります。
- ・回線の状態によっては、希望の通信速度で通信できない場合があります。
- ・電話局の交換機の種類によっては、14400bpsでのファクシミリ通信ができないことがあります。この場合には、通信速度を9600bpsにしてください。
- ・データ通信を行う場合、フロー制御はRTS/CTSに設定してください。それ以外に設定すると、データ抜けが生じる可能性があります。
- ・通常の電話回線を使用する場合、送信レベルは購入時の設定から変更する必要はありません。ただし、回線状態が悪く、うまく接続できない場合には、送信レベルの調整が必要なことがあります。送信レベルの調整は、工事担当者以外が行うことは法律で禁じられていますので、当社指定のサービス窓口にお問い合わせください。
- ・このパソコンに内蔵されているモデムは、海外では使用できません。
- ・ハイパーターミナルなどを使って通信する場合、ATコマンドが必要です。



参照

ATコマンドについて→「サポートセンタ」-「パソコンを使いこなそう」-「ハードウェア情報」-「ATコマンド一覧」

インターネットへの通信環境を切り替える

インターネット設定切替ツールを使うと、複数のダイヤルアップ接続を使い分けたり、ダイヤルアップ接続からLAN接続へ切り替えたりと、利用シーンに応じて通信環境を切り替えることができます。

パソコンを携帯して、外出先でインターネットを利用するときなどに便利な機能です。



チェック

- ・インターネット設定切替ツールを使うには、ダイヤルアップネットワークの情報がが必要です。ダイヤルアップネットワークが設定されていない場合は、インターネット設定切替ツールは起動できません。
- ・LANを使った接続を行うには、あらかじめネットワークの設定をしておく必要があります。

インターネット設定切替ツールを起動する

インターネット設定切替ツールは、起動時にアイコン化してタスクトレイに常駐します。

- 1 タスクトレイのをダブルクリックする
次の画面が表示されます。



この画面には、ダイヤルアップの接続情報が3つまで表示されます。使用したいダイヤルアップの接続情報が表示されていない場合は、<<または>>をクリックして表示させてください。



メモ

はじめてインターネット設定切替ツールを起動したときは、インターネット設定切替ツールのウィザードが表示されます。ウィザードにしたがって設定を行ってください。

■インターネット設定切替ツールを終了するときは

- 1 タスクトレイのを右クリックし、表示されたメニューから「インターネット設定切替ツールの終了」をクリックする

インターネット設定切替ツールを使うための設定をする

■ダイヤルアップ接続の情報を登録する

外出先でインターネットを使うときなどは、あらかじめインターネット設定切替ツールに新しいダイヤルアップ接続の情報を登録しておきます。

- 1 インターネット設定切替ツールの「プロパティ」ボタンをクリックする
「プロパティ」ウィンドウが表示されます。



- 2 「ボタン設定」タブをクリックする

- 3 「ダイヤルアップ」を●にする

- 4 「追加」ボタンをクリックする

- 5 新しく登録する接続名を入力して、「OK」ボタンをクリックする
ここでは例として「出張先」という名前で登録します。

- 6 プロバイダに接続するための電話番号、国番号を入力し、「OK」ボタンをクリックする
「新しいダイヤルアップ ネットワーク接続が次の名前で作成されました。」と表示されます。

- 7 接続名を確認して、「完了」ボタンをクリックする



- 8 「OK」ボタンをクリックする
新しいダイヤルアップ情報「出張先」が登録されます。



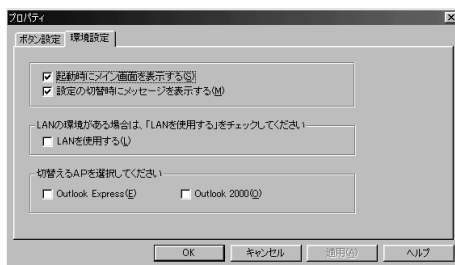
- ダイヤルアップ接続の情報を修正する
登録した情報を修正したいときは次の手順で行います。

- 1 登録されているダイヤルアップ接続から、変更するものをクリックする
- 2 「修正」ボタンをクリックする
- 3 表示された画面でダイヤルアップ接続の内容を変更する

■ LAN接続へ切り替えるための設定を行う

インターネット設定切替ツールで、LAN接続への切り替えを利用したい場合は、次の手順で設定を行っておいください。

- 1 インターネット設定切替ツールの「プロパティ」ボタンをクリックする
「プロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 2 「環境設定」タブをクリックする



- 3 「LANを使用する」を☒にし、「OK」ボタンをクリックする
これでインターネット設定切替ツールでLAN接続への切り替えができるようになります。

■ 接続環境を反映するメールソフトを選ぶ

インターネット設定切替ツールで接続環境を切り替えたときに、切り替えた接続環境の情報をどのメールソフトに反映するかを選んでおきます。

接続環境を変更すると、メールソフトでも新たにその接続環境を設定しておく必要があるのですが、ここで選んだメールソフトは、メールソフト側で設定変更することなく使えるようになります。



メモ

インターネットエクスプローラは、接続環境の切り替えを自動的に認識しますので、ここで設定する必要はありません。

- 1 インターネット設定切替ツールの「プロパティ」ボタンをクリックする
「プロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 2 「環境設定」タブをクリックする
- 3 「切り替えるAPを選択してください」欄で、接続環境を反映するメールソフトを☒にする
- 4 「OK」ボタンをクリックする
これで通信環境を切り替えるための設定ができました。

インターネット設定切替ツールで、より詳細な設定を行いたい場合は、「詳細設定」(→p.96)をご覧ください。

接続環境を切り替える

- 1 インターネット設定切替ツールを起動する



- 2 切り替える接続環境名をクリックする
または、タスクトレイのを右クリックし、表示されたメニューから切り替える接続環境名をクリックする

これでインターネットへの接続環境が切り替わります。

詳細設定

接続環境の詳細設定は「プロパティ」ウィンドウで行います。



① ダイヤルアップ／LAN接続

設定を行いたい接続の種類をクリックしてⒶにします。

② 接続名表示欄

登録されているダイヤルアップ接続名が表示されています。接続名の左をⒷにすると、メイン画面やタスクトレイからのメニューにダイヤルアップ接続環境名として表示されるようになります。

③ 「更新」ボタン

登録してあるダイヤルアップの接続情報を自動更新することができます。インターネット設定切替ツールで接続環境を設定したあとで、インターネット設定切替ツールを使用せずに直接ダイヤルアップ接続の設定を追加や削除した場合は、このボタンをクリックしてください。現在のダイヤルアップ接続の情報が取り込まれ、インターネット設定切替ツールの環境設定に反映されます。

④ 「修正」ボタン

登録してあるダイヤルアップ接続の情報を変更することができます。

⑤ 所在地

「所在地を変更しない」を選んだ場合、接続環境を切り替えても所在地情報は変更されません。「所在地情報名」を選んだ場合は、接続環境を切り替えると、システム上の所在地情報に反映されます。

⑥ アカウントの選択

使用するメールソフトのどのアカウントに接続情報を反映するかを選ぶことができます。この項目を使用するには、メールソフトで複数のアカウントを作成しておく必要があります。

ワイヤレス通信機能

ここでは、ワイヤレスインターネットモデルのみの説明をしています。

ワイヤレス通信機能を使う

ワイヤレスインターネットモデルでは、添付のワイヤレスモデムステーションと電話回線を接続しておくと、ワイヤレスモデムステーションからの電波が届く範囲内であれば、どこでもインターネットやメールを利用できます。また、このパソコンと電話回線をモジュラーケーブルで接続しなくても良いので、ケーブルの長さや設置場所を気にする必要ありません。

⚠ 警告



- 航空機内や病院内などのPHS端末の使用を禁止された区域では、本機とワイヤレスモデムステーションの電源を切ってください。電子機器や医用機器に影響を与え、事故の原因になります。
- 植込み型心臓ペースメーカを装着されている方は、本機とワイヤレスモデムステーションをペースメーカ装着部から22cm以上離して使用してください。電波により影響を受けるおそれがあります。

電話回線に接続する

添付のワイヤレスモデムステーションと電話回線を接続するときは、ワイヤレスモデムステーションに添付のモジュラーケーブルを使って接続してください。



参照

電話回線に接続する→『たのしくインターネット&メール』PART1の「電話回線に接続する」

接続先を設定する

プロバイダなどへの接続先を、ワイヤレスモデムステーションを使用した接続設定にするときは、「ダイヤルアップネットワーク」で「新しい接続」を作成するときに、「モデムの選択」で「NEC PIAFS32K+Duallink Wireless Mode(DCX)」を選んでください。

ダイヤル方法の設定をする

ワイヤレスモデムステーションを使用するときは、ご利用の電話回線が「パルス」の場合でも、「ダイヤルのプロパティ」の「ダイヤル方法」は「トーン」に設定してください。



チェック

ワイヤレスモデムステーション背面の回線スイッチは、ご利用の電話回線のダイヤル方法に合わせて変更する必要があります。



参照

回線スイッチの変更について→『たのしくインターネット&メール』PART1の「電話回線に接続する」、またはワイヤレスモデムステーションのマニュアル

パソコンがワイヤレスモデムステーションと通信可能な圏内にあるか確認する

BIOSセットアップメニューの「周辺機器セットアップ」→「PIAFS使用時のランプ切り替え」を「圏内」に設定すると、パソコンがワイヤレスモデムステーションと通信可能な圏内にあるかをメール着信ランプ(✉)で確認することができます。

ランプ	状態
緑点灯	通信圏内
消灯	通信圏外

ワイヤレス通信機能を使用するときの注意

- ・このパソコンとワイヤレスモデムステーションは、電波を用いて通信を行います。周囲の電波状況により、ワイヤレスモデムステーションの電波を受信できなかったり、正常に通信ができない場合がありますので、次の点に注意してください。
 - このパソコンとワイヤレスモデムステーションの通信距離は、見通し距離で約100m以内ですが、周囲の環境や建物の構造によっては通信距離が短くなります。
 - このパソコンとワイヤレスモデムステーションは、他の機器（電気機器、AV機器、OA機器、デジタルコードレス電話機、無線を使用するターミナルアダプタなど）を使用している環境では影響を受けやすいため、まれにワイヤレスモデムステーションの電波を受信できなかったり、通信ができない場合があります（メール着信ランプ(✉)が消灯状態になります）。その場合は、数分待ってから通信を行ってください。それでも通信ができない場合は、他の機器から距離を離してください。
 - このパソコンとワイヤレスモデムステーションの近くでは、無線を使用する機器（デジタルコードレス電話機、FAX、ターミナルアダプタ、ホームアンテナなど）を同時に4台以上使用しないでください。

- ・ワイヤレスモデムステーションとパソコンの距離が近すぎると、通話にノイズが入ったり、データ通信でエラーが発生する場合があります。
- ・アナログ回線の状態が悪い場合は、通信の途中で切断されることがあります。
- ・このパソコンでは、ワイヤレス通信機能と赤外線通信機能を同時に使用することはできません。購入時にはワイヤレス通信機能が使用できるように設定されています。赤外線通信機能を使用したい場合は、BIOSセットアップメニューの「周辺機器セットアップ」の「赤外線ポート」を「自動」に設定し、「IR/PIAFS切り替え」を「IR」に設定する必要があります。この場合、ワイヤレス通信機能は使用できなくなります。再度、ワイヤレス通信機能を使用したい場合は、「赤外線ポート」を「自動」、「IR/PIAFS切り替え」を「PIAFS」に設定してください。



参照

ワイヤレス通信機能と赤外線通信機能を切り替える→PART5の「周辺機器セットアップ」(p.185)

- ・ハイパーターミナルなどを使って通信する場合は、ATコマンドが必要です。



参照

ATコマンドについて→「サポートセンタ」-「パソコンを使いこなそう」-「ハードウェア情報」-「ATコマンド一覧」

ワイヤレス通信機能を活用する

ワイヤレスモデムステーションとこのパソコンとは、親機(ワイヤレスモデムステーション)と子機(パソコン)の関係になっています。親機として別売のワイヤレスモデムステーションを追加したり、子機としてワイヤレス通信機能のあるパソコンを追加することで、さらにワイヤレス通信機能を活用することができます。

親機に子機を追加登録する

添付のワイヤレスモデムステーションには、このパソコンが子機としてあらかじめ登録されています。ワイヤレスモデムステーションに、別売のワイヤレス通信機能のあるパソコンなどを追加登録すると、ワイヤレスモデムステーションを介して、このパソコンと追加登録したパソコンとの間でワイヤレスにデータの転送が可能になります。



メモ

ワイヤレスモデムステーションに子機を追加登録するには、「無線の増設登録(有料)」が必要です。最寄りのNECサービスステーション、または購入された販売店に相談してください。



参照

ワイヤレスモデムステーションに子機を追加登録する→添付のワイヤレスモデムステーションのマニュアル

ワイヤレスでデータを転送する

このパソコンと追加登録した別売のパソコンとの間でワイヤレスにデータの転送を行うには、次の手順が必要です。

2台あるパソコンは、1つをサーバ側、もう1つをクライアント側として設定します。データ通信するための接続が完了すると、相互にデータの転送が可能になります。

■ サーバ側のパソコンの設定をする

サーバ側のパソコンの設定は、次の手順で行います。

1. サーバ側のパソコンをサーバとして使用可能な状態にする
2. ファイルを共有できるようにする
3. サーバのコンピュータ名を設定する
4. フォルダを共有できるようにする
5. サーバを待機状態にする

1. サーバ側のパソコンをサーバとして使用可能な状態にする

- 1 「コントロールパネル」を開き、「アプリケーションの追加と削除」アイコンをダブルクリックする
「アプリケーションの追加と削除」の画面が表示されます。
- 2 「Windows ファイル」タブをクリックする
- 3 「ファイルの種類」欄の「通信」をクリックして、「詳細」ボタンをクリックする
- 4 表示された「ファイルの種類」から「ダイヤルアップ サーバー」を☒にする
- 5 「OK」ボタンをクリックする
- 6 「適用」ボタンをクリックする
ファイルのコピーがはじまります。

2. ファイルを共有できるようにする

- 1 「コントロールパネル」を開き、「ネットワーク」アイコンをダブルクリックする
「ネットワーク」の画面が表示されます。



メモ

CyberTrio-NXのモード変更を促す画面が表示された場合は、「アドバンスモードに変更」をクリックしてください。そのあと、もう一度手順1を行ってください。

- 2 「ファイルとプリンタの共有」ボタンをクリックする
「ファイルとプリンタの共有」の画面が表示されます。

- 3 「ファイルを共有できるようにする」を☒にする

- 4 「OK」ボタンをクリックする

3. サーバのコンピュータ名を設定する

- 1 「ネットワーク」の画面で「識別情報」タブをクリックする

- 2 「コンピュータ名」にサーバのコンピュータ名を入力する
サーバの名前は、あとで設定するクライアントの名前とは異なるものに設定してください。

- 3 「OK」ボタンをクリックする

4. フォルダを共有できるようにする

- 1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「エクスプローラ」をクリックする
「エクスプローラ」の画面が表示されます。

- 2 共有したいフォルダをクリックする

- 3 「ファイル」メニュー→「共有」をクリックする

- 4 「共有する」を☒にして、「OK」ボタンをクリックする
必要に応じて、アクセス権を設定してください。

5. サーバを待機状態にする

- 1 「マイコンピュータ」の画面で、「ダイヤルアップネットワーク」アイコンをダブルクリックする
「ダイヤルアップネットワーク」の画面が表示されます。

- 2 「接続」メニュー→「ダイヤルアップサーバー」をクリックする
「ダイヤルアップサーバー」の画面が表示されます。

- 3 モデムが複数インストールされている場合は、それぞれのモデムのタブが表示されるので、「NEC PIAFS32K+Duallink Wireless Mode (DCX)」を選ぶ

- 4 「着信する」を☒にする

- 5 「サーバーの種類」ボタンをクリックする
「サーバーの種類」画面が表示されます。
- 6 「ダイヤルアップサーバーの種類」で「PPP:インターネット、Windows NT Server、Windows 98」を選ぶ
- 7 「OK」ボタンをクリックする
- 8 「適用」ボタンをクリックして、「OK」ボタンをクリックする

■ クライアント側のパソコンの設定をする

クライアント側のパソコンの設定は、次の手順で行います。

1. ファイルを共有できるようにする
2. クライアントのコンピュータ名を設定する
3. 新しい接続先を作成する
4. サーバ側のパソコンと接続する
5. サーバ側のパソコンを検索する

1. ファイルを共有できるようにする

- 1 「コントロールパネル」を開き、「ネットワーク」アイコンをダブルクリックする
「ネットワーク」の画面が表示されます。
- 2 「ファイルとプリンタの共有」ボタンをクリックする
「ファイルとプリンタの共有」の画面が表示されます。
- 3 「ファイルを共有できるようにする」を☒にする
- 4 「OK」ボタンをクリックする

2. クライアントのコンピュータ名を設定する

- 1 「ネットワーク」の画面で「識別情報」タブをクリックする
- 2 「コンピュータ名」にクライアントのコンピュータ名を入力する
クライアントの名前は、先に設定したサーバの名前とは異なるものに設定してください。
- 3 「OK」ボタンをクリックする

3. 新しい接続先を作成する

- 1 「マイコンピュータ」の画面で、「ダイヤルアップネットワーク」アイコンをダブルクリックする
「ダイヤルアップネットワーク」の画面が表示されます。
- 2 「新しい接続」アイコンをダブルクリックする
「新しい接続」の画面が表示されます。
- 3 「接続名」と「モデムの選択」で、「NEC PIAFS32K+Duallink Wireless Mode (DCX)」を選ぶ
- 4 「設定」ボタンをクリックする
- 5 「接続」タブをクリックし、「詳細」ボタンをクリックする
- 6 「接続の詳細設定」の「追加設定」の欄に「S141=0」と入力し、「OK」ボタンをクリックする
- 7 「OK」ボタンをクリックする
- 8 「次へ」ボタンをクリックする
- 9 「電話番号」の欄に、サーバの内線番号を入力する
購入時には、このパソコンの内線番号は「91」に設定されています。このパソコンをサーバ用のパソコンとして設定している場合は、電話番号の欄に「#*91」を入力します。
- 10 「次へ」ボタンをクリックする
- 11 「完了」ボタンをクリックする

4. サーバ側のパソコンと接続する

- 1 作成した接続先のアイコンを右クリックして、プロパティを選ぶ
- 2 「市外局番とダイヤルのプロパティを使う」を ☐ にし、「OK」ボタンをクリックする
- 3 作成した接続先のアイコンをダブルクリックする
作成した接続先の画面が表示されます。
- 4 「電話番号」の欄に設定した電話番号(「#*」+内線番号)になっていることを確認する

5 「ダイヤルのプロパティ」ボタンをクリックし、「ダイヤル方法」が「トーン」になっていることを確認してから「OK」ボタンをクリックする

6 「接続」をクリックしてサーバ側のパソコンにダイヤルアップする

5. サーバ側のパソコンの共有フォルダを検索する

1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「エクスプローラ」をクリックする
「エクスプローラ」の画面が表示されます。

2 「ツール」メニュー→「検索」→「ほかのコンピュータ」をクリックする
「検索:コンピュータ」の画面が表示されます。

3 「名前」欄にサーバのコンピュータ名を入力して「検索開始」ボタンをクリックする

4 サーバ側のパソコンを見つけたら、アイコンをダブルクリックする
共有フォルダが表示されます。

これで、サーバ側とクライアント側のパソコンとでの相互間のデータ転送が可能になります。

親機(ワイヤレス通信機器)を増やす

複数の電話回線を利用できる環境にあるときは、親機を増やすことができます。このパソコンを子機として複数の親機に登録することができます。

利用できる親機には、次の機器があります。

- Aterm WM56
- Aterm IW60HS DSU
- Aterm IW50/D



メモ

このパソコンを別売の親機に追加登録するには、「無線の増設登録(有料)」が必要です。最寄りのNECサービスステーション、または購入された販売店に相談してください。

通信速度を変更する

購入時には、ワイヤレスモデムステーションの通信速度は64kbpsに設定されています。通信速度を32kbpsに変更したいときは、次の手順で設定を行ってください。

- 1 「マイコンピュータ」の画面で、「ダイヤルアップネットワーク」アイコンをダブルクリックする
「ダイヤルアップネットワーク」の画面が表示されます。
- 2 「新しい接続」アイコンをダブルクリックする
「新しい接続」の画面が表示されます。
- 3 「接続名」と「モデムの選択」で、「NEC PIAFS 32K+Duallink Wireless Mode (DCX)」を選ぶ
- 4 「設定」ボタンをクリックする
- 5 「接続」タブをクリックし、「詳細」ボタンをクリックする
- 6 「接続の詳細設定」の「追加設定」の欄に「S141=0」と入力し、「OK」ボタンをクリックする
- 7 「OK」ボタンをクリックする
- 8 「次へ」ボタンをクリックする
- 9 「電話番号」の欄に、サーバの内線番号を入力する
購入時には、このパソコンの内線番号は「91」に設定されています。このパソコンをサーバ用のパソコンとして設定している場合は、電話番号の欄に「#*91」を入力します。
- 10 「次へ」ボタンをクリックする
- 11 「完了」ボタンをクリックする

ワイヤレスフォンを使う

ワイヤレスフォンでは、このパソコンと添付のワイヤレスモデムステーションを使って電話をかけたり受けたりし、パソコンを電話機のように使うことができます。相手の音声は内蔵のスピーカから聞くことができるので、話の内容を複数の人が一緒に聞くこともできます。また、添付のワイヤレスモデムステーションに子機としてパソコンを追加登録してある場合は、登録してあるパソコン間で内線電話として使うこともできます。

機能や使いかたについて詳しくは、ワイヤレスフォンのヘルプをご覧ください。



メモ

ワイヤレスフォンのヘルプは、ワイヤレスフォンの画面の「ヘルプ」ボタンをクリックすると表示されます。



チェック

このパソコンでワイヤレスフォンを使って電話をかけたり受けたりするためには、別売のヘッドセット（ヘッドホン付きマイクロホン）（PK-SU004またはPK-SU005）が必要です。

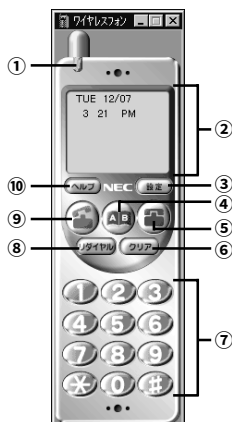
ワイヤレスフォンを使用するときの注意

- ・ワイヤレスフォンで回線接続した後に、FAXやインターネット、メールなどのデータ通信機能に移行することはできません。他のアプリケーションでデータ通信してください。
- ・このパソコンに接続した電話機で電話をかけて通話しているときに、その通話をワイヤレスフォンに切り替えることはできません。
- ・ワイヤレスフォンを使って通話中は、このパソコンをスタンバイ状態にすることはできません。
- ・ワイヤレスフォンには留守録、保留、いたずら電話などの撃退、リモートでの操作の機能はありません。また、ナンバーディスプレイには対応していません。
- ・ワイヤレスフォンで通話中に、ワイヤレス通信機能を使用する他の通信ソフトは使用できません。他の通信ソフトを使用するときは、ワイヤレスフォンでの通話を終了してください。
- ・内線からの0発信はできません。
- ・ワイヤレスフォンではFAXの送受信はできません。FAXを送受信するときは、内蔵FAXモデムを使用する添付のFAX-NXを利用してください。

ワイヤレスフォンの起動と終了

■ 起動する

- 1 「スタート」メニュー→「プログラム」→「アプリケーション」→「ワイヤレスフォン」をクリックする
次のような画面が表示されます。



名称	機能
① RING点滅部	RING検出時に緑色に点滅
② 情報表示パネル	日付や通話時間などを表示
③ 「設定」ボタン	設定画面を表示
④ 「アドレス」ボタン	アドレス帳を起動
⑤ 「切断」ボタン	通話の切断
⑥ 「クリア」ボタン	ダイヤル入力の消去
⑦ 「数字」ボタン	電話番号の入力
⑧ 「リダイヤル」ボタン	リダイヤル
⑨ 「ダイヤル」ボタン	電話をかける／受ける
⑩ 「ヘルプ」ボタン	ヘルプを表示

■ 終了する

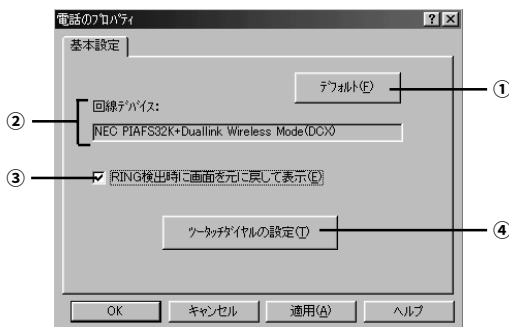
- 1 ワイヤレスフォンの画面右上の  をクリックする

ワイヤレスフォンの設定をする

■ ワイヤレスフォンを使う前の基本設定をする

- 1 ワイヤレスフォンで「設定」ボタンをクリックする
「電話のプロパティ」画面が表示されます。

2 各種の設定を行う



① 「デフォルト」ボタン

クリックすると、設定を購入時の初期状態に戻します。

② 回線デバイス

ワイヤレスフォンを使用している場合は、内蔵のワイヤレス通信機能のドライバ名が表示されます。

③ RING検出時に画面を元に戻して表示

ワイヤレスフォンをアイコン表示にしているときに電話がかかってきた場合、ワイヤレスフォン画面を通常のサイズに戻して表示します。

④ 「タッチダイヤルの設定」ボタン

クリックすると、タッチダイヤルの登録を行うことができます。

設定方法について詳しくはワイヤレスフォンのヘルプをご覧ください。ワイヤレスフォンのヘルプは、ワイヤレスフォンの画面の「ヘルプ」ボタンをクリックすると表示されます。

■ ワイヤレスフォンの音量を調節する

ワイヤレスフォンでは、マイクやスピーカ(またはヘッドホン)などの音量を調節することはできません。音量を調節するときは、ボリュームコントロール(→p.85)を使用してください。



チェック

音量を上げ過ぎると、音割れやノイズが発生することがあります。

ワイヤレスフォンで電話をかける

■ 電話をかける

ワイヤレスフォンで電話をかける場合には、次のような方法があります。

● ワイヤレスフォン画面の数字ボタンでダイヤルする

- 1 「数字」ボタンを使って、相手先の電話番号を入力する
情報表示パネルに入力した電話番号が表示されます。
電話番号はキーボードから入力することもできます。

- 2  (「ダイヤル」ボタン)をクリックする
相手先にダイヤルされます。相手先とつながると通話をはじめられます。通話中は、情報表示パネルに通話時間が表示されます。

● アドレス帳からダイヤルする

あらかじめアドレス帳に相手先の電話番号などを入力しておく、電話をかけるときにアドレスから電話番号を選んで電話をかけることができます。

- 1  (「アドレス」ボタン)をクリックする
アドレス帳が表示されます。

- 2 表示されたアドレス帳で相手先の電話番号をクリックする
ワイヤレスフォン画面の情報表示パネルに相手先の電話番号が表示されます。

- 3  (「ダイヤル」ボタン)をクリックする
相手先にダイヤルされます。相手先とつながると通話をはじめられます。通話中は、情報表示パネルに通話時間が表示されます。

● ツータッチダイヤルからダイヤルする

ツータッチダイヤルに相手先の電話番号を登録しておく、登録したID番号をクリックした後に、 (「ダイヤル」ボタン)をクリックするだけで、電話をかけることができます。

- 1 「数字」ボタンを使って、登録してあるID番号を入力する

- 2  (「ダイヤル」ボタン)をクリックする
相手先にダイヤルされます。相手先とつながると通話をはじめられます。通話中は、情報表示パネルに通話時間が表示されます。



ツータッチダイヤルの登録は、ワイヤレスフォン画面の「設定」ボタンをクリックすると表示される「電話のプロパティ」画面の「ツータッチダイヤルの設定」ボタンをクリックして行います。登録のしかたについて詳しくは、ワイヤレスフォンのヘルプをご覧ください。

■ 通話が終わったら

1 (「切断」ボタン)をクリックする



相手が電話を切っても自分側は通話状態のままなので、通話が終わったら  (「切断」ボタン)をクリックして電話を切ってください。

■ リダイヤルする

「リダイヤル」ボタンをクリックすると、前回ダイヤルした電話番号に再度ダイヤルすることができます。



リダイヤルの履歴情報は、過去1件のみです。また、履歴情報は保存されるので、ワイヤレスフォンを終了しても消去されません。

ワイヤレスフォンで電話を受ける

■ 電話を受ける

電話がかかってくると、画面左上にある  (RING点滅部)が緑色に点滅します。

- 1  (RING点滅部)が緑色に点滅したら、  (「ダイヤル」ボタン)をクリックする
通話ができるようになります。通話中は、情報表示パネルに通話時間が表示されます。

■ 通話が終わったら

1 (「切断」ボタン)をクリックする



相手が電話を切っても自分側は通話状態のままなので、通話が終わったら  (「切断」ボタン)をクリックして電話を切ってください。

インターネットへの通信環境を切り替える

インターネット設定切替ツールを使うと、このパソコンの内蔵モデムやワイヤレスモデムステーションの通信設定を簡単に切り替えることができます。



参照

インターネット設定切替ツールの使いかた→このPARTの「モデム」の「インターネットへの通信環境を切り替える」(p.92)

P A R T

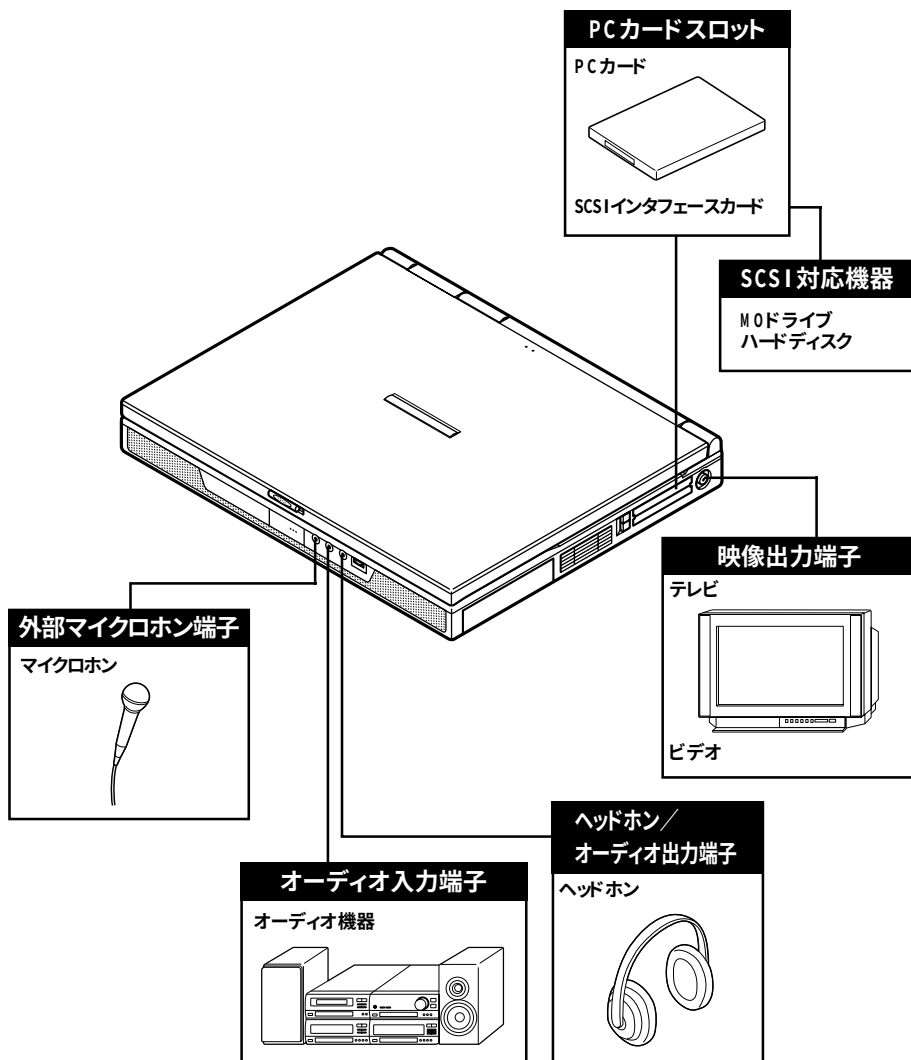
2

周辺機器を使う

別売の周辺機器の接続方法や注意事項などを説明しています。

このパソコンに接続できる周辺機器

本体前面／右側面



本体背面

2

周辺機器を使う

マウス/テンキーボード用コネクタ

マウス

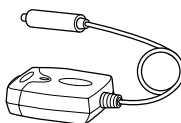


テンキーボード



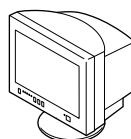
DCコネクタ

カーアダプタ



外部CRT用コネクタ

外部ディスプレイ



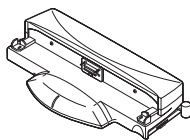
パラレルコネクタ

プリンタ



拡張用コネクタ

ポートバー



USBコネクタ

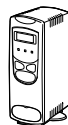
USB 機器



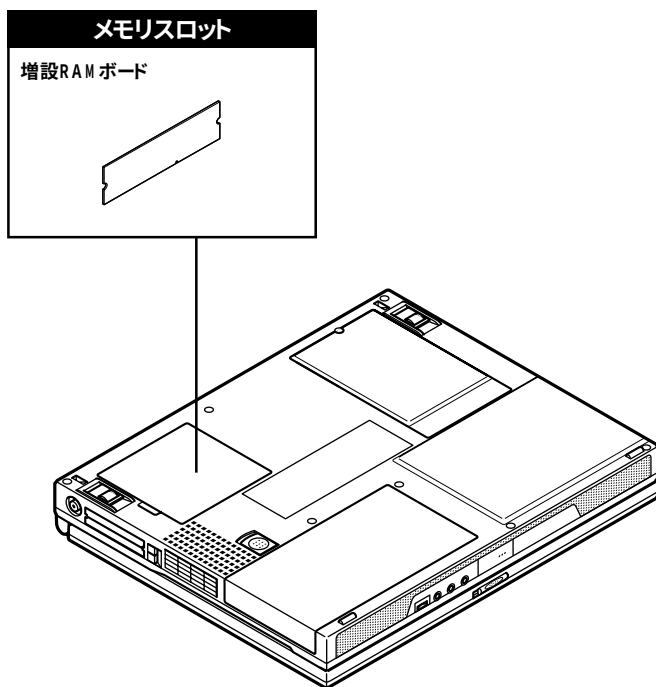
マウス/キーボード

シリアルコネクタ

ターミナルアダプタ



本体底面



周辺機器を接続する前に

周辺機器を利用する

プリンタや外部ディスプレイなど、パソコンに接続して使用する機器全般を、周辺機器といいます。このパソコンには、さまざまな周辺機器を接続するためのコネクタやポートが用意されています(→p.114,115)。また、別売のポートバーを利用して周辺機器を接続することもできます。



メモ

Windows 98のCOM1ポートはこのパソコンのシリアルコネクタ(ポート)に、LPT1はパラレルコネクタ(ポート)にあたります。

周辺機器を利用するときの注意

⚠ 警告



感電注意

- 雷が鳴りだしたら、本機や電源コードに触れないでください。また、機器の接続や取り外しを行わないでください。落雷による感電のおそれがあります。

⚠ 注意



感電注意

- 周辺機器の取り付け／取り外しをするときは、本機の電源を切ったあと、本機と周辺機器の電源コードを抜いてください。電源コードがACコンセントに接続されたまま、周辺機器の取り付け／取り外しをすると、感電の原因となります。
- 濡れた手で電源コードを抜き差ししないでください。感電の原因となります。

周辺機器の取り付け／取り外し時の注意

- ・スタンバイ状態または休止状態のときは、周辺機器を取り付けたり取り外したりしないでください。
スタンバイ状態または休止状態のときは、復帰させてデータを保存してから電源を切り、周辺機器の取り付けや取り外しを行ってください。
- ・別売の周辺機器を取り付けるときには、その周辺機器がこのパソコンに対応していることを確認してください。また、周辺機器によっては使用上の制限事項がある場合がありますので、周辺機器の説明書などをよく読んで使用してください。当社製以外の周辺機器を使用する場合は、周辺機器の製造元／発売元などに上記の事項を確認してください。
- ・周辺機器の取り付けや取り外しは、周辺機器の取扱説明書にしたがって正しく行ってください。
- ・周辺機器によっては、専用のケーブルが必要な場合があります。接続する前に確認して用意しておいてください。

リソースの競合について

周辺機器を増設すると、他の周辺機器とリソースが競合してどちらかが使えなくなることがあります。この場合は、次の手順でリソースが競合しないように変更してください。



参照

リソースについて→PART6の「割り込みレベルとDMAチャネル」(p. 222)

- 1 起動しているアプリケーションをすべて終了する
- 2 「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする
「システムのプロパティ」画面が表示されます。



メモ

CyberTrio-NXのモード変更を促す画面が表示された場合は、「アドバンスドモードに変更」をクリックしてください。そのあと、もう一度手順2を行ってください。

- 3 「デバイスマネージャ」タブをクリックする
「デバイスマネージャ」画面が表示されます。
- 4  や  が表示されていて動作しない周辺機器を選び、「プロパティ」ボタンをクリックする

- 5 「プロパティ」画面で「リソース」タブをクリックし、「自動設定を使う」を□にする
 - 6 競合しているリソースを「リソースの種類」一覧の中から選び、ダブルクリックする
「競合の情報」欄に、競合しているデバイスと、競合しているリソースの種類が表示されます。
 - 7 競合しないリソースの値を設定し、「OK」ボタンをクリックする
「競合するデバイス」欄に競合しているデバイスと競合しているリソースが表示されます。
-  チェック
- 他の周辺機器がそのリソースを使用している場合や、「この設定のリソースは変更できません」と表示された場合は、その値への変更はできません。
-  メモ
- 選んだ周辺機器によっては「ポート番号」と「I/Oの範囲」など複数の変更が必要になることがあります。
- 8 リソースが競合していないことを確認し、「プロパティ」画面で「OK」ボタンをクリックする
 - 9 「変更不可の環境設定の作成」の画面が表示されるので、「はい」ボタンをクリックする
元の画面に戻るまでに、しばらく時間がかかることがあります。そのままお待ちください。
 - 10 「OK」ボタンをクリックし、「システムのプロパティ」を閉じる
 - 11 「スタート」ボタン→「Windowsの終了」をクリックする
「Windowsの終了」画面が表示されます。
 - 12 「再起動する」を選び、「OK」ボタンをクリックする
再起動します。

周辺機器を使えるようにセットアップする

周辺機器を使うには、接続した周辺機器用のデバイスドライバをパソコンにセットアップする必要があります。デバイスドライバとは、パソコンと周辺機器との仲介をする周辺機器専用のソフトウェアのことで、ドライバと呼ぶこともあります。デバイスドライバのセットアップ方法は、周辺機器がプラグ&プレイ機能に対応しているかどうかによって異なります。



チェック

デバイスドライバが正しく組み込みなかった場合は、周辺機器が使用できないばかりか、パソコンの動作が不安定になることがあります。その場合は、周辺機器のマニュアルにしたがって、再度デバイスドライバを正しくセットアップしてください。

●「プラグ&プレイ機能」対応の周辺機器の場合

周辺機器を接続してWindowsを起動すると自動的にドライバの設定が行われ、周辺機器が使用可能な状態になります。



メモ

このパソコンにインストールされているWindows 98には、プラグ&プレイ機能用に多くの周辺機器のドライバがあらかじめ添付されています。接続しようとする周辺機器がプラグ&プレイ機能に対応しており、かつ添付されたドライバの中に該当するものがあれば、周辺機器の検出と設定が自動的に行われます。

●「プラグ&プレイ機能」に対応していない周辺機器の場合

周辺機器を接続したあと、ドライバの設定が必要な場合があります。設定の詳細は、このパソコンやドライバに添付のREADMEファイルや周辺機器のマニュアルをご覧ください。



メモ

READMEファイルは、「メモ帳」などのテキスト形式のファイルが開けるアプリケーションで簡単に見ることができます。

周辺機器の電源を入れる／切る順序

このパソコンに周辺機器を接続しているときには、次の順序で電源を入れたり、切ったりしてください。

● 電源を入れるとき

周辺機器 → パソコン

● 電源を切るとき

パソコン → 周辺機器

プリンタ

プリンタを接続する

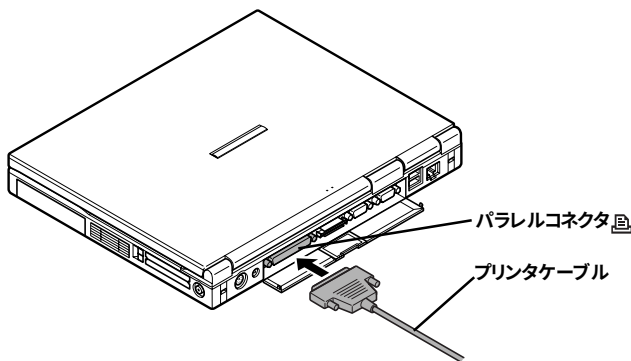
このパソコンに接続できるプリンタには、パラレルコネクタに接続するプリンタとUSBコネクタに接続するプリンタの2種類があります。パラレルコネクタにプリンタを接続するには、25ピンパラレルインターフェイスに対応したプリンタケーブルが必要です。



参照

USBプリンタを使う→このPARTの「USB対応機器」(p.144)

- 1 パソコンを使用中の場合は、「スタート」ボタン→「Windowsの終了」で「電源を切れる状態にする」を選び、「OK」ボタンをクリックして電源を切る
- 2 電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタを本体から取り外す
- 3 パラレルコネクタにプリンタケーブルの小さいほうのコネクタを向き(上下)に注意して差し込む



- 4 プリンタケーブルの大きいほうのコネクタをプリンタのコネクタに差し込む
接続についてはプリンタのマニュアルもご覧ください。
- 5 パソコンにACアダプタを接続する
- 6 プリンタの電源ケーブルとパソコンの電源コードをACコンセントに接続する

プリンタを設定する

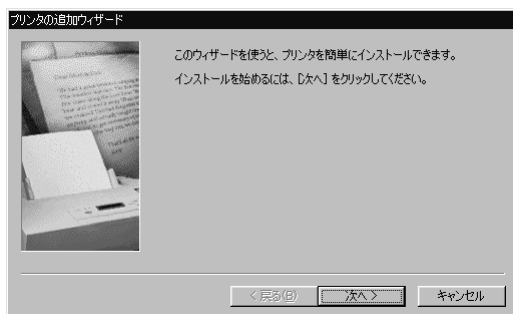
パラレルコネクタに接続したプリンタの設定は、使用するプリンタの機種ごとに、Windowsの「プリンタ」の画面で行います。例えば、会社で使うプリンタと家庭で使うプリンタの機種が異なる場合は、それぞれの機種に対して設定を行う必要があります。

プラグ&プレイ機能対応のプリンタを設定する

プラグ&プレイ機能(→p.120)に対応したプリンタを設定する場合、プリンタをパソコンに接続したあと、プリンタ→パソコンの順に電源を入れると、自動的にプリンタドライバの組み込みが行われます。

プラグ&プレイ機能を利用しないでセットアップを行う場合

- 1 プリンタが正しく接続され、プリンタの電源が入っていることを確認する
- 2 「スタート」ボタン→「設定」→「プリンタ」をクリックする
「プリンタ」の画面が表示されます。
すでに設定済みのプリンタがある場合は、その機種のアイコンが表示されています。
- 3 「プリンタの追加」アイコンをダブルクリックする
「プリンタの追加ウィザード」が表示されます。



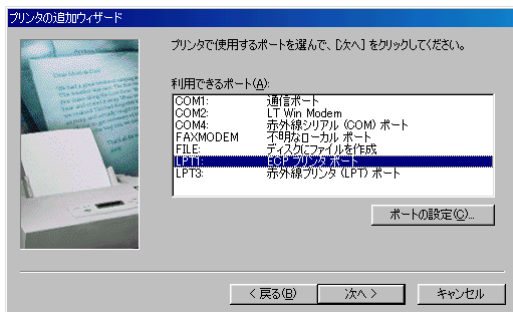
- 4 「プリンタの追加ウィザード」ウィンドウの「次へ」ボタンをクリックする
- 5 「プリンタはどこに接続されていますか?」と表示された場合は、「ローカルプリンタ」をクリックして「次へ」ボタンをクリックする
「製造元」と「プリンタ」のリストが表示されます。

6 表示されたリストの中から、使用するプリンタの製造元とプリンタの機種(または互換性のある機種)を選ぶ



プリンタにインストールディスク(ドライバディスク)が添付されており、そのインストールディスクを使用してセットアップを行う場合は、「ディスク使用」ボタンをクリックします。インストール場所を指定する画面が表示されたら、プリンタのマニュアルをご覧ください、インストールディスクの指定を行ってください。

7 「次へ」ボタンをクリックすると、プリンタを使用できるポートのリストが表示されるので、LPT1を選ぶ



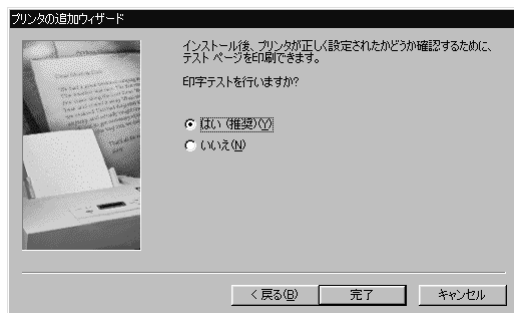
8 「次へ」ボタンをクリックし、表示された画面の「プリンタ名」欄に使用するプリンタの名前を付ける

この欄には手順6で選んだプリンタの機種名がプリンタ名として表示されるので、特に名前を付け直す必要がなければ、そのままにしておきます。
このプリンタを通常使用するプリンタとして登録する場合は、下欄の「はい」ボタンをクリックしてください。

9 「次へ」ボタンをクリックする

テスト印刷を行うかどうかを選ぶ画面が表示されます。

「はい(推奨)」を選ぶと、テストページの印刷によってプリンタの接続や設定が正常に行われたかどうか確認することができます。この場合は、あらかじめプリンタのマニュアルにしたがって用紙などをセットしておいてください。



10 設定が終了したら「完了」ボタンをクリックする

もし、今までの設定を変更したい場合は、「戻る」ボタンをクリックして前の設定画面に戻り、設定をやり直します。

このあと必要なファイルのコピーが行われます。ファイルのコピーがすべて終了すると、設定したプリンタのアイコンが「プリンタ」ウィンドウに表示されます。「Windowsのディスクを挿入してください」というメッセージが表示された場合は、「C: ¥WINDOWS¥OPTIONS¥CABS」を指定してください。



チェック

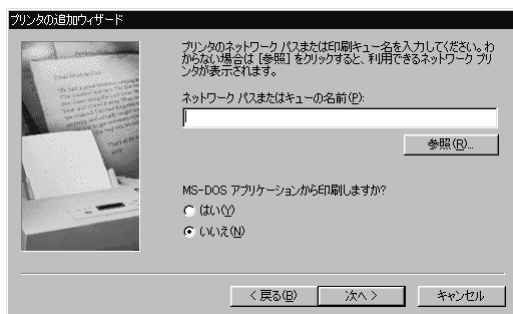
NEC製プリンタのMultiWriterシリーズ、MultiImpactシリーズでPrintAgentをお使いの場合は、スタンバイ機能に対応していないため、「コントロールパネル」の「電源の管理」の「電源設定」タブで「システムスタンバイ」を「なし」に設定して、スタンバイ機能が動作しないように設定してください。

ネットワーク上の共有プリンタを使うための設定をする

ネットワークに接続されているプリンタを使用する場合は、次のように設定します。設定するには、あらかじめプリンタのパスを調べておく必要があります。プリンタのパス名など、ネットワークプリンタについては、ネットワークの管理者にお問い合わせください。

1 「プリンタを設定する(→p.122)」の手順1～4を行う

- 2 「ネットワークプリンタ」をクリックして、「次へ」ボタンをクリックする
次のような画面が表示されます。



- 3 ネットワークパス名を入力する
「参照」ボタンをクリックすると、ネットワークに接続されているプリンタが表示されるので、そこから選ぶこともできます。
- 4 「次へ」ボタンをクリックし、あとは画面の指示にしたがってプリンタの設定を行う

外部ディスプレイを使う

CRTディスプレイを使う

このパソコンには別売のCRTディスプレイを接続することができます。CRTディスプレイの大画面を使った作業が可能になります。

CRTディスプレイ接続時の解像度と表示色

別売のCRTディスプレイでは、次の解像度と表示色を表示できます。

表示解像度 (ドット)	水平走査 周波数(KHz)	垂直走査 周波数(Hz)	表示色			
			16色	256色	65,536色	1,677万色
640×480	31.5	60	○	○	○	○
	37.5	75	×	○	○	○
	43.3	85	×	○	○	○
800×600	37.9	60	×	○	○	○
	46.9	75	×	○	○	○
	53.7	85	×	○	○	○
1,024×768	48.4	60	×	○	○	○
	56.5	70	×	○	○	○
	60.0	75	×	○	○	○
1,280×1,024	64.0	60	×	○	○	○
	80.0	75	×	○	○	○
	91.1	85	×	○	○	×
1,600×1,200	75.0	60	×	○	○	×
	93.8	75	×	○	×	×

○: 表示可能

×: 表示不可能

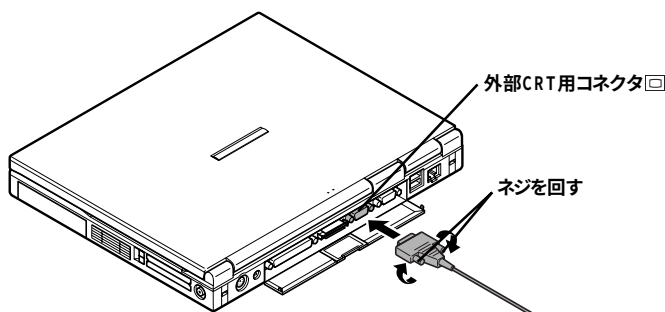


チェック

使用するCRTディスプレイによっては、上の表に記載されている走査周波数や解像度と異なる場合があります。CRTディスプレイを使用するときは、CRTディスプレイのマニュアルで、対応している走査周波数や解像度を確認してください。

CRTディスプレイを接続する

- 1 パソコンを使用中の場合は、「スタート」ボタン→「Windowsの終了」で「電源を切れる状態にする」を選び、「OK」ボタンをクリックして電源を切る
- 2 電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタをパソコンから取り外す
- 3 ディスプレイ用ケーブルをパソコンの外部CRT用コネクタに差し込み、ネジを回して固定する



- 4 CRTディスプレイの電源ケーブルを、ディスプレイ背面の電源コネクタに差し込む
詳しくはCRTディスプレイのマニュアルをご覧ください。
- 5 パソコンにACアダプタを接続する
- 6 CRTディスプレイの電源ケーブルとパソコンの電源コードをACコンセントに接続する
CRTディスプレイを接続した場合、パソコンはACアダプタで使用してください。

プロジェクタを使う

このパソコンには、別売のプロジェクタを接続することができます。プロジェクタは、プレゼンテーションなどに利用することができます。

プロジェクタと解像度について

別売のプロジェクタを使用する場合は、プロジェクタのマニュアルを参考にして表示解像度などを確認してください。

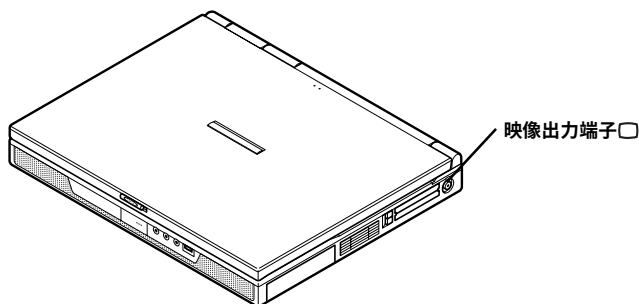


参照

プロジェクタとの接続のしかた→プロジェクタのマニュアル

テレビを使う

市販のビデオケーブルを使って、このパソコンの映像出力端子(□)とテレビやビデオなどのビデオ入力端子を持つ機器を接続すると、パソコンの画面をテレビに出力することができますようになります。



参照

テレビで表示できる表示色と解像度→PART1の「液晶ディスプレイ」(p.48)

接続した外部ディスプレイを設定する

表示するディスプレイを切り替える

キーボードの【Fn】を押しながら【F3】を押すと、キー操作で簡単に画面の出力先の切り替えを行うことができます。



参照

ホットキー機能について→PART1の「キーボード」(p.9)

ディスプレイに合わせてパソコンを設定する

別売のCRTディスプレイを使用したとき、表示されたメッセージが適切でなかったり、プラグ&プレイに対応していないディスプレイの場合には、次の操作を行ってください。

- 1 「コントロールパネル」を開き、「画面」アイコンをダブルクリックする
「画面のプロパティ」が表示されます。
- 2 「設定」タブをクリックし、「詳細」ボタンをクリックする
- 3 「モニタ」タブをクリックし、「変更」ボタンをクリックする
「デバイスドライバの更新ウィザード」が表示されます。
- 4 「次へ」ボタンをクリックする
- 5 「検索方法」で「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を作成し、インストールするドライバを選択する」を選んで、「次へ」ボタンをクリックする
- 6 「すべてのハードウェアを表示」を選ぶ
- 7 「デバイスドライバの更新ウィザード」の一覧から「製造元」と「モデル」を選ぶ
一覧に、接続したディスプレイのモデルが表示されない場合は、「製造元」欄で「(標準モニタの種類)」を選び、「モデル」欄で接続したディスプレイに対応した解像度を選んでください。
- 8 「次へ」ボタンをクリックし、再び「次へ」ボタンをクリックする
- 9 「完了」ボタンをクリックし、「閉じる」ボタンをクリックする
- 10 「OK」ボタンをクリックする
これでディスプレイの設定が完了しました。

PCカード

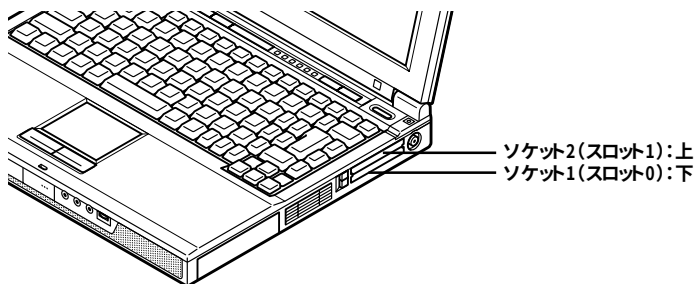
PCカードとPCカードスロットを使う

PCカードについて

PCカードには、メモ리카ードやモデムカード、SCSIインターフェイス対応機器をつなげるためのSCSIカードなどいくつかの種類があり、用途も幅広く使われています。PCカードを使うことで、パソコンの機能を拡張したり、さまざまな周辺機器を接続することができます。このパソコンではPC Card Standard準拠のPCカードが使用できます。

PCカードスロットについて

- TYPE IかTYPE IIのPCカードを上下のスロットに1枚ずつ2枚まで、または上下のスロットを合わせて1枚のTYPE IIIのPCカードを使用できます。
- ZVポート対応のPCカードはソケット1(スロット0)で使用できます。
- CardBus対応のPCカードは、ソケット1(スロット0)またはソケット2(スロット1)の両方で同時に使うことができます。
- MS-DOSモードでは使用できません。



PCカードの取り扱いについて

PCカードは精密にできています。PCカードやスロットの故障を防ぐため、次の点に注意してください。

- ・高温多湿あるいは低温の場所に放置しないでください。
- ・濡らさないでください。
- ・重いものを乗せたり、ねじ曲げたりしないでください。
- ・ぶつけたり、落としたりして衝撃を与えないでください。
- ・PCカードの端子部分に金属などを差し込まないでください。

PCカードを使用するときの注意

- ・PC Card Standardに準拠していないPCカードは使用できません。対応していないPCカードを無理に押し込むと、故障の原因となります。
- ・ATAカードをセットしていると、カードをセットしていないときよりもスタンバイ状態または休止状態になるまでに時間がかかります。
- ・マルチファンクションカードとATAカードを同時にセットして使用するときは、下側のスロットにマルチファンクションカードを、上側のスロットにATAカードをセットしてください。
- ・CardBus対応PCカードのドライバをインストールしているときに、「例外エラー」が発生する場合があります。この場合、パソコンを再起動すると、正常にインストールを完了することがあります。
- ・ZVポートを利用する場合は、使用するPCカードがこのパソコンに対応しているかをあらかじめ販売元に確認してください。

PCカードのセットのしかたと取り出しかた

⚠ 注意



高温注意

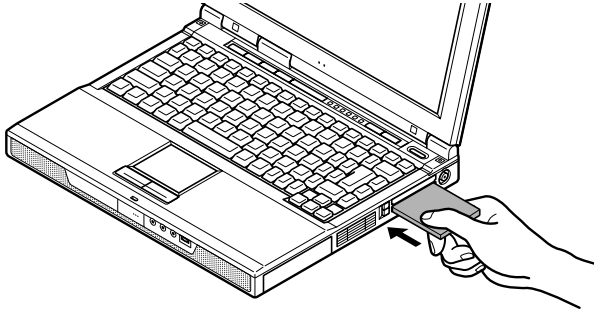
- 本機の使用後や使用直後はPCカードが熱くなっていますので、出し入れにご注意ください。

PCカードをセットする／取り出すときの注意

- ・PCカードには表と裏があり、スロットに差し込む方向も決まっています。間違った向きで無理やり差し込むと、コネクタやスロットを破損するおそれがあります。
- ・スタンバイ状態または休止状態のときは、PCカードをセットしたり、取り出したりしないでください。パソコンの機器構成が変更されると、データが消失してしまうことがあります。
- ・アプリケーションを使用中は、PCカードをセットしたり、取り出したりしないでください。

PCカードをセットする

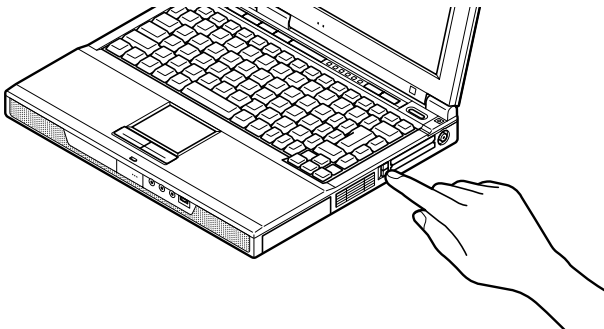
- 1 PCカードの差し込む向きを確認し、ラベル面を上にして、水平に静かに差し込む



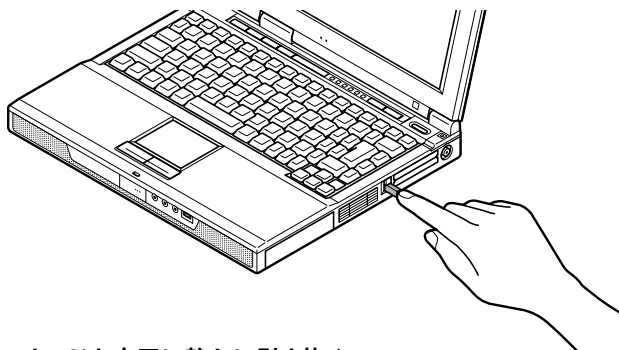
PCカードを取り出す

PCカードを取り出すときは、必ず次の手順で取り出してください。

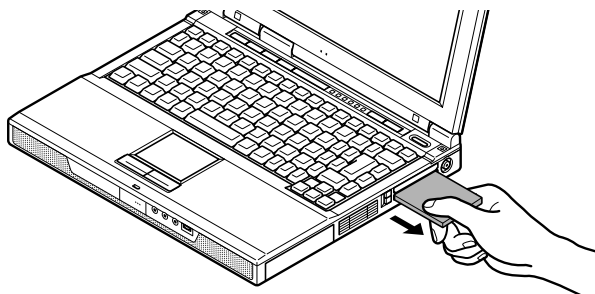
- 1 タスクバーにあるPCカードのアイコン(📇)をダブルクリックする
「PCカード(PCMCIA)のプロパティ」が表示されます。
- 2 取り外したいPCカードをクリックする
- 3 「停止」ボタンをクリックする
しばらくすると、「このデバイスは安全に取りはずせます」と表示されます。
- 4 「OK」ボタンをクリックする
- 5 本体のPCカードイジェクトボタンを押す
イジェクトボタンが手前にとび出します。



6 もう一度イジェクトボタンを押す PCカードが少しとび出します。



7 PCカードを水平に静かに引き抜く



上記の手順以外の方法でPCカードを抜きとった場合は、「予期しないPCカードの取りはずし」ウィンドウが表示される場合があります。「OK」ボタンをクリックして、ウィンドウを閉じてください。

PCカードの割り込みレベルを設定する

PCカードによっては、割り込みレベルの設定がパソコンの他の設定と重なってしまう場合があります。PART6の「割り込みレベルとDMAチャネル」(→p.222)やPCカードのマニュアルをご覧ください。割り込みレベルが重なっていないか確認してください。割り込みレベルが重なる場合は、重ならないように設定を変更してください。



参照

割り込みレベルの設定を変更する→このPARTの「リソースの競合について」(p.118)

メモリ

メモリを増設する

別売の増設RAMボードを取り付けてメモリを増やすことで、より多くのアプリケーションを同時に起動したり、大きなデータをより高速に扱うことができるようになります。

このパソコンにはメモリスロットが2つあり、そのうちの1つには購入時に64Mバイトのメモリが取り付けられています。



メモ

購入時に取り付けられているメモリを取り外し、別売の128Mバイトの増設RAMボードを2枚取り付けると、最大256Mバイトまでメモリを増設することができます。

このパソコンでは、次の増設RAMボードが使用できます。

型名	メモリ容量
PK-UG-M024	64Mバイト
PK-UG-M025	128Mバイト

増設RAMボードを取り扱うときの注意

△注意



感電注意

- 増設RAMボードの取り付け／取り外しをするときは、本機の電源を切ったあと、電源コードとバッテリーパックを取り外してください。電源コードやバッテリーパックが取り付けられたまま増設RAMボードの取り付け／取り外しをすると、感電の原因となります。

- ・ 増設RAMボードは静電気に大変弱く、身体に静電気を帯びた状態で増設RAMボードを扱うと破損する原因となります。増設RAMボードに触れる前に、アルミサッシやドアのノブなど身近な金属に手を触れて、静電気を取り除いてください。
- ・ 増設RAMボードのコネクタ部分には手を触れないでください。接触不良など、故障の原因となります。
- ・ ボード上の部品やハンダ付け面には触れないよう注意してください。
- ・ 増設RAMボードを間違った向きで無理に取り付けようとすると、パソコンのコネクタ部や増設RAMボードが故障する原因となります。取り付け方向に注意してください。

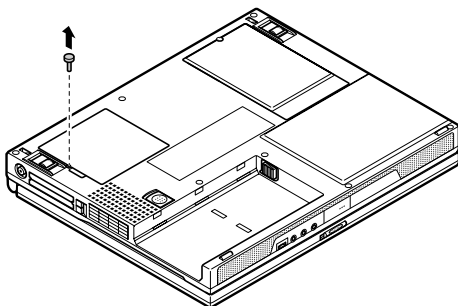
増設RAMボードの取り付けかたと取り外しかた

2

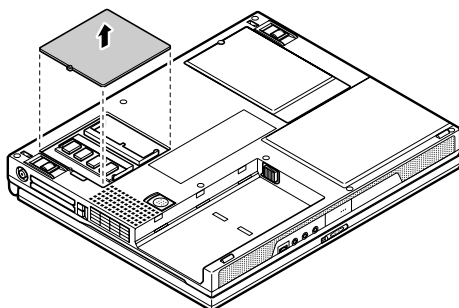
周辺機器を使う

増設RAMボードを取り付ける

- 1 パソコンを使用中の場合は、「スタート」ボタン→「Windowsの終了」で「電源を切れる状態にする」を選び、「OK」ボタンをクリックして電源を切る
- 2 電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタをパソコンから取り外す
- 3 液晶ディスプレイを閉じて、パソコンを裏返す
- 4 バッテリーパックを取り外す(→p.60)
- 5 図のネジをプラスドライバで取り外す



- 6 メモリスロットのカバーを取り外す

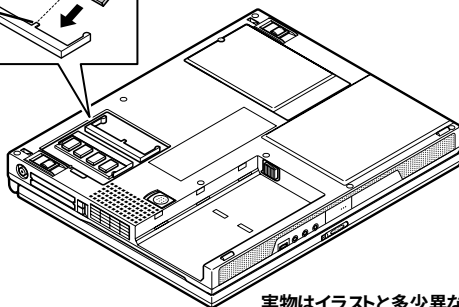
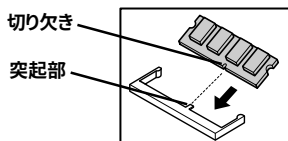


7 増設RAMボードの切り欠き部分をコネクタの突起部に合わせ、コネクタに対して約30度の挿入角度で、増設RAMボードの端子が当たるまで挿入する

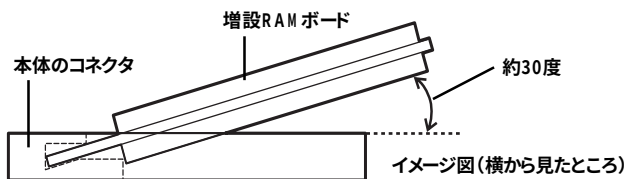


チェック

増設RAMボードの表と裏が逆の場合は、増設RAMボードの切り欠きとコネクタの突起部の位置が合わず、挿入することができませんので、よく確認してください。



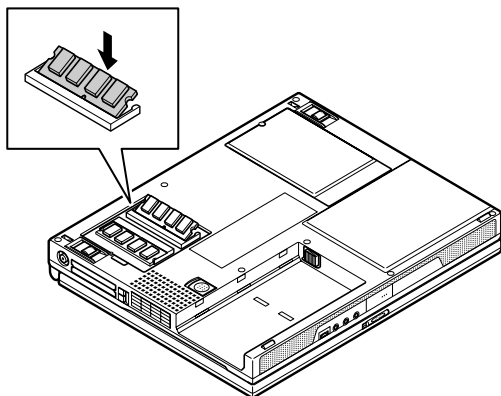
実物はイラストと多少異なる場合があります



チェック

挿入するときに、コネクタが固いことがあります。奥までしっかり押し込んでください。しっかり押し込まずに次の手順を行うと、コネクタを破損するおそれがあります。

8 カチッと音がする位置まで増設RAMボードをコネクタに強く倒し込む

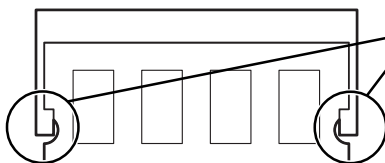


9 増設RAMボードがコネクタにしっかりロックされたことを確認する



チェック

確実にロックされていないと、本体のコネクタ部や増設RAMボードの故障の原因となります。また、パソコンが正しくメモリを認識できないこともあります。



両方がロックされていることを確認してください。

10 メモリスロットのカバーを元に戻し、外したネジを本体底面に取り付ける

11 バッテリーパックとACアダプタを取り付ける

休止状態の機能(→p.66)を使用する方は、続けて次の手順12～13の操作を行ってください。設定を行わないと、休止状態の機能が使用できなくなります。

12 パソコンの電源を入れる

起動直後にメッセージが表示されますが、使用する上で支障はありません。

13 「休止状態の設定を解除する」(→p.68)の手順にしたがって設定を解除したあと、「休止状態を再設定する」(→p.69)の手順にしたがって再設定を行う

メモリ増設後は、次の「増設したメモリ(RAM)の確認」にしたがって、正しく増設できたかどうか確認してください。

増設したメモリ(RAM)の確認

増設したメモリがパソコンに正しく認識されているかどうかを確認します。

1 「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする



メモ

CyberTrio-NXのモード変更を促す画面が表示された場合は、「アドバンスドモードに変更」をクリックしてください。そのあと、もう一度手順1を行ってください。

2 「全般」タブで右下に表示されている「***MBのRAM」の数値を確認する ***MBがこのパソコンの総メモリ容量です。



メモ

システムの状態によっては、増設したメモリ分より容量が少なく表示される場合がありますが故障ではありません。

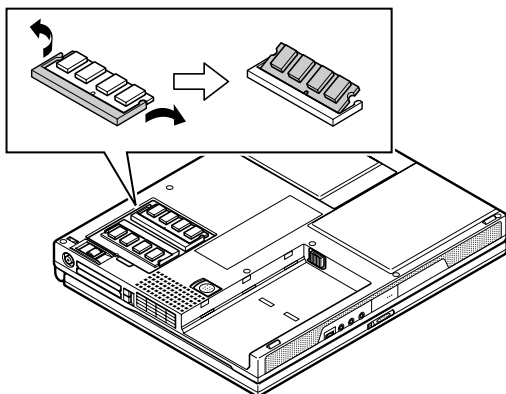
メモリ容量が増えていない場合は、次のことを確認してください。

- ・ 増設RAMボードが正しく取り付けられているか
- ・ このパソコンで使用できる増設RAMボードを取り付けているか

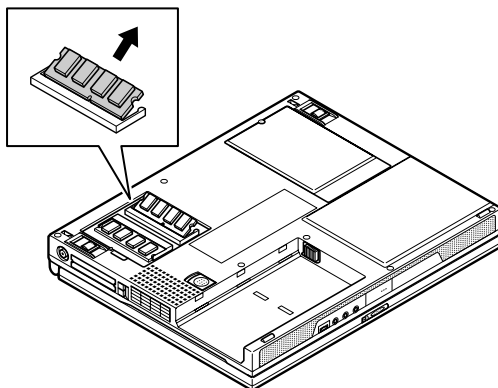
増設RAMボードを取り外す

1 「増設RAMボードを取り付ける」の手順1～6にしたがって、メモリスロットのカバーを取り外す

2 メモリスロットのコネクタの両端部分を左右に押し広げる 増設RAMボードが図のようにおきあがります。



3 そのまま増設RAMボードを斜めに引き抜く



4 メモリスロットのカバーを元に戻し、外したネジを本体底面に取り付ける

5 バッテリーパックを取り付ける

休止状態の機能(→p.66)を使用する方は、続けて次の手順6～7の操作を行ってください。設定を行わないと、休止状態の機能が使用できなくなります。

6 パソコンの電源を入れる

起動直後にメッセージが表示されますが、使用する上で支障はありません。

7 「休止状態の設定を解除する」(→p.68)の手順にしたがって設定を解除したあと、「休止状態を再設定する」(→p.69)の手順にしたがって再設定を行う

ポートバー

ポートバーを使う

ポートバーとは、パソコンに周辺機器を取り付けるためのコネクタ(ポート)をひとつのバー(棒状のもの)にまとめた機器のことです。このパソコンでは、別売のポートバー(PC-VP-WU05)を利用することができます。

本体のコネクタに直接周辺機器を接続していると、携帯して使用するたびにすべての周辺機器の取り付け／取り外しを行わなくてはなりませんが、ポートバーを利用すると、ポートバーのみの取り付け／取り外しで済むので便利です。



チェック

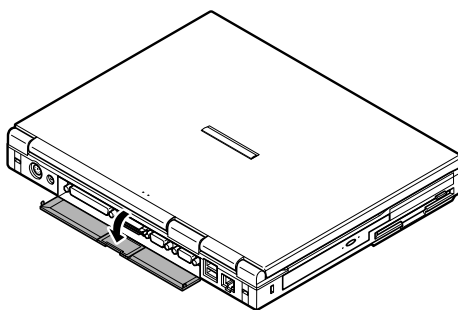
ポートバーを使用すると、内蔵モデムは使用できなくなります。

ポートバーの取り付けかたと取り外しかた

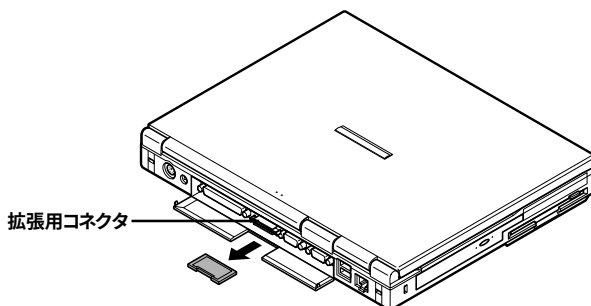
取り付ける前の準備

ポートバーを取り付ける前に、本体背面のカバーから拡張用コネクタのカバーを取り外しておきます。

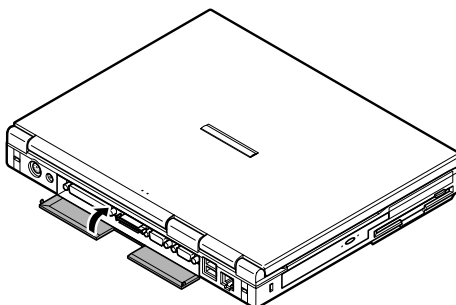
1 本体背面のカバーを開ける



2 拡張用コネクタのカバーを図の矢印の方向にスライドさせて外す



3 本体背面のカバーを閉じる

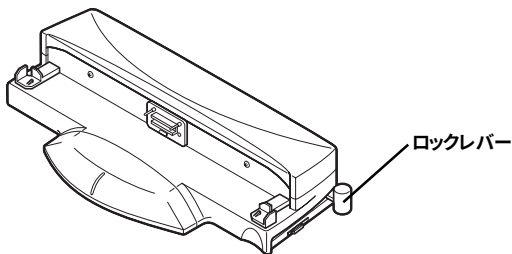


メモ

外した拡張用コネクタのカバーは大事に保管しておいてください。また、ポートバーを取り付けていないときは、コネクタカバーを取り付けておくようにしてください。

ポートバーを取り付ける

- 1 ポートバーのロックレバーが図の位置にあることを確認する



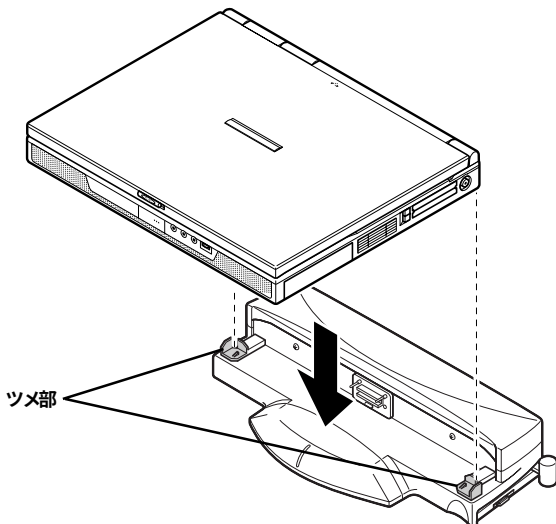
- 2 パソコンを使用中の場合は、「スタート」ボタン→「Windowsの終了」で「電源を切れる状態にする」を選び、「OK」ボタンをクリックして電源を切る
- 3 本体底面のツメを立てている場合は、たおす(→p.4)



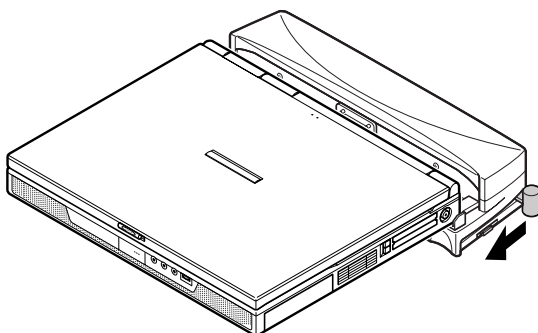
チェック

本体底面のツメを立てたままポートバーに接続すると、本体またはポートバーを破損するおそれがあります。

- 4 ポートバーのツメ部に合わせて本体を置く

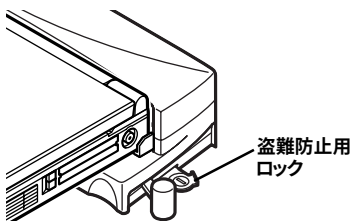


- 5 ポートバーのロックレバーを図のように手前に動かす
本体とポートバーがロックされます。



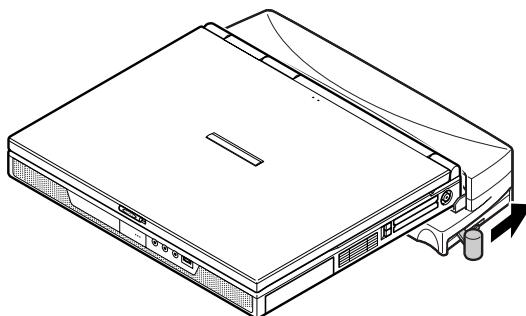
メモ

ポートバーの盗難防止用ロックを利用すると、ポートバーからパソコン本体を取り外せなくなり、盗難の防止に役立ちます。
盗難防止用ロックは、本体とポートバーを接続したあとポートバーから引き出してください。



ポートバーを取り外す

- 1 パソコンを使用中の場合は、「スタート」ボタン→「Windowsの終了」で「電源を切れる状態にする」を選び、「OK」ボタンをクリックして電源を切る
- 2 ポートバーのロックレバーを図のように動かす



- 3 本体を持ち上げてポートバーから取り外す

USB 対応機器

USBとは

このパソコンにはUSB対応機器を取り付けるためのUSBコネクタが2つあります。USBとはUniversal Serial Busの頭文字をとったもので、コネクタの形状が統一されており、127台までの機器を接続することができます。また、電源を切らずにプラグの抜き差しが可能で、プラグ&プレイ機能にも対応しています。

USBコネクタはUSBポートと呼ぶこともあります。

現在利用できる主なUSB対応機器として、次のようなものがあります。

- ・プリンタ
- ・イメージスキャナ
- ・デジタルカメラ
- ・ISDNターミナルアダプタ など

USBコネクタに接続する

接続する前に

USB対応機器を接続する前に、次の準備をしてください。

● 接続するUSB対応機器のマニュアルを読む

あらかじめ、機器に添付のマニュアルをよく読んでおきます。

機器によっては、接続する前や接続したあとに、ドライバのインストールや各種スイッチなどの設定が必要な場合があるので、そのときはマニュアルにしたがって設定します。また、ドライバなどインストールに必要なCD-ROMやフロッピーディスクが添付されていれば用意しておいてください。



メモ

USB対応機器は、パソコンの電源を入れたままの状態でも接続できますので、接続前に電源を切る必要はありません。

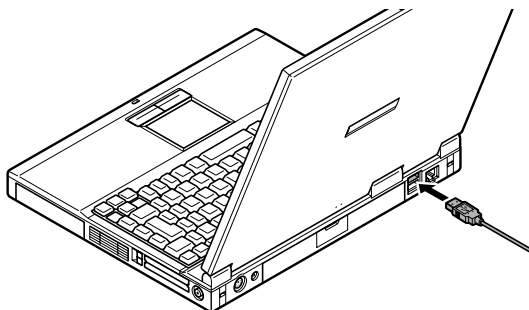
USBコネクタにプラグを差し込む



チェック

スタンバイ状態中、スタンバイ状態へ移行中、スタンバイ状態から復帰中のときは、USBコネクタにプラグを抜き差ししないでください。

1 パソコン本体のUSBコネクタにプラグを差し込む



チェック

はじめてUSB対応機器を接続したときに、画面に何も表示されない場合は、USBコネクタにプラグを正しく差し込めていない可能性があります。いったんプラグを抜き、もう一度差し込んでみてください。

なお、USB対応機器は一度設定をすれば、次回からはプラグを差し込むだけで、すぐに機器が使用可能になります。このとき画面には何も表示されませんが、故障ではありません。

2 接続したUSB対応機器がパソコンに正しく認識されたかどうかを確認する

確認する方法は、機器の種類によって異なります。機器によっては、接続後さらに別の設定作業が必要になる場合があります。詳しくは、各USB対応機器に添付のマニュアルなどをご覧ください。

その他の機器を使う

その他の周辺機器について

このパソコンでは、次のような別売の機器を使用することができます。

種 類	機 器
オーディオ機器	ヘッドホン、マイクロホン、オーディオ機器など
入力装置	マウス、外付けキーボード、テンキーボード、デジタルカメラ、イメージスキャナなど
通信機器	外付けモデム、ターミナルアダプタなど

それぞれの周辺機器をパソコンのどのコネクタに接続するかは、周辺機器が使用しているインターフェイスによって異なります。また、周辺機器によってインターフェイスが決まっている訳ではありません。詳しくは、各周辺機器のマニュアルをご覧ください。



チェック

スタンバイ状態または休止状態のときは、周辺機器を接続したり、接続していた機器を取り外したりしないでください。パソコンの機器構成が変更されると、データが消えてしまうことがあります。

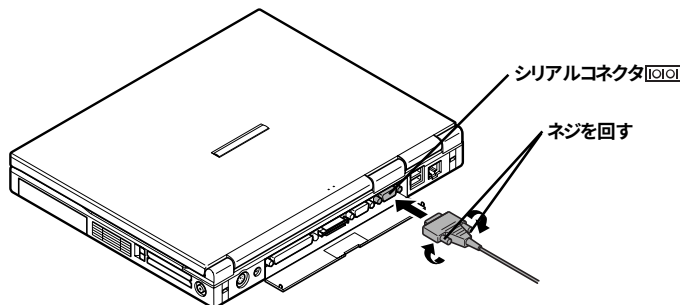
シリアルコネクタ

シリアル対応機器を接続するためのコネクタです。一般的なコンピュータ用語ではこれをシリアルポートと呼び、WindowsではCOM1やCOM2の名称で呼んでいます。シリアルコネクタには、外付けモデムやターミナルアダプタなどを接続することができます。また、ほかのパソコンとケーブルで接続してデータ転送することもできます。



参照

ほかのパソコンとケーブル接続でファイル転送する→PART1の「ファイル転送機能」の「ケーブルによるファイル転送を利用する」(p.82)



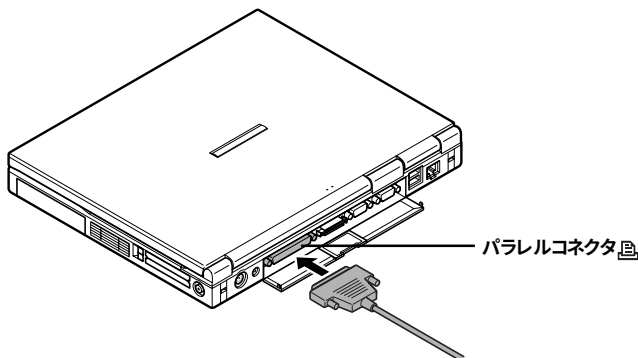
パラレルコネクタ

別売のプリンタなどのパラレル対応機器を接続するためのコネクタです。一般的なコンピュータ用語ではこれをパラレルポートと呼び、WindowsではプリンタポートまたはLPT1の名称で呼んでいます。パラレル対応機器であればプリンタ以外の機器も接続することができます。また、シリアルコネクタと同じように、ほかのパソコンとケーブルで接続してデータ転送することができます。



参照

ほかのパソコンとケーブル接続でファイル転送する→PART1の「ファイル転送機能」の「ケーブルによるファイル転送を利用する」(p.82)



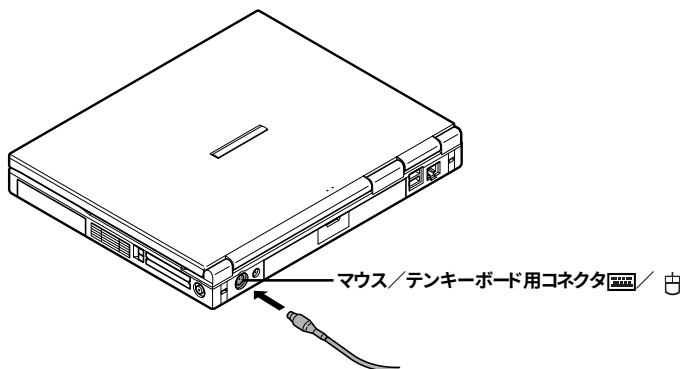
マウス／テンキーボード用コネクタ

別売のマウスやテンキーボードなどのPS/2タイプの機器を取り付けるためのコネクタです。



チェック

マウスやテンキーボードを接続するときは、必ず、「スタート」ボタン→「Windowsの終了」でパソコンの電源を切ってから接続してください。



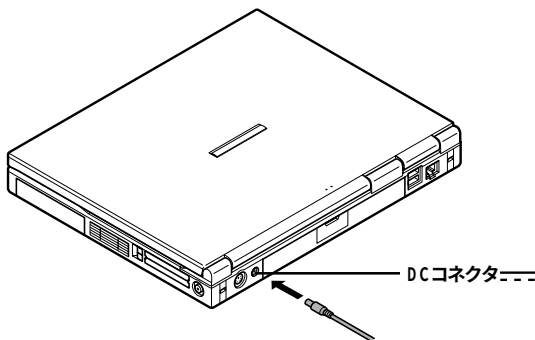


メモ

マウスとテンキーボードの両方を同時に接続したいときは、別売のYケーブル (PK-KB012)、またはマウスに添付されているYアダプタを使ってください。

DCコネクタ

添付のACアダプタを取り付けるコネクタです。



ACアダプタ以外にも、別売のカーアダプタ (PC-VP-WP05) を接続することができます。カーアダプタを使うと、車のシガーライターからバッテリーを充電することができます。

カーアダプタを使用する場合には、カーアダプタ本体 (PC-VP-WP05) とカーアダプタケーブル (PC-VP-WP05-04) の両方を用意する必要があります。



チェック

- ・カーアダプタを接続する場合は、必ずパソコンの電源を切ってから接続してください。
- ・車が走行しているときにはパソコンの電源を入れないでください。振動／衝撃などによってパソコンが故障するおそれがあります。

3

アプリケーションの追加と削除

アプリケーションの追加(インストール)や削除について説明しています。

このパソコンに添付されているアプリケーションを追加したり削除したりするときは、必ずここをお読みください。

インストールされていないアプリケーションの追加

インストールが必要なアプリケーションや機能

このパソコンには、あらかじめ、さまざまなアプリケーションがインストールされていますが、それ以外にもインストールされていないものがいくつかあります。次のアプリケーションや機能は、購入時にはインストールされていません。使いたい場合は、別途セットアップする必要があります。

Microsoft/Shogakukan Bookshelf Basicのセットアップ(Office 2000 モデルのみ)

CD-ROMに入った辞書です。国語辞典、英和辞典、和英辞典の3種類の辞書を1枚のCD-ROMに収めており、言葉に関するさまざまな情報を得ることができます。

「Office 2000 Personal」添付の「Microsoft/Shogakukan Bookshelf Basic」CD-ROMをCD-ROMドライブまたはCD-RWドライブにセットして、インストールを行います。

インストール方法については、CD-ROMに添付のマニュアルをご覧ください。

一太郎10・花子10パックの機能をフルに使う(一太郎モデルのみ)

このパソコンにインストールされている「一太郎10・花子10パック」は、「標準」でインストールされており、購入時の状態ですべての機能を利用できるわけではありません。購入時の状態で使用できる機能については、「一太郎10・花子10パック」に添付のマニュアルに記載されている「各セットアップ方法でコピーされる機能について」をご覧ください。

「標準」以外の機能を使用する場合は、添付の「一太郎10・花子10パックCD-ROM」から追加してください。追加の方法については、「一太郎10・花子10パック」に添付のマニュアルに記載されている「一太郎10・花子10パックの機能を追加する」をご覧ください。

アプリケーションの削除

アプリケーションを削除する前に

削除が必要なとき

ここで説明するのは、このパソコンに標準でインストールまたは添付されているアプリケーションの削除方法です。購入後に、ご自分でインストールしたアプリケーションの削除方法については説明していませんので、アプリケーションに添付のマニュアルをご覧ください。

次のような場合にアプリケーションを削除してください。

- ・ハードディスクの空き容量を増やしたい場合
- ・通常使わないアプリケーションがある場合

削除方法

削除の方法は、アプリケーションによって異なります。次の3つの方法があるので、削除しようとしているアプリケーションの削除方法を確認してください。

- ・インストーラ-NXを使って削除するアプリケーション(→p.152)
- ・コントロールパネルを使って削除するアプリケーション(→p.155)
- ・アンインストール機能を使って削除するアプリケーション(→p.156)

削除するときの注意

アプリケーションを削除する前に、次の点に注意してください。

- ・「Acrobat Reader」は、「Intellisync」、「駅すばあと」などに添付のPDF形式のオンラインドキュメントを読むために必要ですので、削除しないようにしてください。
- ・削除の際、アプリケーションが表示するメッセージや画面が他のウィンドウに隠れる場合があります。このような場合は、他のウィンドウを最小化して、メッセージや画面を表示させてください。
- ・アプリケーションによっては、削除中に「共有ファイルを削除しますか?」、「共有コンポーネント」などのウィンドウが表示される場合があります。このようなウィンドウは、インストールされているアプリケーションが共通で使用していると思われるファイルを削除しようとしたときに表示されます。このようなウィンドウが表示された場合は、「すべていいえ」や「すべて残す」などを選んで、ファイルを削除しないようにしてください。
- ・アプリケーションによっては、削除したときに、一部のフォルダおよびデスクトップやスタートメニューのショートカットのアイコンが残ることがあります。この状態でもパソコンを操作する上では支障はありませんが、アイコンを削除するには、各アプリケーションの削除方法にしたがって操作してください。

- ・ワンタッチスタートボタンに割り当ててあるアプリケーションを削除した場合に
は、ワンタッチスタートボタンの設定をやり直してください。
- ・削除を途中で中断した場合に、そのままではアプリケーションを使用できない場
合があります。その際にはパソコンを再起動してください。
- ・万一の場合に備えて、アプリケーションで作成したデータなどをバックアップし
ておくことをおすすめします。



参照

バックアップ-NXを使う→「サポートセンタ」-「困ったときのQ&A」-「トラブルの予防」

インストーラ-NXを使って削除する

インストーラ-NXを使って削除するアプリケーション

次のアプリケーションは、「インストーラ-NX」を使って削除をします。

- ・10円メールマスター
- ・Acrobat Reader
- ・Angel Line
- ・A O L
- ・BIGLOBE インターネット接続ツール
- ・BIGLOBE インターネット無料体験
- ・BIGLOBE 電話で入会ナビ
- ・CyberCoach- NX
- ・CyberTrio- NX
- ・CyberWarner- NX
- ・DION かんたんインターネット2.0
- ・FAX- NX
- ・Hatch inside
- ・Intellisync
- ・Jet-Audio Player
- ・KaraOK!※
- ・NEWEB サインアップ
- ・MAGIC FLIGHT
- ・ODN(Open Data Network)
- ・PC ポータル
- ・PostPet
- ・So-netサインアップ※
- ・ThumbsStudio
- ・Virtual CD 2
- ・VirusScan

- @niftyでインターネット
- アクティブメニューNX
- いま、いくら? その2
- インターネット設定切替ツール
- 駅すばあと※
- コペルニックライト
- てきばき家計簿ママ 2 Plus
- サポートセンタ
- ハローキティのハッピーメール
- 筆王
(筆王を削除する場合は、「筆王ユーザーズガイド」ではなく、「サポートセンタ」-「困ったときのQ&A」-「アプリケーションの追加と削除」の手順にしたがって作業を行ってください。)
- プレーヤ- NX
- ホームページスクラップブックEX
- 翻訳アダプタII CROSSROAD
- マスターネットサインアップツール
- 用語集

※:購入時はインストールされていません

インストーラ-NXを使う

インストーラ-NXを使ってアプリケーションを削除する場合は、次の手順で行います。



チェック

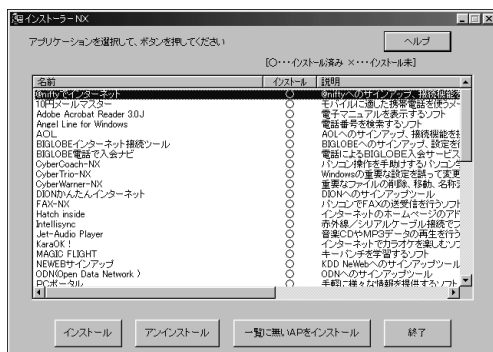
インストーラ-NXを起動する前に、CyberTrio-NXのモードを「アドバンスモード」にしておいてください(購入時の設定は「ベーシックモード」です)。



参照

CyberTrio-NXのモード変更→『困ったときのQ&A』PART1の「CyberTrio-NXのモードを変更する」

- 1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「アプリケーション」→「インストーラ-NX」をクリックする
次の画面が表示されます。



チェック

アプリケーションによっては、追加したアプリケーションのコンポーネントがインストーラ-NXの起動画面のアプリケーション一覧に、「一般AP」として表示されています。

- 2 削除(アンインストール)するアプリケーションをクリックする

- 3 「アンインストール」ボタンをクリックする

「アンインストール手順について」のメッセージが表示されます。
表示されたメッセージにしたがって削除を行ってください。

「Jet-Audio Player」の削除方法は、次の「Jet-Audio Playerの削除」をご覧ください。

その他のアプリケーションの削除方法については、「サポートセンタ」をご覧ください。



参照

アプリケーションの削除→「サポートセンタ」-「困ったときのQ&A」-「アプリケーションの追加と削除」

■ Jet-Audio Playerの削除

- 1 「インストーラ-NXを使う」(→p. 153)の手順1を行う
インストーラ-NXの画面が表示されます。

2 一覧から「Jet-Audio Player」をクリックする

3 「アンインストール」ボタンをクリックする

「アンインストール手順について」のメッセージが表示されます。



チェック

ここでは、表示されたメッセージにしたがって「サポートセンタ」を参照する必要はありません。そのまま次の手順4に進んでください。

4 「はい」ボタンをクリックする

「Jet-Audio Player」とそのすべてのコンポーネントを削除しますか?」と表示されます。

5 「はい」ボタンをクリックする

「共有ファイルを削除しますか?」と表示された場合は、「すべていいえ」ボタンをクリックします。

アプリケーションの削除が終了すると、「アンインストールが完了しました。」表示されます。

6 「アンインストールが完了しましたが、いくつかの項目は削除できませんでした。」と表示された場合は、「詳細…」ボタンをクリックする

画面に表示されているフォルダを、エクスプローラなどを使って削除してから、「OK」ボタンをクリックしてください。

7 「OK」ボタンをクリックする

コントロールパネルを使って削除する

コントロールパネルを使って削除するアプリケーション

次のアプリケーションは、「コントロールパネル」を使って削除します。

- DirectCD
- Easy CD Creator
- Office 2000 Personal (Office 2000 モデルのみ)
- パソコン大学一年生 for 一太郎10/三四郎9 (一太郎モデルのみ)
- パソコン大学一年生 for Word2000/Excel2000 (Office 2000 モデルのみ)
- パソコン大学一年生 for Windows98
- 一太郎10・花子10パック (一太郎モデルのみ)

コントロールパネルを使う

コントロールパネルを使ってアプリケーションを削除する場合は、次の手順で行います。

- 1 「コントロールパネル」を開き、「アプリケーションの追加と削除」アイコンをダブルクリックする
「アプリケーションの追加と削除のプロパティ」が表示されます。
- 2 「インストールと削除」タブをクリックする

各アプリケーションの削除方法については、「サポートセンタ」をご覧ください。



参照

アプリケーションの削除→「サポートセンタ」-「困ったときのQ&A」-「アプリケーションの追加と削除」



チェック

「コントロールパネル」の「アプリケーションの追加と削除」でアプリケーションを選んで「追加と削除」ボタンをクリックして削除を開始すると、中断しても、そのままではアプリケーションを使用できないことがあります。その場合は、パソコンを再起動して、アプリケーションを再度インストールしてください。

アンインストール機能を使って削除する

RealPlayer™ G2は、アプリケーションのアンインストール機能を使って削除します。次の手順にしたがって、削除を行ってください。

- 1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「Real」→「RealPlayer G2 アンインストーラ」をクリックする
「RealPlayer G2と、そのすべてのコンポーネントを完全に削除しますか?」と表示されます。
- 2 「OK」ボタンをクリックする
アプリケーションの削除がはじまります。
アプリケーションの削除が終了すると、「RealPlayer G2は正常にアンインストールされました。」と表示されます。
- 3 「OK」ボタンをクリックする

削除したアプリケーションの再追加

アプリケーションを再追加する前に

追加方法

削除したアプリケーションは、添付のCD-ROMを使って再追加することができます。追加の方法は、アプリケーションによって異なります。次のような方法があるので、追加しようとするアプリケーションの追加方法を確認してください。

- ・インストーラ-NXで自動インストールする
- ・インストーラ-NXで手動インストールする(→p.161)
- ・アプリケーション独自の方法でインストールする(→p.163)

追加するときの注意

- ・アプリケーションCD-ROMには、「Vol.1」「Vol.2」の2枚があります。インストーラ-NXを使ってアプリケーションをインストールするときにメッセージが表示されますので、指定されたアプリケーションCD-ROMを利用してください。
- ・追加の際、アプリケーションが表示するメッセージや画面が他のウィンドウに隠れる場合があります。このような場合は他のウィンドウを最小化して、メッセージや画面を表示させてください。
- ・アプリケーションのインストール先を変更する場合は、「C:¥Program Files」「C:¥Windows」などの、システムで使用する重要なフォルダや他のアプリケーションがインストールされているフォルダを指定しないでください。これらのフォルダにインストールする場合は、「C:¥Program Files¥Application」のようなサブフォルダを作成し、サブフォルダにインストールしてください。

インストーラ-NXを使って自動でインストールできるアプリケーション

次のアプリケーションは、このパソコンに添付されているアプリケーションCD-ROMを使って追加します。インストール時に設定をしなくても、購入時に近い状態で自動インストールできます。

- ・10円メールマスター
- ・BIGLOBEインターネット接続ツール
- ・BIGLOBEインターネット無料体験
- ・BIGLOBE電話で入会ナビ
- ・CyberCoach-NX
- ・CyberTrio-NX
- ・CyberWarner-NX

- DIONかんたんインターネット2.0
- FAX-NX
- Hatch inside
- Intellisync
- MAGIC FLIGHT
- NEWEB サインアップ
- ODN(Open Data Network)
- PCポータル
- RealPlayer G2
- ThumbsStudio
- Virtual CD 2
- VirusScan
- @niftyでインターネット
- アクティブメニューNX
- いま、いくら? その2
- インターネット設定切替ツール
- 駅すばあと
- コペルニックライト
- サポートセンタ
- ハローキティのハッピーメール
- 筆王
(筆王を追加する場合は、「筆王ユーザーズガイド」ではなく、「サポートセンタ」-「困ったときのQ&A」-「アプリケーションの追加と削除」の手順にしたがって作業を行ってください。)
- プレーヤ-NX
- ホームページスクラップブックEX
- 翻訳アダプタII CROSSROAD
- マスターネットサインアップツール
- 用語集

追加方法

次の手順で追加(インストール)します。



チェック

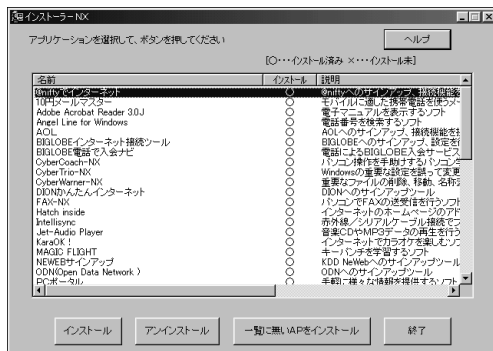
インストーラ-NXを起動する前に、CyberTrio-NXのモードを「アドバンスモード」にしておいてください(購入時の設定は「ベーシックモード」です)。



参照

CyberTrio-NXのモード変更→『困ったときのQ&A』PART1の「CyberTrio-NXのモードを変更する」

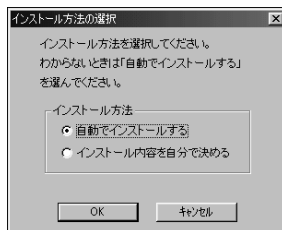
- 1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「アプリケーション」→「インストーラ-NX」をクリックする
次の画面が表示されます。



チェック

アプリケーションによっては、追加したアプリケーションのコンポーネントがインストーラ-NXの起動画面のアプリケーション一覧に、「一般AP」として表示されます。

- 2 追加（インストール）するアプリケーションをクリックする
- 3 「インストール」ボタンをクリックする
「媒体のセット」の画面が表示されます。
- 4 指定されたアプリケーションCD-ROMをCD-ROMドライブまたはCD-RWドライブにセットする
CD-ROMドライブまたはCD-RWドライブのアクセスランプが点灯します。
- 5 しばらく待ってから「OK」ボタンをクリックする
次の画面が表示されます。



- 6 「自動でインストールする」が選ばれていることを確認して、「OK」ボタンをクリックする
インストールが完了すると、メッセージが表示されます。

- ・インストールが完了したことを表すメッセージが表示された場合は、「OK」ボタンをクリックしてください。インストールは完了です。
- ・再起動を促すメッセージが表示された場合は、「はい」ボタンをクリックして再起動してください。再起動後、インストールは完了です。

追加が終了したら、CD-ROMをCD-ROMドライブまたはCD-RWDドライブから取り出してください。



チェック

- ・インストーラ- NX の一覧にないアプリケーションのインストールが完了した直後は、アプリケーション名が一覧に表示されないことがあります。この場合、インストーラ- NX をいったん終了して、起動しなおすと正しく表示されます。
- ・インストーラ- NX でアプリケーションのインストールが完了した直後に、「インストール」ボタン、「アンインストール」ボタン、「一覧に無いAP をインストール」ボタンが使用できなくなることがあります。この場合、インストーラ- NX をいったん終了して、起動しなおすと正しく表示されます。
- ・「アプリケーションCD-ROM」から、削除したアプリケーションを再追加する場合は、アプリケーションのアイコン登録先が、購入時と同じ状態に設定されないことがあります。
- ・「BIGLOBE電話で入会ナビ」を追加している途中で「バージョンの競合」ウィンドウが表示された場合は、「はい」ボタンをクリックしてください。

「RealPlayer G2」のインストール手順については、次の「RealPlayer G2のインストール」をご覧ください。
そのほかのアプリケーションのインストール手順については、「サポートセンタ」をご覧ください。



参照

アプリケーションの追加→「サポートセンタ」-「困ったときのQ&A」-「アプリケーションの追加と削除」

■ RealPlayer G2のインストール

- 1 「追加方法」(→p.158)の手順1を行う
インストーラ-NXの画面が表示されます。
- 2 一覧から「RealPlayer G2」をクリックする

3 「インストール」ボタンをクリックする

4 指定されたアプリケーションCD-ROMをCD-ROMドライブまたはCD-RWドライブにセットする

CD-ROMドライブまたはCD-RWドライブのアクセスランプが点灯します。

5 しばらく待ち、「OK」ボタンをクリックする

インストールが完了するとメッセージが表示されます。

6 「OK」ボタンをクリックする

これでインストールは完了です。

インストール後は、表示されたメッセージにしたがって、RealPlayer G2の設定を行ってください。詳しくは、RealPlayer G2のヘルプをご覧ください。

インストーラ-NXを使って内容を確認しながらインストールするアプリケーション

次のアプリケーションは、このパソコンに添付されているアプリケーション CD-ROMを使って追加します。表示されるメッセージにしたがい、内容を確認しながらインストールしてください。

- Acrobat Reader
- Angel Line for Windows
- AOL
- Jet-Audio Player
- KaraOK!
- PostPet
- So-netサインアップ
- てきぱき家計簿マム2 Plus

「Jet-Audio Player」のインストール手順については、次の「Jet-Audio Playerのインストール」をご覧ください。

その他のアプリケーションのインストール手順については、「サポートセンタ」をご覧ください。



参照

アプリケーションの追加→「サポートセンタ」-「困ったときのQ&A」-「アプリケーションの追加と削除」

■ Jet-Audio Playerのインストール

1 「追加方法」(→p.158)の手順1を行う

インストーラ-NXの画面が表示されます。

2 一覧から「Jet-Audio Player」をクリックする

3 「インストール」ボタンをクリックする

4 指定されたアプリケーションCD-ROMをCD-ROMドライブまたはCD-RWドライブにセットする
CD-ROMドライブまたはCD-RWドライブのアクセスランプが点灯します。

5 しばらく待ち、「OK」ボタンをクリックする
「インストール手順について」画面が表示されます。



チェック

ここでは、表示されたメッセージにしたがって「サポートセンタ」を参照する必要はありません。そのまま手順6に進んでください。

6 「はい」ボタンをクリックする
「ようこそ」画面が表示されます。

7 「次へ」ボタンをクリックする
「インストール先の選択」画面が表示されます。

8 「次へ」ボタンをクリックする
「セットアップ方法」画面が表示されます。

9 「カスタム」をⒶにして、「次へ」ボタンをクリックする
「コンポーネントの選択」画面が表示されます。

10 「Jet-Audio」が☑になっていることを確認し、「アダプテック社のASPIドライバ」を☑にして、「次へ」ボタンをクリックする
「ファイル コピーの開始」画面が表示されます。

11 「次へ」ボタンをクリックする
インストールがはじまります。
しばらくすると、「セットアップの完了」画面が表示されます。

12 「完了」ボタンをクリックする

13 CD-ROMドライブまたはCD-RWドライブからアプリケーションCD-ROMを取り出す
これで、インストールは完了です。

パソコン大学一年生CD-ROMを使って追加する

「パソコン大学一年生CD-ROM」を使って、次のアプリケーションを追加することができます。

- パソコン大学一年生 for Windows98
- パソコン大学一年生 for 一太郎10(一太郎モデルのみ)
- パソコン大学一年生 for 三四郎9(一太郎モデルのみ)
- パソコン大学一年生 for Word2000(Office 2000モデルのみ)
- パソコン大学一年生 for Excel2000(Office 2000モデルのみ)

各アプリケーションのインストール手順については、「サポートセンタ」をご覧ください。



参照

アプリケーションの追加→「サポートセンタ」-「困ったときのQ&A」-「アプリケーションの追加と削除」

Office 2000 Personal CD-ROMを使って追加する(Office 2000モデルのみ)

Office 2000 Personalは、このパソコンに添付の「Office 2000 Personal」CD-ROMを使って追加することができます。

インストール手順については、「サポートセンタ」をご覧ください。



参照

アプリケーションの追加→「サポートセンタ」-「困ったときのQ&A」-「アプリケーションの追加と削除」

一太郎10・花子10パックCD-ROMを使って追加する(一太郎モデルのみ)

一太郎10・花子10パックは、このパソコンに添付の「一太郎10・花子10パック」CD-ROMを使って追加することができます。

インストール手順については、「サポートセンタ」をご覧ください。



参照

アプリケーションの追加→「サポートセンタ」-「困ったときのQ&A」-「アプリケーションの追加と削除」

Easy CD Creator™ 4 Standard/DirectCD™ 3 CD-ROMを使って追加する

Easy CD CreatorおよびDirectCDは、このパソコンに添付の「Easy CD Creator™ 4 Standard/DirectCD™ 3 CD-ROM」を使って追加することができます。
インストール手順については、「サポートセンタ」をご覧ください。



参照

アプリケーションの追加→「サポートセンタ」-「困ったときのQ&A」-「アプリケーションの追加と削除」

P A R T

4

パソコンのメンテナンスと管理

ここでは、パソコンのメンテナンスのしかたやトラブルからパソコンを守るための方法などを説明しています。

パソコンをウイルスから守る

コンピュータウイルスとは

コンピュータウイルスとはプログラムの一種です。ユーザ(使用者)が気づかないうちにシステムに入り込み、異常なメッセージを表示するものや、プログラムやデータの一部を破壊するものなど、さまざまなものがあります。

コンピュータウイルスの種類

コンピュータウイルスは、その感染方法によって次の三種類に分けられます。

● ファイル感染型ウイルス

一般に、実行ファイル(拡張子が.EXEや.COM)に感染するタイプのウイルスです。ウイルスに感染したファイルを実行すると、他の実行型ファイルにウイルスプログラムの本体であるウイルスコードを付着させます。

● マクロ感染型ウイルス

アプリケーションのマクロ機能を使って作られたウイルスのことです。マクロ機能とは、ワープロや表計算ソフトなどでいくつかの操作をまとめて、データを一括して処理する機能のことです。マクロ感染型ウイルスは、マクロ機能が実行されることで他のデータファイルに感染します。

● ブートセクタ型ウイルス

パソコンの起動時に最初に読み込まれるハードディスクやフロッピーディスクの領域をブートセクタ(IPL)といいます。ブートセクタ型ウイルスは、この領域に感染するタイプのウイルスです。本来のブートセクタの内容をウイルス自体と置き換えることにより、コンピュータ起動時にメモリの中に常駐して感染活動を行います。

コンピュータウイルスの感染を防ぐために

ウイルスの感染を少しでも防止するために、次の方法を参考にしてください。

- ・ フロッピーディスクのマスター(オリジナル)は、ライトプロテクト(書き込み防止)をして保管する
- ・ 出所が不明なフロッピーディスクやプログラムは使用しない
- ・ マクロ感染型ウイルスのおそれがあるので、出所が不明なワープロや表計算のファイルを開かない
- ・ インターネットからプログラムをダウンロードするときは、直接実行せずいったんディスクに保存し、チェックしてから使用する
- ・ 入手したプログラムはウイルス検査を済ませてから使用する
- ・ ウイルス検査を定期的に行う

このパソコンにはウイルスチェック用プログラムとして「VirusScan」がインストールされています。

また、定期的にバックアップを作成しておくことをおすすめします。万一ウイルスに感染してしまったときにも、ドライブを初期化し、バックアップからデータを復元することで復旧できます。



参照

バックアップの取りかた→このPARTの「重要なファイルの管理」(p.172)

ウイルスを発見したら

ウイルスを駆除するには、該当ファイルを削除して、アプリケーションを再インストールすることが一番安全で確実な方法です。ただし、発見されたウイルスがブートセクタ型の場合、ブートセクタがウイルスに感染した可能性のある段階ではこの方法は使えません。

また、2次感染を防ぐため、ウイルスが発見されたパソコンで使用した媒体(フロッピーディスクやハードディスクなど)をすべて検査する必要があります。

ウイルスの被害届について

日本では、ウイルスを発見した場合、所定の機関への届出が義務付けられています。届出をしなくても罰則の規定はありませんが、今後の対策や被害状況の把握のためにも積極的な報告をお願いします。

届け出先:情報処理振興事業協会(通称IPA)

本部 〒113-6591
東京都文京区本駒込2-28-8
文京グリーンコート センターオフィス16階
IPAセキュリティセンターウイルス対策室

電話 03-5978-7509

FAX 03-5978-7518

ホームページアドレス <http://www.ipa.go.jp/>

VirusScanを使ってウイルスを駆除する

VirusScanは、パソコンがウイルスに感染していないかを検査し、万一感染していたときには、それを駆除することができます。

ウイルスの検査には次の4通りの方法があります。

- VShiled
常にファイルのアクセスを監視し、ウイルスが感染しないように検査します。
- ScreenScan
スクリーンセーバーの実行中に、ウイルスが感染していないかを検査します。
- VirusScanスケジューラ
あらかじめ設定した時間に自動的にウイルスが感染していないかをチェックします。
- VirusScan
その場でウイルスに感染していないかを検査します。



チェック

- このパソコンにインストールされているVirusScanでは新種のウイルスを検出できない場合があります。新種のウイルスに対応するため、DATファイルを更新する必要があります。
- インターネットに接続できる環境（プロバイダに入会済みの場合）は、「VirusScanセントラル」で「アップデート」ボタンを押すことにより最新版のDATファイルをダウンロードすることができます。ただし、「VirusScanセントラル」の「アップデート」機能で「インターネットアクセス可能ですか」の「いいえ」を選んだ場合は、日本国外に電話をかけることがありますので十分に注意してください。
- パソコンの電源を入れたあとにDATファイルのアップデートを促す画面が表示されることがあります。インターネットに接続できない環境で、「アップデート」または「更新」ボタンをクリックして先に進むと、日本国外に電話をかけることがありますので十分に注意してください。なお、アップデートを中止する場合は、「キャンセル」ボタンまたは「OK」ボタンをクリックしてください。
- DATファイルの更新だけでは検出できないウイルスが発生する場合があります。その場合は、VirusScanを別途購入し、バージョンアップしてください。
- 「VirusScan」でエマージェンシーディスクを作成する場合、フォーマット済みのフロッピーディスクが2枚必要です。

常に検査する

「VShield」を使うことで、ファイルのアクセス、コピー、実行などを常に監視し、リアルタイムでウイルスの感染を検査することができます。



参照

「VShield」の使いかた→「サポートセンタ」-「困ったときのQ&A」-「トラブルの予防」-「コンピュータウイルスをチェックする」-「VirusScan」

定期的に検査する

「VirusScanスケジューラ」で1回、毎時、毎日、毎週、毎月と期間を指定して、自動的にウイルス感染の検査を実行することができます。



参照

「VirusScanスケジューラ」の使いかた→「サポートセンタ」-「困ったときのQ&A」-「トラブルの予防」-「コンピュータウイルスをチェックする」-「VirusScan」

すぐに検査する

「VirusScan」は、その場でファイルがウイルスに感染していないかを検査することができます。

外部からファイルを受け取ったときには「VirusScan」を実行して、受け取ったファイルがウイルスに感染していないことを確認してください。



参照

「VirusScan」の使いかた→「サポートセンタ」-「困ったときのQ&A」-「トラブルの予防」-「コンピュータウイルスをチェックする」-「VirusScan」

ウイルスを駆除する

ウイルスが発見されたときは、「駆除」をクリックしてウイルスを駆除してください。詳しい説明は、VirusScanセントラルのオンラインヘルプを参照してください。

ハードディスクのメンテナンス

ハードディスクのメンテナンスをする

メンテナンスとは、ハードディスクやハードディスクに記録されているデータの障害の防止や発見、効率的な利用のために、検査や整備をすることです。このパソコンにはこれらのメンテナンスのためのツールがあらかじめインストールされています。

ハードディスクを検査／修復する

「スキャンディスク」を使うことで、ハードディスクやハードディスクに記録されているデータに障害がないかどうかを検査することができます。

「スキャンディスク」は、ハードディスクドライブ上のFAT（ファイルアロケーションテーブル）や、クラスタ、ディレクトリツリー構造、ドライブの物理表面の不良セクタなどをチェックします。定期的にスキャンディスクを行って、ハードディスクに障害がないか検査してください。もし障害があった場合は、修復するようにしてください。



参照

「スキャンディスク」の使いかた→「サポートセンタ」-「困ったときのQ&A」-「トラブルの予防」-「パソコンのトラブルを予防する」-「スキャンディスク」

ハードディスクのデータを整理する

「デフラグ」を使うことで、ハードディスク上のデータのフラグメンテーション（断片化）を解消し、データの並びを連続した状態に最適化することができます。



メモ

フラグメンテーション（断片化）とは、データがディスクの空いている場所に、バラバラに保存されている状態をいいます。この状態になると、データが連続していないため、データの読み書きに時間がかかるようになります。



参照

「デフラグ」の使いかた→「サポートセンタ」-「困ったときのQ&A」-「トラブルの予防」-「パソコンのトラブルを予防する」-「デフラグ」

使用していないファイルを削除する

「ディスククリーンアップ」を使うことで、知らないうちにハードディスクにたまった不要なファイルを削除して、ディスクの空き容量を増やすことができます。



メモ

unnecessary files are, using the Internet or installing software, using software, software creates temporary files, etc.



参照

「ディスククリーンアップ」の使いかた→「サポートセンタ」-「困ったときのQ&A」-「トラブルの予防」-「パソコンのトラブルを予防する」-「ディスククリーンアップ」

メンテナンスを定期的に行う

ハードディスクのトラブルを予防するためには、定期的にメンテナンスをすることが重要です。「メンテナンスウィザード」を使うことで、ハードディスクのメンテナンスを決められた時間に自動的に実行するように設定することができます。



参照

「メンテナンスウィザード」の使いかた→「サポートセンタ」-「困ったときのQ&A」-「トラブルの予防」-「パソコンのトラブルを予防する」-「メンテナンスウィザード」

重要なファイルの管理

システムファイルをチェックする

Windows 98の動作が不安定になったときは、システムファイルにトラブルが起きていることが考えられます。「システムファイルチェッカー」は、システムファイルの問題を調べ、異常のあるファイルを修復することができます。



メモ

システムファイルとは、Windows 98の動作にかかわる重要なファイルのことです。代表的なシステムファイルの拡張子には「dll」、「com」、「vxd」、「exe」、「drv」、「ocx」、「inf」などがあります。



参照

「システムファイルチェッカー」の使いかた→「サポートセンタ」-「パソコンを使いこなそう」-「添付ソフトの使い方」-「システムファイルチェッカー」



チェック

システムファイルチェッカーなどのシステムツールを使う前には、起動中のアプリケーションを終了させてください。

Windows 98の利用環境を設定する

「CyberTrio-NX」を使うことで、Windows 98の環境を利用者のレベルに合わせたモードに切り替えることができます。

モードの種類

「CyberTrio-NX」で設定できるモードには次の3つがあり、購入時は「ベーシックモード」に設定されています。

- ・ベーシックモード
システムへ影響を与える機能の動作を制限し、パソコンやアプリケーションへの予期せぬダメージを防ぎます
- ・アドバンスモード
Windows 98へのフルアクセスが可能になります。利用環境を制限しません。システムの設定が必要な場合にこのモードに切り替えてから設定を行います。

・キッズモード

「マイプログラム」または「キッズモードのデスクトップ」に登録しているアプリケーションのみを使用できます。子供が使用してもよいアプリケーションだけを登録しておくことができます。また、キッズモードから他のモードに簡単に変更できないようにパスワードを設定することができます。



チェック

設定したパスワードを忘れたときは、次の「緊急用パスワード」を入力して、他のモードへ変更してから、パスワードをもう一度設定しなおしてください

「緊急用パスワード」: 71709981



参照

「CyberTrio-NX」の使いかた→「サポートセンタ」-「パソコンを使いこなそう」-「添付ソフトの使い方」-「CyberTrio-NX」

Windows 98の動作を監視する

「CyberWarner-NX」を使うと、Windows 98の動作に影響を与えるファイルを監視して、ユーザが操作中にそれらのファイルの削除や変更をしようすると、警告を表示させることができます。また、ログファイルを収集して、保守時に利用することもできます。

CyberWarner-NXは、システムの変更を行うときや、アプリケーションの追加や削除、ファイルの削除や変更をするときに起動して使用してください。



参照

「CyberWarner-NX」の使いかた→「サポートセンタ」-「パソコンを使いこなそう」-「添付ソフトの使い方」-「CyberWarner-NX」

データのバックアップをとる

パソコンに何か異常な事態が起きた場合、Windows 98やアプリケーションはバックアップCD-ROMなどから復元できますが、自分で作成したデータは、バックアップしておかなければ復元することはできません。万一の事態に備えて、バックアップ(複製)を作成しておくことをおすすめします。

バックアップ-NXを使う

「バックアップ-NX」を使うことで比較的簡単にデータのバックアップを作成することができます。



参照

「バックアップ-NX」へのアプリケーションの登録→「サポートセンタ」-「困ったときのQ&A」-「トラブルの予防」-「データをバックアップする」-「バックアップ-NX」

バックアップできるアプリケーション

このパソコンに添付されている次のアプリケーションは、バックアップ-NXを使用してデータのバックアップをとることができます。

- 10円メールマスター
- Angel Line
- Excel 2000(Office 2000モデルのみ)
- FAX-NX
- IEのお気に入り
- Intellisync
- Outlook 2000(Office 2000モデルのみ)
- Outlook Express 5
- ThumbsStudio
- Virtual CD 2
- Ward 2000(Office 2000モデルのみ)
- いま、いくら? その2
- イメージング
- 一太郎10パック
- てきばき家計簿ママ 2 Plus
- ハローキティのハッピーメール
- ペイント
- 筆王
- ホームページクラブブックEX
- メモ帳
- ランチ-NX
- ワイヤレスフォン(ワイヤレスインターネットモデルのみ)
- ワードパッド

一覧にないアプリケーションのバックアップ

一覧にないアプリケーションも、バックアップ-NXに登録することができます。登録すれば、はじめから登録されているアプリケーションと同様の操作でバックアップや復元を行うことができます。



参照

「バックアップ-NX」へのアプリケーションの登録→「サポートセンタ」-「困ったときのQ&A」-「トラブルの予防」-「データをバックアップする」-「バックアップ-NX」

5

BIOSセッアップメニュー

セキュリティや省電力など、パソコンの使用環境の設定について説明します。設定方法を間違えると正しく動作なくなってしまうので、十分注意してください。また、必要がある場合以外は設定値を変更しないでください。

BIOSセットアップメニュー

BIOSセットアップメニューを使ってできること

BIOSセットアップメニューは、パソコンの使用環境を設定するためのものです。
BIOSセットアップメニューを使うと、次のような設定ができます。

- ・ 現在の日付と時間の設定
- ・ ハードウェア環境の確認と変更
- ・ 起動デバイスの起動順位の設定
- ・ セキュリティの設定
- ・ 省電力の設定

BIOSセットアップメニューを使う

BIOSセットアップメニューの起動とメイン画面

- 1 電源を入れて、「NEC」のロゴが表示されたらすぐに【F2】を押す
次のようなメイン画面が表示されます。画面上では「AMIBIOS HIFLEX 日本語
SETUP-VERSION x.xx」と表示されます。

AMIBIOS HIFLEX 日本語 SETUP - VERSION x.xx (C)2000 American Megatrends, Inc. All Rights Reserved
BIOS Revision xxxxxxxx 標準セットアップ 拡張セットアップ セキュリティセットアップ 省電力セットアップ 起動デバイスセットアップ 周辺機器セットアップ 表示言語 (Language) セットアップ バッテリーリフレッシュ デフォルト値をロード 変更を保存して終了 変更を保存せずに終了
システム日付、システム時刻、IDE デバイスのタイプなどを変更します ESC : 終了 ↑ ↓ : 選択 F3/F4 : カラー F10 : 保存と終了

BIOSセットアップメニューの基本操作

- ・操作はキーボードで行います。
- ・【↑】【↓】で設定項目を選びます。
- ・設定内容の値は【PgUp】【PgDn】で変更します。
- ・各設定項目の画面からメイン画面に戻るときは【Esc】を押します。

BIOSセットアップメニューを終了する

変更を保存して終了する

- 1 メイン画面で【F10】を押す
確認の画面が表示されます。
- 2 「はい」になっていることを確認して【Enter】を押す
設定値が保存され、BIOSセットアップメニューが終了します。



メモ

メイン画面で「変更を保存して終了」を選んで、BIOSセットアップメニューを終了することもできます。

変更を保存せずに(起動前の設定のまま)終了する

- 1 メイン画面で【Esc】を押す
- 2 【←】【→】で「はい」を選び、【Enter】を押す
起動する前の設定のままBIOSセットアップメニューが終了します。設定の変更を行った場合も、すべて無効にして終了します。



メモ

メイン画面で「変更を保存せずに終了」を選んで、BIOSセットアップメニューを終了することもできます。

工場出荷時の値に戻す

- 1 メイン画面で【↑】【↓】を使って「デフォルト値をロード」にカーソルを合わせる
- 2 【Enter】を押す
確認の画面が表示されます。
- 3 【←】【→】で「はい」を選び、【Enter】を押す



チェック

ワイヤレスインターネットモデルの場合は、この手順の後「周辺機器セットアップ」の「赤外線ポート」を「自動」に、「IR/PIAFS切り替え」を「PIAFS」に設定してください。

設定項目一覧

ここでは、BIOSセットアップメニューでどのような設定ができるかを説明しています。表中の反転部分は、購入時の設定です。

標準セットアップ

- システム日付(年／月／日)
日付を「年／月／日」(西暦)で設定します。
- メモリ容量
このパソコンのメモリ容量が自動計算されます。
- システム時刻(時:分:秒)
現在の時刻を「時:分:秒」(24時間形式)で設定します。
- フロッピーディスクA
フロッピーディスクドライブのモードを選びます。

設定項目	設定内容	説 明
フロッピーディスクA:	使用しない 1.44MB 3.5"	「使用しない」の場合、フロッピーディスクドライブが接続されていても使用することができません。 「1.44MB 3.5"」の場合、接続されているフロッピーディスクドライブが使用できます。

● 内蔵IDE

現在接続されているIDEデバイスの設定をします。



チェック

この設定を変更すると、内蔵ハードディスクが動作しなくなる場合がありますので、通常は初期設定のまま使用してください。

設定項目	設定内容	説 明
Type	ユーザ設定 自動 CD/DVD 使用しない	「自動」に設定するとBIOSが自動的にシリンダ、ヘッド、セクタを設定します。「ユーザ設定」に設定するとユーザによる指定ができます。
Cyl n	0-65535	シリンダ数を設定します。※1
Head	0-255	ヘッド数を設定します。※1
WP c o m	0-65535	ヘッド待避シリンダ番号を設定します。※1
Sec	0-255	セクタ数を設定します。※1
LBA Mode	オン オフ	LBAモードを使用するかどうかを指定できます。※2
Blk Mode	オン オフ	マルチセクタ転送モードを使用するかどうかを設定します。※2
PIO Mode	自動 0-4	CPUが直接I/OポートとアクセスしてIDEとのデータのやりとりをするときのデータ転送モードを設定できます。※2
32Bit Mode	オン オフ	32ビットIDEデータ転送を使用するかどうかを設定できます。

※1 「Type」を「ユーザ設定」に設定したときのみ指定可

※2 「Type」を「ユーザ設定」「CD-ROM」に設定したときのみ指定可

● 起動セクタへのウイルス感染防止

設定項目	設定内容	説 明
起動セクタへの ウイルス感染防止	使用する 使用しない	ウイルス感染防止のため、ハードディスク起動セクタを書き込み禁止にするかどうかを設定します。 「使用する」に設定すると書き込み禁止になります。

拡張セットアップ

● ビデオ出力方式

設定項目	設定内容	説 明
ビデオ出力方式	NTSC PAL	ご使用の国、地域でのビデオ出力方式を設定します(日本／アメリカでは"NTSC"、ヨーロッパでは"PAL")。

● LCDパネル拡大表示

設定項目	設定内容	説 明
LCDパネル拡大表示	オン オフ	LCDパネルの拡大表示を行うかどうか設定します。

● PS/2ポートウォームスワップ

設定項目	設定内容	説 明
PS/2ポートウォームスワップ	使用する 使用しない	サスペンド状態でのPS/2キーボードやPS/2マウスの使用を設定します。

● NXパッド

設定項目	設定内容	説 明
NXパッド	使用する 自動 使用しない	「使用する」に設定すると、PS/2マウスとNXパッドを同時に使用することができます。「自動」に設定すると、PS/2マウスを接続したときに、NXパッドが使用できなくなります。USBマウスを使用するときにNXパッドを無効にしたい場合は、「使用しない」に設定します。

セキュリティセットアップ

● スーパーバイザパスワードの設定

スーパーバイザパスワードの設定または変更を行います。

【Enter】を押すとパスワード設定の画面が表示されるので設定を行ってください。



参照

パスワードの設定→PART1の「セキュリティ機能」(→p.73)

● ユーザパスワードの設定

ユーザパスワードの設定または変更を行います。

ユーザパスワードは、スーパーバイザパスワードを設定していないと設定できません。

【Enter】を押すとパスワード設定の画面が表示されるので設定を行ってください。



参照

パスワードの設定→PART1の「セキュリティ機能」(→p.73)

● 起動時のパスワード

設定項目	設定内容	説 明
起動時のパスワード	はい いいえ	システム起動時にパスワード入力を行うかどうかの設定を行います。

● レジューム時のパスワード

設定項目	設定内容	説 明
レジューム時のパスワード	はい いいえ	レジューム時にパスワード入力を行うかどうかの設定を行います。

省電力セットアップ

省電力機能の設定を行います。

● システムスイッチ切り替え

設定項目	設定内容	説 明
システムスイッチ切り替え	パワーボタン スリープボタン	電源スイッチの機能を設定します(「スリープボタン」に設定すると、電源スイッチでスリープモードに移行できます)。

● AC電源駆動時の省電力

設定項目	設定内容	説 明
AC電源駆動時の省電力	オン オフ	AC電源駆動時に、現在の省電力設定を有効にするかを設定します。

● 省電力レベルの設定

設定項目	設定内容	説 明
省電力レベルの設定	オフ ユーザ設定 性能優先 最大省電力	「オフ」に設定すると、BIOSによる省電力設定はすべて無効になります。「性能優先」ではこのパソコンの性能を優先した設定になり、「最大省電力」では、動作時間を優先した設定になります。

「ユーザ設定」に設定すると、CPUスピード、ハードディスクタイムアウト値などを任意に変更できます。

設定項目	設定内容	説 明
CPU スピード	100% / 50% / 25% / 12.5%	CPU スピードを4つのレベルから選ぶことができます。
ハードディスク タイムアウト	オフ / 5秒 / 30秒 / 45秒 / 1分 / 2分 / 4分 / 6分 / 8分 / 10分 / 15分	設定した時間を経過してもハードディスクに対するアクセスがなかった場合、ハードディスクのモーターを停止します。
ビデオタイムアウト	オフ / 30秒 / 45秒 / 1分 / 2分 / 4分 / 6分 / 8分 / 10分 / 15分	設定した時間を経過してもキーボードやポインティングデバイスの操作が行われなかった場合、液晶ディスプレイの表示を停止します。
周辺機器 タイムアウト	オン オフ	「オン」に設定すると、シリアルポート、パラレルポート、フロッピーディスクに対するアクセスが2秒間以上なかった場合、それぞれのデバイスを停止します。
オーディオタイムアウト	オン オフ	「オン」に設定すると、サウンド機能が30秒以上使用されなかった場合、オーディオデバイスを停止します。
自動スタンバイ タイムアウト	オフ / 1分 / 2分 / 3分 / 6分 / 8分 / 10分 / 15分	設定した時間を経過してもコンピュータに対するアクセスがなかった場合、コンピュータをスタンバイモードに移行します。
自動スリープ タイムアウト	オフ / 5分 / 10分 / 15分 / 20分 / 25分 / 30分	設定した時間を経過してもコンピュータに対するアクセスがなかった場合、コンピュータを「スリープ種別」で設定したスリープモードに移行します。

● LCDパネル連動スリープ

設定項目	設定内容	説 明
LCDパネル連動 スリープ	使用する 使用しない	「使用する」に設定すると、LCDパネルを閉じたときに「スリープ種別」で設定したスリープモードに移行します。

● スリープ種別

設定項目	設定内容	説 明
スリープ種別	サスペンド ハイバネーション	スリープモードの種別を変更します。

● 自動ハイバネーション

設定項目	設定内容	説 明
自動ハイバネーション	使用する 使用しない	「使用する」に設定すると、サスペンド状態に移行してから30分経過すると、自動的にハイバネーション状態に移行します。

● LCDパネル輝度設定

設定項目	設定内容	説 明
LCDパネル輝度設定	自動^{※1} ユーザ設定^{※2}	LCDパネルの明るさを調節します。

※1：自動設定にすると、起動時には電源を切る前に設定した輝度になり、キーボードやポインティングデバイスからの操作が15秒間ないと自動的に最低輝度になります（ただし、USBキーボード、USBポインティングデバイスからの操作では、最低輝度からの復帰はありません）。

※2：「ユーザ設定」にすると、ホットキーで設定した輝度が次回起動時にも有効になります。

● スリープ時警告音

設定項目	設定内容	説 明
スリープ時警告音	使用する 使用しない	「使用する」に設定すると、スリープモード移行時に警告音を鳴らします。

● リモート電源制御

設定項目	設定内容	説 明
リモート電源制御	使用する 使用しない	リモート電源制御を行うかどうかを設定します。

● 時刻指定によるレジューム※

設定項目	設定内容	説 明
時刻指定によるレジューム	使用する 使用しない	「使用する」に設定すると、「レジューム時刻」で指定した時刻になるとスリープモードから復帰します。
レジューム時刻	オフ	スリープモードから復帰する時刻を設定します。「時刻指定によるレジューム」が「使用する」に設定されているときのみ設定できます。

※：Windows 98では、この機能は使用できません。

起動デバイスセットアップ

● クイックブート

設定項目	設定内容	説 明
クイックブート	使用する 使用しない	「使用する」に設定すると、BIOSによるシステムの診断を一部スキップし、起動時間を短縮します。

● ログ表示

設定項目	設定内容	説 明
ログ表示	使用する スキップ 使用しない	起動時の表示画面を設定します。

● 起動時表示デバイス

設定項目	設定内容	説 明
起動時表示デバイス	同時表示 LCD表示 CRT表示	起動時に表示するディスプレイを設定します。

● 起動時Numロック

設定項目	設定内容	説 明
起動時Numロック	自動 オフ オン	起動時に【Num Lock】キーをオンにするかを設定します。

● 第一起動デバイス

設定項目	設定内容	説 明
第一起動デバイス	使用しない IDE HDD フロッピー CD/DVD SCSI ネットワーク	一番最初に起動するドライブを設定します。

● 第二起動デバイス

設定項目	設定内容	説 明
第二起動デバイス	使用しない IDE HDD フロッピー CD/DVD	二番目に起動するドライブを設定します。

● 第三起動デバイス

設定項目	設定内容	説 明
第三起動デバイス	使用しない IDE HDD フロッピー CD/DVD	三番目に起動するドライブを設定します。

● その他のデバイスから起動

設定項目	設定内容	説 明
その他のデバイスから起動	はい いいえ	設定したすべてのデバイスで起動に失敗したとき、その他のデバイスから起動します。

周辺機器セットアップ

周辺機器に関する設定をします。

● USBコントローラ

設定項目	設定内容	説 明
USBコントローラ	使用する 使用しない	USBコントローラを初期化するかを設定します。

● オーディオ

設定項目	設定内容	説 明
AC 97 Audio	使用する 使用しない	内蔵オーディオを使用するかを設定します。

● 内蔵ハードディスク

設定項目	設定内容	説 明
内蔵ハードディスク	使用する 使用しない	内蔵ハードディスクを使用するかを設定します。

● シリアルポート

設定項目	設定内容	説 明
シリアルポート	使用しない COM1 IRQ4 COM2 IRQ3 COM3 IRQ4 COM4 IRQ3 自動	ポートのリソースを他の周辺機器でも使用できるようにします。「自動」を設定すると、自動的に他のデバイスと競合しないリソースを設定します。

● パラレルポート

設定項目	設定内容	説 明
パラレルポート	使用しない LPT1 LPT2 自動	ポートのリソースを他の周辺機器でも使用できるようにします。「自動」を設定すると、自動的に他のデバイスと競合しないリソースを設定します。
パラレルモード	EPP ECP 出力のみ 双方向	パラレルポートのモードを設定します。特定の周辺機器は、特殊パラレルモードでしか動作しません。それぞれの周辺機器のマニュアルを参照してください。

● 赤外線ポート

設定項目	設定内容	説 明
赤外線ポート	使用しない COM2 IRQ3 COM3 IRQ4 COM4 IRQ3 自動※	ポートのリソースを他の周辺機器でも使用できるようにします。「自動」に設定すると、自動的に他のデバイスと競合しないリソースを設定します。

※：ワイヤレスインターネットモデルの出荷時の設定は「自動」です。

● IR/PIAFS切り替え

設定項目	設定内容	説 明
IR/PIAFS切り替え	 PIAFS※	IR (赤外線通信) とPIAFS (ワイヤレス通信) のどちらを使用するかを設定します。

※：ワイヤレスインターネットモデルの出荷時の設定は「PIAFS」です。

● PIAFS使用時のランプ切り替え

設定項目	設定内容	説 明
PIAFS使用時のランプ切り替え	 着信 圏内	「圏内」に設定すると、PIAFS (ワイヤレス通信) 使用時に、メール着信ランプ (✉) を圏内／圏外表示ランプとして使用することができます。メール着信ランプとして使用するときは、「着信」に設定します。

表示言語(Language)セットアップ

セットアップの表示言語を設定します。

● 表示言語(Language)セットアップ

設定項目	設定内容	説 明
表示言語 (Language) セットアップ	英語(English) 日本語(Japanese) フランス語(French)	標準では日本語に設定されています。

バッテリーリフレッシュ

バッテリーリフレッシュを行います。



参照

バッテリーリフレッシュ→PART1の「バッテリーリフレッシュ」(→p.57)

P A R T

6

付録

ここでは、このパソコンの機能に関連した補足情報を説明しています。

ACPI モードについて

ACPI モードを利用する場合の制限事項

このパソコンは、購入時にはAPMモードに設定されています。ACPIモードで利用したいときは、次の制限事項を読んでからモードを切り替えてください。

使用できなくなる機能

このパソコンをACPIモードで利用するときは、次の機能は使えません。

- ・ホットキー機能(→p.11)の一部の機能

キー操作	機能
【Fn】+電源スイッチ	休止状態
【Fn】+【Esc】	スタンバイ
【Fn】+【F4】	スリープ
【Fn】+【F7】	節電レベルの選択

- ・休止状態(ハイバネーション)の機能(→p.66)

設定が無効になる機能

BIOSセットアップメニューの「省電力セットアップ」の設定がすべて無効になります。

動作が変更になる機能

● バッテリー残量が少なくなったときの動作

バッテリー残量が少なくなり、新たに電源が供給されないと、APMモードの場合は休止状態(現在の状態をハードディスクに保存して電源を切る)になりますが、ACPIモードの場合はパソコンの電源が切れてしまいます。

ACPIモードで使用する場合に、パソコンをバッテリーのみで使用しているときは、バッテリー残量が少なくなったときに、どのような動作をさせるかを設定しておくとう便利です。



参照

バッテリー残量が少なくなったときの動作の設定→「ACPIモードで使用中にバッテリー残量が少なくなったときの動作の設定」(p.194)

現在のモードを確認する

このパソコンは購入時には、APMモードに設定されていますが、モードを切り替える場合は、必ず現在のモードを確認してから行うようにしてください。モードは「デバイスマネージャ」で確認できます。

- 1 「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする
「システムのプロパティ」が表示されます。



CyberTrio-NXのモード変更を促す画面が表示された場合は、「アドバンストモードに変更」をクリックしてください。そのあと、もう一度手順1を行ってください。

- 2 「デバイスマネージャ」タブをクリックする
「デバイスマネージャ」が表示されます。
- 3 「システムデバイス」をダブルクリックする
「システムデバイス」フォルダの内容が表示されます。
ここに表示されている内容によって、どちらのモードが確認できます。
 - ・ APMモードのとき: 「アドバンスト パワーマネジメント サポート」
 - ・ ACPIモードのとき: 「ACPI × × × ×」など

モードを切り替える

モードの切り替えについて

- ・ モード切り替えの際に「新しいハードウェアの追加ウィザード」が起動した場合は、画面の指示に従って、“ C : ¥WINDOWS¥OPTIONS¥CABS ”からドライバの組み込みを行ってください。
- ・ モードを切り替えると、画面の設定が640×480ピクセル16色になります。「コントロールパネル」の「画面」アイコンをダブルクリックして「画面のプロパティ」ウィンドウを開き、「設定」タブで元の設定に戻してからパソコンを再起動してください。
- ・ ACPIモードでは、パワーマネジメント管理用に、割り込みレベル（IRQ9）を1つ使用します。



参照

割り込みレベル→このPARTの「割り込みレベルとDMAチャネル」(p. 222)

APMモードからACPIモードへ切り替える

このパソコンをAPMモードからACPIモードへ切り替えるときは、次の手順で行います。

1. 切り替えの準備をする
2. ハードウェアを再設定する
3. デバイスを確認する



チェック

APMモードからACPIモードへの切り替えは、購入時のセットアップ直後か、再セットアップ直後のみ可能です。



参照

再セットアップ→『困ったときのQ&A』の「PART3 再セットアップ」

1. 切り替えの準備をする

- 1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「エクスプローラ」をクリックする
エクスプローラが起動します。
- 2 Cドライブの「Modechg」フォルダ→「Acpi_apm」ファイルをダブルクリックする
「現在、ACPIが無効です。ACPIを有効に設定する場合はOKボタンを押して下さい」と表示されます。
- 3 「OK」ボタンをクリックする
「ACPIを有効にする準備ができました」と表示されます。
- 4 「OK」ボタンをクリックする

2. ハードウェアを再設定する

- 1 「コントロールパネル」を開き、「ハードウェアの追加」アイコンをダブルクリックする
「新しいハードウェアの追加ウィザード」が表示されます。
- 2 「次へ」ボタンをクリックする
- 3 もう一度「次へ」ボタンをクリックする
「インストールするデバイスは一覧にありますか?」というメッセージが表示された場合は、「デバイスは一覧にない」を⓪にしてから「次へ」ボタンをクリックします。

4 「はい」が選ばれていることを確認し、「次へ」ボタンをクリックする

5 「次へ」ボタンをクリックする
デバイスの検索が自動的に行われます。

6 「完了」ボタンをクリックする

7 「今すぐ再起動しますか?」と表示されたら、「はい」ボタンをクリックする
自動的に再起動し、新しいハードウェアの設定が行われます。
しばらく時間がかかりますので、そのままお待ちください。



メモ

Windows 98 CD-ROMをセットするようというメッセージが表示された場合は、“C:¥WINDOWS¥OPTIONS¥CABS”を指定して、ドライバの組み込みを行ってください。

8 「今すぐ再起動しますか?」と表示されたら、「はい」ボタンをクリックする
もう一度、パソコンが再起動し、モードがACPIモードに切り替わります。

9 「スタート」ボタン→「プログラム」→「エクスプローラ」をクリックする
エクスプローラが起動します。

10 「Modechg」→「Apmoff」ファイルをダブルクリックする
レジストリエディタの画面が表示され、「C:¥MODECHG¥APMOFF.REG」の情報をレジストリに追加しますか?」と表示されます。

11 「はい」ボタンをクリックする
「C:¥MODECHG¥APMOFF.REG」の情報が、レジストリに正しく入力されました。」と表示されます。

12 「OK」ボタンをクリックする

13 パソコンを再起動する

3. デバイスを確認する

1 「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする
「システムのプロパティ」が表示されます。



メモ

CyberTrio-NXのモード変更を促す画面が表示された場合は、「アドバンスドモードに変更」をクリックしてください。そのあと、もう一度手順1を行ってください。

- 2 「デバイスマネージャ」タブをクリックし、「システムデバイス」をダブルクリックして「ACPI × × × ×」が存在するかどうか確認する
これで、APM モードからACPI モードへの切り替えが終了しました。

ACPI モードからAPM モードへ戻す

ACPI モードからAPM モードへ戻す場合には、このパソコンを再セットアップしてください。



参照

再セットアップ→『困ったときのQ&A』の「PART3 再セットアップ」

ACPI モードを使用するときの注意事項

- ・ スタンバイ状態のときにバッテリー残量がなくなると、データが消えてしまいます。バッテリーのみで使用している場合は、あらかじめバッテリーの残量を確認しておいてください。
- ・ MS-DOSプロンプトが一番手前に表示されているときにパソコンをスタンバイ状態にすると、画面が正しく復帰されないことがあります。このような場合は、[Alt]を押しながら[Tab]を押してタスクを切り替えると、正しく表示されるようになります。

ACPI モードで使用中にバッテリー残量が少なくなったときの動作の設定

バッテリーのみで使用している場合、バッテリー残量が少なくなったとき、どのような動作をさせるかを設定します。設定の手順は次のとおりです。

- 1 「コントロールパネル」を開き、「電源の管理」アイコンをダブルクリックする
- 2 「アラーム」タブをクリックする
- 3 バッテリー残量が少なくなると、バッテリー残量がわずかなときに、それぞれのような動作をするようにしたいかを設定する
「アラームの動作」ボタンをクリックすると、動作を選ぶことができます。
- 4 「OK」ボタンをクリックする
バッテリー低下アラームとバッテリー切れアラームの設定値は、8%、3%未満に設定しても、それぞれ8%、3%で動作します。

Windows 98でMS-DOSモードを利用する

MS-DOSモードを利用する

MS-DOSプロンプトで動作しないMS-DOSアプリケーションを利用するために、MS-DOSモードで起動することができます。



チェック

プログラムによっては、このパソコンのMS-DOSモードおよびMS-DOSプロンプトでは利用できないものがあります。特にPC-9800シリーズ対応のアプリケーションの多くは動作しません。アプリケーションが利用できるかについてはアプリケーションの製造元にお問い合わせください。

MS-DOSモードで再起動する

MS-DOSモードを利用するには、次のように操作します。

- 1 「スタート」ボタン→「Windowsの終了」をクリックする
- 2 「MS-DOSモードで再起動する」を選び、「OK」ボタンをクリックする
MS-DOSモードで再起動します。

MS-DOSモードを終了する

- 1 コマンドプロンプトの画面から、次のように入力する

EXIT

Windows 98が再起動します。

MS-DOSモードとMS-DOSプロンプトの違い

MS-DOSアプリケーションやMS-DOSコマンドを利用するには、「MS-DOSモード」と「MS-DOSプロンプト」とがあります。「MS-DOSモード」は、MS-DOSで起動したときと同じような環境になるため、他のアプリケーションと一緒に使うことはできません。「MS-DOSプロンプト」は、MS-DOSをWindows 98上でマルチタスクのアプリケーションとして使用できるようにしたものです。

● MS-DOSプロンプトを起動する

「MS-DOSプロンプト」を利用するには、次のように操作します。

- 1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「MS-DOSプロンプト」をクリックする
「MS-DOSプロンプト」ウィンドウが表示されます。



メモ

「MS-DOSモード」または「MS-DOSプロンプト」からは使用できないコマンドやアプリケーションもあります。

MS-DOSモードでCD-ROMドライブまたはCD-RWドライブを利用する

このパソコンには、CD-ROMドライブ（CD-ROMモデルのみ）またはCD-RWドライブ（CD-RWモデルのみ）が内蔵されていますが、購入時の設定では、MS-DOSモードでCD-ROMドライブまたはCD-RWドライブを使用することはできません。MS-DOSモードで内蔵のCD-ROMドライブまたはCD-RWドライブを使用する場合は、次の手順が必要です。

以降の説明では、CD-ROMドライブを例に説明しています。CD-RWモデルを使用している場合は、「CD-ROMドライブ」を「CD-RWドライブ」に読み替えてください。



チェック

CD-RWドライブは、MS-DOSモードでは、CD-ROMドライブとしてのみ使うことができます。

現在のMS-DOSモードで内蔵のCD-ROMドライブを使う場合

現在のMS-DOS設定を使って、MS-DOSモード上でCD-ROMドライブを使うときには、次の操作を行ってください。

- 1 「スタート」ボタン→「Windowsの終了」をクリックする
- 2 「MS-DOSモードで再起動する」を選び、「OK」ボタンをクリックする
MS-DOSモードで再起動します。
- 3 コマンドプロンプトの画面から次のように入力する

SETCD /A

CD-ROMドライブがCONFIG.SYS、DOSSTART.BATに追加され、SETCD実行前のCONFIG.SYS、DOSSTART.BATは拡張子SCDとして保存されます。

4 コマンドプロンプトの画面から次のように入力する



Windows 98が再起動します。

5 「スタート」ボタン→「Windowsの終了」をクリックする

6 「再起動する」を選び、「OK」ボタンをクリックする 再起動します。

7 「スタート」ボタン→「Windowsの終了」をクリックする

8 「MS-DOSモードで再起動する」を選び、「OK」ボタンをクリックする MS-DOSモードが起動し、CD-ROMドライブがQドライブに割り当てられます。

新しいMS-DOS設定を指定する場合

新しいMS-DOS設定を指定して、MS-DOSモード上でCD-ROMドライブを使用するには、次の操作を行ってください。

1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「エクスプローラ」でエクスプローラを 起動する 「エクスプローラ」が表示されます。

2 C: ¥COMMAND.COMをクリックする プログラム名が反転表示されます。



メモ
COMMAND.COMは、COMMANDと表示されることもあります。表示の設定を変更するには、「サポートセンタ」-「困ったときのQ&A」-「トラブル解決Q&A」-「ファイル、フォルダ」の中の「ファイルの拡張子が表示されない」をご覧ください。

3 「エクスプローラ」の「ファイル」メニュー→「プロパティ」をクリックするか、 またはCOMMAND.COMを右クリックして「プロパティ」をクリックする 「Commandプロパティ」が表示されます。

4 「プログラム」タブをクリックして、「詳細設定」ボタンをクリックする 「プログラムの詳細設定」が表示されます。

- 5 「MS-DOSモード」をクリックして、「新しいMS-DOS設定を指定する」を☑にする
CONFIG.SYSとAUTOEXEC.BATの内容が編集できるようになります。

- 6 「OK」ボタンをクリックする
「プログラムの詳細設定」が閉じます。

- 7 「OK」ボタンをクリックする
「プロパティ」が閉じます。

- 8 「エクスプローラ」で新しいMS-DOS設定したCOMMAND.COMをダブルクリックする
MS-DOSモードが起動します。

- 9 コマンドプロンプトの画面から次のように入力する

SETCD /A 

CD-ROMドライブがCONFIG.SYS、AUTOEXEC.BATに追加され、SETCD実行前のCONFIG.SYS、AUTOEXEC.BATは拡張子SCDとして保存されます。

- 10 コマンドプロンプトの画面から次のように入力する

EXIT 

Windows 98が再起動します。

- 11 エクスプローラを起動していない場合は、「スタート」ボタン→「プログラム」→「エクスプローラ」でエクスプローラを起動する
「エクスプローラ」が表示されます。

- 12 「エクスプローラ」で新しいMS-DOS設定をしたCOMMAND.COMをダブルクリックする
MS-DOSモードが起動し、CD-ROMドライブがQドライブに割り当てられます。



メモ

新しいMS-DOS設定をしたCOMMAND.COMを起動した場合は、次のようなメッセージが表示されることがあります。
「このプログラムはMS-DOSモードで実行するように設定されており、ほかのプログラムの動作中には実行できません。続行するとほかのプログラムをすべて終了します。続行しますか?」

Windows NT 4.0を使う

Windows NT 4.0を使用するには

コンピュータの2000年問題対応について

Windows NT 4.0を使用する場合には、2000年問題対応が必要です。
NECのインターネットのホームページ「98Information」で、コンピュータの2000年問題対応について情報を提供していますので、必ず次のアドレスにアクセスし、Windows NT 4.0の2000年問題対応の情報および修正プログラムを入手して適用してください。

<http://www.nec.co.jp/98/>



参照

コンピュータの2000年問題→「サポートセンタ」-「困ったときのQ&A」-「トラブル解決Q&A」-「よくある質問」-「西暦2000年問題について知りたい」

Windows NT 4.0を使用するときの注意

このパソコンでWindows NT 4.0を使う場合は、次の点に注意してください。

- Windows NT 4.0はUSB機器をサポートしていません。
- Windows NT Server 4.0は使用できません。
- リフレッシュレートは60Hzで使用してください。
- Windows NT 4.0では、CD制御ボタンは使用できません。
- Windows NT 4.0ではサスペンド／レジューム、ハイバネーションをサポートしていません。BIOSセットアップメニューの「省電力セットアップ」で次のように設定してください。

省電力レベルの設定 ：オフ

システムスイッチ切り替え：パワーボタン

LCDパネル連動スリープ ：使用しない

- 以降の説明では、CD-ROMドライブを例に説明しています。CD-RWモデルを使用している場合は、「CD-ROMドライブ」を「CD-RWドライブ」に読み替えてください。

Windows NT 4.0のセットアップ手順

Windows NT 4.0をセットアップするには、次の手順で行います。

• Windows NT 4.0のセットアップ

1. Windows NT 4.0をセットアップする前の確認事項
2. Windows NT 4.0をセットアップする
3. ドライバをコピーする
4. ドライバをアップデートする
5. Windows NT 4.0アップデートサービス Service Pack 5を利用する

• ドライバのアップデート

1. 内蔵アクセラレータの利用
2. 内蔵サウンドの利用
3. NXパッドの拡張
4. 内蔵FAXモデムのセットアップ
5. FAXモデムカードの使用について
6. ワイヤレス通信機能のセットアップ



チェック

- ドライバのアップデートはシステム管理者が行ってください。
- このパソコンに添付されているドライバはこのパソコン専用のものです。他機種では使用できません。
- ここでは、Windows 98がインストールされているドライブ、またはWindows NT 4.0をインストールするドライブを「CDドライブ」、フロッピーディスクドライブを「Aドライブ」、CD-ROMドライブを「Eドライブ」として説明します。実際と異なる場合は読み替えてください。
- セットアップの前に1.44Mバイトフォーマット済みのフロッピーディスク1枚を用意し、ラベル に「システム修復ディスク」と記入しておいてください。

1. Windows NT 4.0をセットアップする前の確認事項

- ・「アプリケーションCD-ROM Vol.2」の「¥NT40」フォルダに、Windows NT 4.0の補足事項を記載したファイル「README.TXT」があります。セットアップを行う前に必ずお読みください。
- ・このパソコンを購入後にお客様自身が接続した周辺機器の接続と設定は、システムのセットアップ後にもう一度行ってください。周辺機器の設定については『Microsoft Windows NT Workstationファーストステップガイド』、または周辺機器のマニュアルをご覧ください。また、セットアップを行う前に、大切なデータは必ずバックアップをとっておいてください。
- ・機種によっては、実際に表示される画面が本文中の画面と一部異なる場合があります。
- ・セットアップは途中で中断しないでください。もし中断した場合は、最初からセットアップをやり直してください。
- ・セットアップ中はスタンバイ状態または休止状態にしないでください。
- ・パソコンをバッテリーで駆動している状態ではセットアップできません。必ずACアダプタを接続した状態でセットアップを行ってください。
- ・セットアップ中はオートパワーオフ機能は無効となります。
- ・購入時に、ファーストパーティションはFAT32でフォーマットされているので、Windows NT 4.0からは認識されません。したがって、Windows NT 4.0のマルチブート機能で、ファーストパーティションにインストールされているOSを起動することはできません。

2. Windows NT 4.0をセットアップする

Windows NT 4.0のマニュアルをご覧ください。Windows NT 4.0のセットアップを行ってください。



チェック

内蔵FAXモデムを使用するリモートアクセスサービスの設定は、Windows NT 4.0のセットアップ時ではなく、内蔵FAXモデムのセットアップ終了後に行ってください。

3. ドライバをコピーする

次の手順でドライバをコピーします。

- 1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「コマンドプロンプト」をクリックする
- 2 「アプリケーションCD-ROM Vol.2」をCD-ROMドライブにセットする

3 コマンドプロンプトから次のように入力する

```
E: ⏎  
CD ¥NT40 ⏎  
DRVCOPY2.BAT ⏎
```

4 表示されるメッセージに従って、ドライバをコピーする

以上でドライバのコピーは終了しました。

4. ドライバをアップデートする

次の手順でドライバのアップデートをします。

1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「コマンドプロンプト」をクリックして、コマンドプロンプトを起動する

2 Windows NT 4.0のコマンドプロンプトから次のように入力する

```
C : ⏎  
CD ¥NT40 ⏎
```

3 カレントディレクトリが「C:¥NT40」のルートディレクトリであることを確認して、次のように入力する

```
UPDATE ⏎
```

4 画面に表示されるメッセージ内容をよく確認しながら画面の指示に従う

5. Windows NT 4.0アップデートサービス Service Pack 5を利用する

Microsoft Windows NT 4.0アップデートサービス「Service Pack 5」を適用する場合は、必ず次の手順で行ってください。



チェック

すでにMicrosoft Windows NT 4.0アップデートサービス「Service Pack 5」をインストールしている場合は、あらためて「Service Pack 5」をインストールする必要はありません。

新しいコンポーネント(ドライバなど)を追加または変更した場合は、再度Service Pack 5をインストールしてください。

1 Service Pack 5の「README.TXT」を読む

2 Service Pack 5のインストールを行う



チェック

- ・ファイルコピーの途中で、「コピー先には、コピー元より新しいファイルが存在します。上書きしますか?」のメッセージが表示された場合は、「すべて上書きしない」を選択してください。
- ・Authenticode(tm) Security Technology」の画面が表示されたら、「Yes」ボタンをクリックしてセットアップを続けてください。

3 Windows NT 4.0を再起動する

設定は、再起動後に有効になります。

ドライバのアップデート

1. 内蔵アクセラレータの利用

内蔵アクセラレータを利用するには、次の手順でセットアップを行います。

1 「コントロールパネル」を開き、「画面」アイコンをダブルクリックする

2 「ディスプレイの設定」タブをクリックする

3 「ディスプレイの種類」ボタンをクリックする

4 「変更」ボタンをクリックする

5 「ディスク使用」ボタンをクリックする

6 次のように入力する

C: ¥NT40 ¥MOBILITY

7 「OK」ボタンをクリックする

8 「ディスプレイ」のリストボックスから、次のものを選ぶ

ATI RAGE MOBILITY-M PCI (日本語)

9 「OK」ボタンをクリックする

10 「サードパーティドライバをインストールしようとしています。…続行しますか?」というメッセージが表示されたら、「はい」ボタンをクリックする

11 「閉じる」ボタンをクリックする

12 「閉じる」ボタンをクリックする

13 「新しい設定を有効にするには、コンピュータを再起動する必要があります。今すぐ再起動しますか?」と表示されたら、「はい」ボタンをクリックする

以上でアクセラレータドライバのセットアップが終了しました。次回起動時から、アクセラレータドライバが有効になります。

2. 内蔵サウンドの利用

次の手順でセットアップを行います。

1 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」をクリックする

2 次のように入力する

C: ¥NT40 ¥YMF752 ¥SETUP.EXE

3 「OK」ボタンをクリックする

4 「ようこそ」の画面で「次へ」ボタンをクリックする

5 「YAMAHA AC-XG Audio Driver」の画面で「OK」ボタンをクリックする

6 「YAMAHA AC-XG Driver」画面で「はい、直ちにコンピュータを再起動します。」を選んで「OK」ボタンをクリックする 自動的に再起動します。

7 Windows NT 4.0が再起動したら、「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」をクリックする 「ファイル名を指定して実行」の画面が表示されます。

8 次のように入力する

C : ¥NT40¥Y752MIDI¥DISK1¥SETUP.EXE

- 9 「OK」ボタンをクリックする
「ようこそ」の画面が表示されます。
- 10 「次へ」ボタンをクリックする
「製品ライセンス契約」の画面が表示されます。
- 11 「はい」ボタンをクリックする
「インストール先の選択」の画面が表示されます。
- 12 「次へ」ボタンをクリックする
ファイルのコピーがはじまります。
- 13 「情報」の画面が表示されたら、「OK」ボタンをクリックする
- 14 「Windowsの再起動」の画面で、「はい、直ちにコンピュータを再起動します」が選ばれていることを確認して、「OK」ボタンをクリックする
自動的に再起動します。

Windows NT 4.0が再起動します。再起動後にドライバが有効になります。

3. NXパッドの拡張

NXパッド対応の拡張ドライバを利用することにより、オートジャンプ、タッピングなど、NXパッドの機能を拡張することができます。次の手順でセットアップを行います。

- 1 「コントロールパネル」を開き、「マウス」アイコンをダブルクリックする
- 2 「全般」タブをクリックする
- 3 「変更」ボタンをクリックする
- 4 「デバイスの選択」画面で、「ディスク使用」ボタンをクリックする
- 5 SLIDEPADディレクトリ(C: ¥NT40¥SLIDEPAD)を指定して「OK」ボタンをクリックする
- 6 モデルの一覧から「NX PAD」をクリックして、「OK」ボタンをクリックする

- 7 「デバイスのインストールの確認」画面で「はい」ボタンをクリックする
- 8 ファイルのコピーが終了したら、「マウスのプロパティ」画面で「閉じる」ボタンをクリックする
- 9 再起動に関するメッセージが表示されるので、「はい」ボタンをクリックする
Windows NT 4.0が再起動します。再起動後にドライバは有効になります。

■NXパッドの拡張機能の設定をする

NXパッドの拡張機能の設定は、次の手順で行います。

- 1 「コントロールパネル」を開き、「マウス」アイコンをダブルクリックする
- 2 必要に応じて設定を行う
設定方法については、オンラインヘルプをご覧ください。
- 3 設定が終了したら、「マウスのプロパティ」画面で「OK」ボタンをクリックする
「マウスのプロパティ」が閉じて、設定が有効になります。

4. 内蔵FAXモデムのセットアップ

次の手順でセットアップを行います。

- 1 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」をクリックする
- 2 「名前」欄に、次のように入力する

C : ¥NT40 ¥LTMODEM ¥SETUP.EXE

- 3 「Next」をクリックする
- 4 「Install new modem driver and components」をチェックし、「Next」をクリックする
- 5 「Yes, I want to restart my computer now.」をチェックし、「Finish」をクリックする

5. FAXモデムカードの利用について

FAXモデムカードを利用する場合は、次のような設定が必要な場合があります。

■ FAXモデムカードの認識確認

次の手順で、FAXモデムカードがWindows NT 4.0で正しく認識されていることを確認してください。

- 1 PCカードスロットにFAXモデムカードをセットする
- 2 電源を入れる
- 3 「コントロールパネル」を開き、「PCカード(PCMCIA)」アイコンをダブルクリックする
- 4 「ソケットの状態」タブをクリックする
- 5 目的のFAXモデムカードを選ぶ



チェック

目的のFAXモデムカードの名前が見つからない場合は、PCカードが正しくセットされていない可能性があります。シャットダウン後、パソコンの電源を切って、FAXモデムカードをセットしなおしてください。

- 6 「プロパティ」ボタンをクリックする

- 7 「カード情報」タブをクリックする



メモ

FAXモデムカードがWindows NT 4.0で正しく認識されている場合には、「デバイスマップ」の画面が表示され、使用するFAXモデムカードのCOM番号が表示されます。このCOM番号はモデムのセットアップやリソース(IRQ)の変更時に使用しますので、控えておいてください。



チェック

「利用不可」と表示された場合は、FAXモデムカードのリソース(IRQ)が他のデバイスと競合している可能性があります。FAXモデムカードのリソース(IRQ)を変更してください。



参照

FAXモデムカードのリソースを変更する→「FAXモデムカードのリソース(IRQ)の変更」(p.209)

■ モデムのセットアップ

FAXモデムカードをダイヤルアップネットワークなどで使用する場合には、モデムのセットアップが必要です。次の手順で行ってください。

- 1 「コントロールパネル」を開き、「モデム」アイコンをダブルクリックする
モデムをはじめてセットアップする場合は、自動的に「新しいモデムのインストール」の画面が表示されます。既にモデムがセットアップされている場合は、「モデムのプロパティ」が表示されます。「追加」ボタンをクリックすると「新しいモデムのインストール」の画面が表示されます。

2 「次へ」ボタンをクリックする

● モデムが検出されなかった場合

モデムが検出されなかった場合は、FAXモデムカードに割り当てられているリソース (IRQ) が妥当でない可能性があります。FAXモデムカードのリソース (IRQ) を変更してからモデムのセットアップをしてください。



参照

FAXモデムカードのリソースを変更する→「FAXモデムカードのリソース (IRQ) の変更」
(p. 209)

● FAXモデムカードに .infファイルが添付されている場合

使用するFAXモデムカードにWindows NT 4.0用の .infファイルが添付されている場合は、次の手順で .infファイルをインストールしてください。

- 1 .infファイルの入ったフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットする
- 2 「変更」ボタンをクリックする
- 3 「ディスク使用」ボタンをクリックする
- 4 コピー元にフロッピーディスクドライブのドライブ名を入力し、「OK」ボタンをクリックする
- 5 使用するFAXモデムカードの名称をクリックし、「OK」ボタンをクリックする
- 6 使用するFAXモデムカードのCOM番号上のモデム名が変更されたことを確認し、「次へ」ボタンをクリックする
- 7 「所在地情報」画面が表示された場合は、所在地情報を入力して「次へ」ボタンをクリックする
- 8 「完了」ボタンをクリックする



チェック

Windows NT 4.0用の .infファイルがない場合には、Windows 98用の .infファイルで代用できることもあります。ただし、Windows 98用の .infファイルすべてがWindows NT 4.0で正しく動作するわけではありません。上記の手順1のあと、手順3に進むか、またはFAXモデムカードの通信速度に合った「(標準のモデムドライバ)」に変更してください。

■ モデムのセットアップ確認

次の手順でモデムが正しくセットアップされているかを確認します。

- 1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」の「ハイパーターミナル」をクリックする
「新しい接続」ウィザードが表示されます。
- 2 「キャンセル」ボタンをクリックする
- 3 「ファイル」メニューの「プロパティ」をクリックする
- 4 「接続方法」リストから使用するモデム名をクリックする
- 5 「モデムの設定」ボタンをクリックして「ポート」に正しいCOM番号が表示されているか確認し、「OK」ボタンをクリックする
- 6 「OK」ボタンをクリックする
- 7 ハイパーターミナルのウィンドウ内に「AT」と入力する
- 8 【Enter】を押す
モデムのセットアップが正しく行われている場合には、「OK」のメッセージが表示されます。ハイパーターミナルの画面に「AT」と表示されず、「OK」のメッセージも表示されない場合は、Windows NT 4.0でFAXモデムカードが認識されていないか、モデムのセットアップが正常に終了していない可能性があります。「モデムのセットアップ」(p.208)をご覧ください。FAXモデムカードが正しくセットアップされているか確認してください。

■ FAXモデムカードのリソース(IRQ)の変更

FAXモデムカードがWindows NT 4.0で正しく認識されなかったり正しく動作しない場合は、リソース(IRQ)が他のデバイスと競合している可能性があります。この場合は、次の手順でリソース(IRQ)を変更してください。



チェック

次の手順では、FAXモデムカードレジストリ設定ツールを使用してレジストリを操作するため、使用方法を誤ると重大な障害が発生する可能性があります。使用するときは、十分注意してください。またレジストリのバックアップをとっておくことをおすすめします。

1 このパソコンで利用可能なリソース (IRQ)を確認する



参照

リソースを確認する→「割り込みレベルとDMAチャネル」(p.222)

2 「スタート」ボタン→「プログラム」→「管理ツール」→「Windows NT診断プログラム」をクリックする

3 「リソース」タブをクリックする

現在のリソース (IRQ) の設定状況が表示されます。

4 空いているリソース (IRQ)を確認する

Windows NT 4.0では、FAXモデムカードはパソコンに内蔵のシリアルポートと同じ「Serial」というデバイス名で表示されます。IRQ4の「Serial」は内蔵のシリアルポート、IRQ4以外の「Serial」がFAXモデムカードを表しています。

5 「コントロールパネル」を開き、「シリアルポート」アイコンをダブルクリックする



チェック

「コントロールパネル」の「PCカード (PCMCIA)」アイコンで、デバイスマップが「利用不可」と表示されている場合は、ここでポートを追加する必要があります。次の手順でCOMポートを追加してください。

- ① 「追加」ボタンをクリックする
- ② 「OK」ボタンをクリックする
- ③ 再起動を促すメッセージが表示されたら、「再起動しない」をクリックする

6 「モデムのセットアップ確認」で確認したポートをクリックする

手順5でCOMポートを追加した場合は、追加したポートをクリックしてください。

7 「設定」ボタンをクリックする

8 「詳細」ボタンをクリックする

9 「I/Oポートアドレス」リストで「既定値」をクリックする

10 「割り込み番号 (IRQ)」リストから、現在空いているリソース (IRQ) をクリックする

11 「OK」ボタンをクリックする

12 再起動を促すメッセージが表示されたら、「再起動しない」ボタンをクリックする

13 「閉じる」ボタンをクリックする

14 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」をクリックする

15 「名前」の部分に次のように入力する

C: ¥NT40 ¥DRIVERS ¥REG

16 「OK」ボタンをクリックする
FAXモデムカードレジストリ設定ツールが起動し、「Serial*」が表示されます。

17 「Serial*」の*の部分をFAXモデムカードのCOM番号から「1」を引いた値になるように設定する



メモ

例 COM1の場合→「Serial0」

COM2の場合→「Serial1」

手順5でCOMポートを追加した場合は、追加した順番に「Serial10000」、「Serial10001」となります。

18 「OK」ボタンをクリックする
レジストリが書き換えられ、FAXモデムカードレジストリ設定ツールが終了します。

19 Windows NT 4.0を再起動する

以上で、リソース (IRQ) の変更は終了です。

6. ワイヤレス通信機能のセットアップ

次の手順でドライバをセットアップします。ワイヤレスインターネットモデル以外は、次の手順は必要ありません。

- 1 「コントロールパネル」を開き、「モデム」アイコンをダブルクリックする
- 2 「追加」ボタンをクリックする
- 3 「新しいモデムのインストール」で、「モデムを一覧から選択するので検出しない」を☒にし、「次へ」ボタンをクリックする
- 4 「ディスク使用」ボタンをクリックする
- 5 「フロッピーディスクからインストール」画面で次のように入力する

C: ¥NT40 ¥PHS

- 6 「OK」ボタンをクリックする

- 7 次のものを選ぶ

NEC PIAFS32K+Duallink Wireless Mode(DCX)

- 8 「次へ」ボタンをクリックする
- 9 「選択したポートを使用する」を選ぶ
- 10 使用する「通信ポート」を選び、「次へ」ボタンをクリックする
- 11 画面の指示にしたがってセットアップを行う
- 12 セットアップが終了したら、Windows NT 4.0を再起動する

機能一覧

本体

6

付録

型 名	LW500J/24DR LW500J/24DR9	LW500J/24CA LW500J/24CA9 LW500J/24DA LW500J/24DA9	LW450J/24DW LW450J/24DW9	LW450J/24CA LW450J/24CA9 LW450J/24DA LW450J/24DA9
型 番	PC-LW500J24DR PC-LW500J24DR9	PC-LW500J24CA PC-LW500J24CA9 PC-LW500J24DA PC-LW500J24DA9	PC-LW450J24DW PC-LW450J24DW9	PC-LW450J24CA PC-LW450J24CA9 PC-LW450J24DA PC-LW450J24DA9
CPU	Mobile PentiumIIIプロセッサ500MHz		Mobile PentiumIIIプロセッサ450MHz	
内蔵キャッシュメモリ	32Kバイト			
セカンドキャッシュメモリ	256Kバイト(CPU内蔵)			
メモリー	ROM	512Kバイト(BIOSほか)		
	メインRAM	標準 64Mバイト(システムバス100MHz対応)		
	最大	256Mバイト(別売の増設RAMボード(128Mバイト)を2枚増設した場合)		
	ビデオRAM	4Mバイト		
表示機能	表示素子※1	バックライト付14.1型TFTカラー液晶ディスプレイ(XGA)		
	ウィンドウアクセラレータ	ATI Mobility-M標準搭載(ビデオアクセラレーション機能対応)		
		640×480ドット(16色／26万色中256色／65536色／1677万色) 800×600ドット(26万色中256色／65536色／1677万色) 1024×768ドット(26万色中256色／65536色／1677万色) 1280×1024ドット(26万色中256色／65536色／1677万色)※2 1600×1200ドット(26万色中256色／65536色)※2		
	別売のCRTディスプレイ接続時	640×480ドット(16色／26万色中256色／65536色／1677万色) 800×600ドット(26万色中256色／65536色／1677万色) 1024×768ドット(26万色中256色／65536色／1677万色) 1280×1024ドット(26万色中256色／65536色／1677万色) 1600×1200ドット(26万色中256色／65536色)		
サウンド機能	サウンドチップ	YAMAHA社製 YMF752搭載		
	PCM録音・再生機能	内蔵(ステレオ、量子化8ビット/16ビット、サンプリングレート8KHz/11.025KHz/16KHz/22.05KHz/44.1KHz/48KHz)、全二重化対応		
	MIDI音源機能	内蔵(拡張WAVE Table音源[WAVE Table音源最大128音])		
	スピーカ・マイク	ステレオスピーカ・マイクロホン内蔵		
	サラウンド	エンハンスド・ステレオ機能、3Dポジショナルサウンド		

型 名	LW500J/24DR LW500J/24DR9	LW500J/24CA LW500J/24CA9 LW500J/24DA LW500J/24DA9	LW450J/24DW LW450J/24DW9	LW450J/24CA LW450J/24CA9 LW450J/24DA LW450J/24DA9
型 番	PC-LW500J24DR PC-LW500J24DR9	PC-LW500J24CA PC-LW500J24CA9 PC-LW500J24DA PC-LW500J24DA9	PC-LW450J24DW PC-LW450J24DW9	PC-LW450J24CA PC-LW450J24CA9 PC-LW450J24DA PC-LW450J24DA9
通信機能	モデム	モデム内蔵(データ転送速度 最大56kbps(K56flex/V.90)エラー訂正V.42/MNP4 データ圧縮V.42bis/MNP5)		
	ワイヤスモデム ステーション (PIAFS) ^{※3}	LW450J/24DW、LW450J/24DW9のみ ワイヤレス通信機能内蔵(データ転送速度 最大64kbps データ圧縮V.42bis) ワイヤレスデータ通信機能 デュアルリンクワイヤレス通信機能 ^{※4} PIAFS32K対応		
	FAX	内蔵(データ転送速度 最大14.4Kbps(V.17)FAX制御クラス1)		
入力装置	キーボード	本体との一体型、JIS標準配列(英数・かな)、Fnキー(ホットキー対応)、12ファンクションキー・Windowsキー・アプリケーションキー・Num Lockキー・右Altキー・右Ctrlキー付		
	ポインティングデバイス	NXパッド標準装備		
補助記憶装置	フロッピーディスク ドライブ	3.5型フロッピーディスクドライブ×1内蔵(720K/1.2M/1.44Mバイトタイプの3モードに対応)		
	固定ディスク ^{※5} (内蔵)	約18Gバイト ^{※6}	約12Gバイト ^{※7}	
	CD-ROMドライブ /CD-RWドライブ	CD-ROMドライブの場合： CAV方式、CD-DA(オーディオCD)、CD-ROM MODE1/2、CD-ROM XA MODE2(FORM1/2)、マルチセッション対応 最大24倍速(平均17倍速)、 データ転送速度はCD-ROMの最内周で10.3倍速、最外周で24倍速 CD-RWドライブの場合： 読み込み最大20倍速(CD-RWは最大14倍速)、書き込み最大4倍速(CD-R/CD-RW)		
インターフェイス	マウス/テンキーボード(PS/2タイプミニDIN6ピン)、パラレル(D-SUB25ピン)、シリアル(D-SUB9ピン、最高115.2Kbps対応)、ディスプレイ(アナログRGBセパレート信号出力、ミニD-SUB15ピン)、赤外線通信(IrDA規格準拠、データ転送速度4Mbps)、USB×2、ビデオ出力			
サウンド関連	ライン入力(ステレオ、ミニジャック)、 ヘッドホン出力/ライン出力共用(ステレオ、ミニジャック)、 マイク入力(モノラル、ミニジャック)、 ライン入力インピーダンス10kΩ 入力レベル1Vrms、 マイク入力インピーダンス2.2kΩ 入力レベル5mVrms(バイアス2.5V) ライン出力レベル1Vrms			
PCカードスロット	TYPE II×2スロット(TYPE III×1スロットとしても使用可) ^{※8} PC Card Standard準拠、CardBus/ZVポート対応 ^{※9}			
パワーマネージメント	自動または任意設定可能			
セキュリティ機能	ユーザパスワード機能、スーパーバイザパスワード機能、盗難防止ロック(市販の盗難防止用ケーブルを使用)			
バッテリー駆動時間 ^{※10}	約1.5～2.2時間(最大約2.0～3.0時間)			
バッテリー充電時間 ^{※10}	約3.0時間			

型 名	LW500J/24DR LW500J/24DR9	LW500J/24CA LW500J/24CA9 LW500J/24DA LW500J/24DA9	LW450J/24DW LW450J/24DW9	LW450J/24CA LW450J/24CA9 LW450J/24DA LW450J/24DA9
型 番	PC-LW500J24DR PC-LW500J24DR9	PC-LW500J24CA PC-LW500J24CA9 PC-LW500J24DA PC-LW500J24DA9	PC-LW450J24DW PC-LW450J24DW9	PC-LW450J24CA PC-LW450J24CA9 PC-LW450J24DA PC-LW450J24DA9
バッテリーによる スタンバイ状態 保持時間 ^{※10}	約3日(バッテリーフル充電時)			
電源	ニッケル水素バッテリー(DC9.6V、3,800mAh) ^{※11} またはAC100V±10%、50/60Hz (ACアダプタ経由 ^{※12})			
消費電力	約16W(内蔵オプション最大接続時 約50W)			
温湿度条件	5～35℃、20～80% ^{※13} (ただし、結露しないこと)			
外形寸法	307(W)×252(D)×40～44(H)mm(突起部含まず)			
質量 ^{※10}	約3.1kg			

※1 : 液晶ディスプレイは消耗品です。液晶ディスプレイでは、明るさのムラや、微細な斑点が現れることがありますが、故障ではありません。また、輝度の調節具合、表示モードと表示データの組み合わせによってはムラやちらつき、微細な斑点が現れることがあります。故障ではありません。

※2 : バーチャルスクリーン表示

※3 : 米国特許 第4,558ライセンス済み。 Lissenced Under US patent 4,558.302

※4 : デュアルリンクワイヤレス通信はNEC独自モードです。

※5 : 固定ディスク容量は、16バイトを10億バイトで計算した場合の数値です。0Sから認識できる容量は、実際の値より少なく表示されることがあります。

※6 : Windowsのシステムから認識できる容量は、約16.8Gバイトとなります。

※7 : Windowsのシステムから認識できる容量は、約11.2Gバイトとなります。

※8 : Windows 98またはWindows 95のMS-DOSモードでは使用できません。

※9 : ZVポート対応のPCカードは下のスロットのみで使用できます。ただし、Windows NTでは使用できません。

※10 : 時間や質量は、ご利用状況やオプションの接続により変わる場合があります。

※11 : バッテリパックは消耗品です。

※12 : ACアダプタ自体は、入力電圧AC240Vまでの安全認定を取得していますが、添付の電源コードはAC125V対応です。

※13 : 18～25℃、45～75%での使用を推奨。

型 名	LW43H/23C6 LW43H/23C69 LW43H/23D6 LW43H/23D69	LW43H/22C6 LW43H/22C69 LW43H/22D6 LW43H/22D69
型 番	PC-LW43H23C6 PC-LW43H23C69 PC-LW43H23D6 PC-LW43H23D69	PC-LW43H22C6 PC-LW43H22C69 PC-LW43H22D6 PC-LW43H22D69
CPU	Mobile Intel Celeronプロセッサ433MHz	
内蔵キャッシュメモリ	32Kバイト	
セカンドキャッシュメモリ	128Kバイト(CPU内蔵)	
メモリー	512Kバイト(BIOSほか)	
メインRAM	標準 64Mバイト(システムバス66MHz対応)	
	最大	256Mバイト(別売の増設RAMボード(128Mバイト)を2枚増設した場合)
ビデオRAM	4Mバイト	
表示機能	表示素子※1	バックライト付13.3型TFTカラー液晶ディスプレイ(XGA)
		バックライト付12.1型TFTカラー液晶ディスプレイ(SVGA)
	ウィンドウアクセラレータ	ATI Mobility-M標準搭載(ビデオアクセラレーション機能対応)
		640×480ドット(16色/26万色中256色/65536色/1677万色) 800×600ドット(26万色中256色/65536色/1677万色) 1024×768ドット(26万色中256色/65536色/1677万色)※2 1280×1024ドット(26万色中256色/65536色/1677万色)※3 1600×1200ドット(26万色中256色/65536色)※3
	別売のCRTディスプレイ接続時	640×480ドット(16色/26万色中256色/65536色/1677万色) 800×600ドット(26万色中256色/65536色/1677万色) 1024×768ドット(26万色中256色/65536色/1677万色) 1280×1024ドット(26万色中256色/65536色/1677万色) 1600×1200ドット(26万色中256色/65536色)
サウンド機能	サウンドチップ	YAMAHA社製 YMF752搭載
	PCM録音・再生機能	内蔵(ステレオ、量子化8ビット/16ビット、サンプリングレート8KHz/11.025KHz/16KHz/22.05KHz/44.1KHz/48KHz)、全二重化対応
	MIDI音源機能	内蔵(拡張WAVE Table音源[WAVE Table音源最大128音])
	スピーカ・マイク	ステレオスピーカ・マイクロホン内蔵
	サラウンド	エンハンスド・ステレオ機能、3Dポジショナルサウンド
通信機能	モデム	モデム内蔵(データ転送速度 最大56Kbps(K56flex/V.90)エラー訂正V.42/MNP4 データ圧縮V.42bis/MNP5)
	FAX	内蔵(データ転送速度 最大14.4Kbps(V.17)FAX制御クラス1)

型 名	LW43H/23C6 LW43H/23C69 LW43H/23D6 LW43H/23D69	LW43H/22C6 LW43H/22C69 LW43H/22D6 LW43H/22D69
型 番	PC-LW43H23C6 PC-LW43H23C69 PC-LW43H23D6 PC-LW43H23D69	PC-LW43H22C6 PC-LW43H22C69 PC-LW43H22D6 PC-LW43H22D69
入力装置	キーボード	本体との一体型、JIS標準配列(英数・かな)、Fnキー(ホットキー対応)、12ファンクションキー・Windowsキー・アプリケーションキー・Num Lockキー・右Altキー・右Ctrlキー付
	ポインティングデバイス	NXパッド標準装備
補助記憶装置	フロッピーディスクドライブ	3.5型フロッピーディスクドライブ×1内蔵(720K/1.2M/1.44Mバイトタイプの3モードに対応)
	固定ディスクドライブ ^{※4} (内蔵)	約6.0GB ^{※5}
	CD-ROMドライブ	CAV方式、CD-DA(オーディオCD)、CD-ROM MODE1/2、CD-ROM XA MODE2(FORM1/2)、マルチセッション対応 最大24倍速(平均17倍速)、データ転送速度はCD-ROMの最内周で10.3倍速、最外周で24倍速
インターフェイス		マウス/テンキーボード(PS/2タイプミニDIN6ピン)、パラレル(D-SUB25ピン)、シリアル(D-SUB9ピン、最高115.2Kbps対応)、ディスプレイ(アナログRGBセパレート信号出力、ミニD-SUB15ピン)、赤外線通信(IrDA規格準拠、データ転送速度4Mbps)、USB×2、ビデオ出力
	サウンド関連	ライン入力(ステレオ、ミニジャック)、ヘッドホン出力/ライン出力共用(ステレオ、ミニジャック)、マイク入力(モノラル、ミニジャック)、ライン入力インピーダンス10k Ω 入力レベル1Vrms、マイク入力インピーダンス2.2k Ω 入力レベル5mVrms(バイアス2.5V)、ライン出力レベル1Vrms
PCカードスロット		TYPE II×2スロット(TYPE III×1スロットとしても使用可) ^{※6} PC Card Standard準拠、CardBus/ZVポート対応 ^{※7}
パワーマネジメント		自動または任意設定可能
セキュリティ機能		ユーザパスワード機能、スーパーバイザパスワード機能、盗難防止ロック(市販の盗難防止用ケーブルを使用)
バッテリー駆動時間 ^{※8}		約1.5～2.2時間(最大約2.0～3.0時間)
バッテリー充電時間 ^{※8}		約3.0時間
バッテリーによるスタンバイ状態保持時間 ^{※8}		約3日(バッテリーフル充電時)

型 名	LW43H/23C6 LW43H/23C69 LW43H/23D6 LW43H/23D69	LW43H/22C6 LW43H/22C69 LW43H/22D6 LW43H/22D69
型 番	PC-LW43H23C6 PC-LW43H23C69 PC-LW43H23D6 PC-LW43H23D69	PC-LW43H22C6 PC-LW43H22C69 PC-LW43H22D6 PC-LW43H22D69
電源	ニッケル水素バッテリー(DC9.6V、3,800mAh) ^{※9} またはAC100V±10%、50/60Hz (ACアダプタ経由 ^{※10})	
消費電力	約16W(内蔵オプション最大接続時 約50W)	
温湿度条件	5～35℃、20～80% ^{※11} (ただし、結露しないこと)	
外形寸法	307(W)×252(D)×40～44(H)mm(突起部含まず)	
質量 ^{※8}	約3.2kg	約3.0kg

※1：液晶ディスプレイは消耗品です。液晶ディスプレイでは、明るさのムラや、微細な斑点が現れることがありますが、故障ではありません。また、輝度の調節具合、表示モードと表示データの組み合わせによってはムラやちらつき、微細な斑点が現れることがあります。故障ではありません。

※2：12.1型モデルのみバーチャルスクリーン表示

※3：バーチャルスクリーン表示

※4：固定ディスク容量は、1Gバイトを10億バイトで計算した場合の数値です。0Sから認識できる容量は、実際の値より少なく表示されることがあります。

※5：Windowsのシステムから認識できる容量は、約5.5Gバイトとなります。

※6：Windows 98またはWindows 95のMS-DOSモードでは使用できません。

※7：ZVポート対応のPCカードは下のスロットのみで使用できます。ただし、Windows NTでは使用できません。

※8：時間や質量は、ご利用状況やオプションの接続により変わる場合があります。

※9：バッテリーパックは消耗品です。

※10：ACアダプタ自体は、入力電圧AC240Vまでの安全認定を取得していますが、添付の電源コードはAC125V対応です。

※11：18～25℃、45～75%での使用を推奨。

内蔵FAXモデム

機能概要

項 目	規 格
CPU I/F	PCIローカルバスインターフェイス
NCU部	・ダイヤルパルス送出機能 ・リング検出機能
モデムチップセット部	・115.2Kbpsまでのデータ・モデム・スループット - K56flex、V.90 - V.34 - V.32bis - V.32、V.22bis、V.22、V.21 - V.42LAPMおよびMNP2-4エラー訂正 - V.42bisおよびMNP5データ圧縮 ・最高14.4Kbpsのファックス・モデム送受信速度 - V.17、V.29、V.27ter、V.21チャンネル2 ・HayesATコマンドセット準拠 - ATコマンド - Sレジスタ ・回線品質モニタリングおよびオートリトレイン ・受信ライン信号品質に基づく自動ライン・スピード選択 ・フロー制御およびスピード・バッファリング ・パラレル非同期データ ・自動ダイヤルおよび自動アンサー ・トーンおよびパルスダイヤリング (DTMFトーン、ダイヤルパルス制御)

FAX 機能

項 目	規 格
交信可能ファクシミリ装置	ITU-T G3ファクシミリ装置
適用回線	加入電話回線
同期方式	半二重調歩同期方式
通信速度	14400/12000/9600/7200/4800/2400/300bps※
通信方式	ITU-T V.17/V.29/V.27ter/V.21ch2
変調方式	QAM:14400/12000/9600/7200bps
	DPSK:4800/2400bps
	FSK:300bps
送信レベル	-9~-15dBm (出荷時-15dBm)
受信レベル	-10~-40dBm
制御コマンド	EIA-578拡張ATコマンド (CLASS 1)

※ 回線状態によって通信速度が変わる場合があります。

データモデム機能

項 目	規 格
適用回線	加入電話回線
同期方式	全二重調歩同期方式
通信速度	送受信 33600/31200/28800/26400/24000/21600/19200/16800/ 14400/12000/9600/7200/4800/2400/1200/300bps※1 受信 56000/54666/54333/54000/52000/50666/50000/49333/ 48000/46666/46000/45333/44000/42666/42000/41333/40000/ 38666/38000/37333/36000/34666/34000/33333/32000/30667/ 29333/28000bps※1
通信規格	K56flex ITU-T V.90/V.34/V.32bis/V.32/V.22bis/V.22/V.21
変調方式	TCM:56000/54666/54333/54000/52000/50666/50000/49333/ 48000/46666/46000/45333/44000/42666/42000/41333/40000/ 38666/38000/37333/36000/34666/34000/33600/33333/32000/ 31200/30667/29333/28800/28000/26400/24000/21600/19200/ 16800/14400/12000/9600/7200bps QAM:9600/7200bps DPSK:4800/2400/1200bps FSK:1200/300bps
エラー訂正	ITU-T V.42 (LAPM) MNP class4
データ圧縮	ITU-T V.42bis MNP class5
送信レベル	-9~-15dBm(出荷時-15dBm)
受信レベル	-10~-40dBm
制御コマンド	HayesATコマンド準拠※2

※1: 回線状態によって、通信速度が変わる場合があります。

※2: ATコマンドについては、「サポートセンタ」-「パソコンを使いこなそう」-「ハードウェア情報」-「ATコマンド一覧」をご覧ください。

NCU 機能

項 目	規 格
適用回線	加入電話回線
ダイヤル形式	バルスダイヤル(10/20PPS) トーンダイヤル(DTMF)
NCU形式	AA(自動発信/自動着信型)
制御コマンド	HayesATコマンド準拠 EIA-578拡張ATコマンドAT(class 1)

ワイヤレス通信機能

ワイヤレス通信機能は、ワイヤレスインターネットモデルのみの機能です。

項目	規格
適用回線	自営標準 第3版準拠
通信速度	32Kデータ通信:29.2kbps(無線実行速度) 64Kデータ通信(デュアルリンクワイヤレス通信 ^{※1}):58.4kbps
通信規格	RCR STD-28
制御コマンド	ATコマンド ^{※2}

※1:デュアルリンクワイヤレス通信はNEC独自モードです。

※2:ATコマンドについては、「サポートセンタ」-「パソコンを使いこなそう」-「ハードウェア情報」-「ATコマンド一覧」をご覧ください。

割り込みレベルとDMAチャネル

割り込みレベルとDMAチャネルについて

パソコンで使用できる周辺機器は、すべて「リソース」というものを使用しています。リソースには、大きく分けて「割り込みレベル (IRQ)」「DMAチャネル」などがあります。

これらのリソースは、それぞれの機器ごとに違う設定をしなければなりません。1つのリソースが複数の機器に割り当てられている状態 (リソースの競合) では、機器が正常に使用できないばかりか、システム全体の動作も不安定になってしまいます。

割り込みレベル

「割り込みレベル (IRQ)」は、複数の機器から同時にCPUにアクセスしたときに、どのような順序で処理していくかを決めるものです。このパソコンでは、購入時には次のように割り当てられています。

IRQ	インターフェイス	IRQ	インターフェイス
0	システムタイマ	9	USBホストコントローラ※3
1	キーボード	10	アクセラレータ
2	割り込みコントローラ		サウンド
3	赤外線通信※1		CardBusコントローラ
	ワイヤレスモジュール※2		PCIステアリングホルダー
4	通信ポート	11	(空き)
5	内蔵FAXモデム	12	NXパッド
	CardBusコントローラ	13	数値データプロセッサ
	PCIステアリングホルダー	14	IDEコントローラ (内蔵ハードディスク)
6	フロッピーディスクコントローラ		IDEコントローラ (内蔵CD-ROM)
7	プリンタポート	15	(空き)
8	システムクロック		

※1: 赤外線通信機能使用時

※2: ワイヤレスインターネットモデルのみ。ワイヤレス通信機能使用時 (赤外線通信機能と同時に使用することはできません)

※3: ACPIモードのとき、ACPI用システム制御割り込み

DMA チャンネル

「DMAチャンネル」は、CPUを経由せずに周辺機器とメモリとのデータのやり取りを制御する機能のことです。このパソコンでは、購入時には次のように割り当てられています。

D M A	インターフェイス			
	デフォルト	プリンタポート をE C Pで使用する 場合(#1使用時)	プリンタポート をE C Pで使用する 場合(#0使用時)	更にI Rを使用 する場合
#0	(空)	(空)	E C P	E C P ※1
#1	(空)	E C P	(空)	I R ※2
#2	フロッピーディスクコントローラ			
#3	(空)	(空)	(空)	(空)
#4	DMAコントローラ			

※1: ECPが#1のときはI R

※2: I Rが#0のときはECP

アプリケーションを使用するときの注意

このパソコンにインストールされているアプリケーションを使うときは次のことに注意してください。

「サポートセンタ」を使うときには

「サポートセンタ」の項目の中には、クリックすると「ダイヤルアップの接続」ウィンドウが表示されるものがあります。これはインターネットへ接続しようとしていることを表します。インターネットへ接続すると、プロバイダへの接続料金や電話料金（どちらもお客様負担）がかかります。説明を見終わったら、必ず「回線切断」ボタンをクリックして、回線を切断してください。一度インターネットに接続すると、自分で回線を切断しない限り、「サポートセンタ」を終了するまで回線が接続されたままになり、接続料金や電話料金がかかり続けます。ご注意ください。

索 引

索引

英字

ACPIモード 72, 190
APMモード 72
ATOK13 14
BIOSセットアップメニュー 176
CD-ROMドライブ 3, 31
CD-RWドライブ 3, 31
CD制御ボタン 2, 36
CRTディスプレイ 126
CyberTrio-NX 172
CyberWarner-NX 173
DCコネクタ 3, 115, 148
DirectCD 44
DMA チャネル 223
Easy CD Creator 42
FAT16 25
FAT32 25
FAXモデム 89, 219
FDISK 22
【Fn】(エフエヌキー) 9, 11
Intellisync 82
MS-DOSプロンプト 195
MS-DOSモード 195
MS-IME 14
NXパッド 2, 15
NXパッドの設定 17
PCカード 130
PCカードイジェクトボタン 2, 132
PCカードスロット 2, 114, 130
RAM 134
USB 144
USBコネクタ 3, 115, 145
USBポート 144
Virtual CD 2 37
VirusScan 168
Windows NT 4.0 199

あ行

アクセスランプ 6
アプリケーションの再追加 157
アプリケーションの削除 151
アプリケーションの追加 150
インストーラ-NX 153, 157, 161
インターネット設定切替ツール 92
【インターネット】ボタン 2, 7
映像出力端子 2, 114, 128
液晶ディスプレイ 2, 48
オーディオ入力端子 2, 114
音量調節つまみ 2, 85

か行

解像度 49
外部CRT用コネクタ 3, 115, 127
外部ディスプレイ 126
外部マイクロホン端子 2, 114
拡張セットアップ 180
拡張用コネクタ 3, 115, 141
仮想CD-ROMドライブ 37
画面表示の調整 48
輝度 48
起動セクタへのウィルス感染防止 78, 179
起動デバイスセットアップ 184
キーボード 2, 9
キーボードの設定 12
キーボードロック 77
キャップスロックキーランプ 6
休止状態 62, 66
休止状態から復帰 68
休止状態の解除 68
休止状態の再設定 69
共有プリンタ 124
クリック 15
クリックボタン 15
ケーブル接続 83

コントロールパネル	iv
コンピュータウイルス	166

さ行

サウンド機能	85
サスペンド	63
サポートセンタ	224
システムファイル	172
システムファイルチェッカー	172
周辺機器	117
周辺機器セットアップ	185
省電力機能	62
省電力セットアップ	181
シリアルコネクタ	3, 115, 146
シリアルポート	146
スーパバイザパスワード	74
スキャンディスク	170
スクロールロックキーランプ	6
スタンバイ状態	62, 63
スタンバイ状態から復帰	65
スピーカ	2
スリープ状態	62
赤外線通信ポート	2, 81
赤外線通信機能	80
赤外線転送	83
赤外線モニタ	81
セキュリティ機能	73
セキュリティセットアップ	181
増設RAMボード	116, 134

た行

タップ	16
ダブルクリック	15
ダブルタップ	16
通風孔	2
ディスククリーンアップ	171
デバイスドライバ	120
デフラグ	170

テレビ	128
デュアルディスプレイ機能	52
テンキーボード	147
電源管理モード	72
電源スイッチ	2
電源ランプ	5
電話回線用モジュラーコネクタ	3
盗難防止用ロック	3, 79
ドライバ	120
ドラッグ	15, 16

な行

内蔵マイクロホン	2
日本語入力システム	13
ニューメリックロックキーランプ	6

は行

バーチャルスクリーン	51
ハードディスク	21, 170
ハイバネーション	66
パスワード	74
バックアップ	21, 173
バックアップ-NX	173
バッテリアンロック	4, 61
バッテリー残量	55
バッテリー充電ランプ	5, 55
バッテリーの充電	54
バッテリーパック	2, 4, 61
バッテリーパックの交換	59
バッテリーリフレッシュ	57, 187
パッド	15
パラレルコネクタ	3, 115, 121, 147
パラレルポート	147
パワーマネージメント	70
非常時ディスク取り出し穴	31, 36
ビーブ音の設定	88
表示言語セットアップ	187
表示色	49

表示ランプ 2, 3, 5
 標準セットアップ 178
 ファイル転送機能 80
 フォーマット(ハードディスク) 24
 フォーマット(フロッピーディスク) 30
 復帰 62, 65, 68
 プラグ&プレイ 120
 プリンタ 121
 プリンタケーブル 121
 プロジェクタ 128
 フロッピーディスクイジェクトボタン ... 28
 フロッピーディスクドライブ 3, 28
 フロッピーディスクアクセスランプ 6
 ヘッドホン／オーディオ出力端子 . 2, 114
 ポインティングデバイス 15
 ポイント 15
 ポインタ 15
 ホットキー機能 11
 ポート 140
 ポートバー 140
 ボリュームコントロール 85

ま行

マウス／テンキーボード用コネクタ . 3, 115, 147
 メモリ 134
 メモリ効果 57
 メモリスロット 4, 116, 135
 メール着信ランプ 6
 【メール】ボタン 2, 7
 メンテナンスウィザード 171
 モデム(内蔵) 89, 219
 モジュラーケーブル 89

や行

ユーザパスワード 74

ら行

リソースの競合 118

領域の確保 23
 レジューム 62
 ロックレバー(ポートバー) 142
 ロックレバー(本体) 2

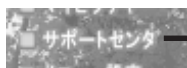
わ行

ワイヤレス通信機能 97, 221
 ワイヤレスフォン 106
 ワイヤレスモデムステーション 97
 割り込みレベル 222
 ワンタッチスタートボタン 7
 ワンタッチスタートボタンの設定 8

「サポートセンタ」を活用しよう

「サポートセンタ」は、添付アプリケーションの操作方法を知りたいときや、パソコンを使って困ったときなどに、どうしたらよいかを画面上で見ることができる電子マニュアルです。

1 デスクトップ上の「サポートセンタ」をクリックする



ここをクリックする

▼ サポートセンタのメインメニュー画面が表示されます。

2 見たい項目をクリックする



サポートセンタのメインメニュー画面

用語集

パソコン関連の用語を説明しています。

パソコンを使いこなそう

- **こんなことができます**
このパソコンに添付されているソフトの紹介です。



- **添付ソフトの使い方**
このパソコンに添付されているソフトの使いかたの説明です。



困ったときのQ&A

- **困ったときのQ&A**
トラブルの解決法をQ&A方式で説明します。
- **トラブルの予防**
トラブルを予防するソフトの使いかたを説明します。
- **アプリケーションの追加と削除**
各ソフトの追加と削除の方法を説明します。



サービス&サポート

- アプリケーションのサービス&サポート窓口
- NECのサービス&サポート窓口
- 98OFFICIAL PASSメンバーへの登録

- **練習!パソコンの基本**
このパソコンの使いかたを練習できるソフトを起動します。
- **マニュアルの利用法**
このパソコンに添付されているマニュアルを紹介します。
- **ハードウェア情報**
ハードウェアに関する情報を載せています。
- **ヘルプ**
「パソコンを使いこなそう」の使いかたを説明します。



もっと知りたいパソコン

このマニュアルはエコマーク認定の再生紙
(古紙率：表紙50%、本文100%)
を使用しています。



初版 2000年1月

NEC

P

808-875488-448-A

PC98-**NX** SERIES

LaVie

LW500J・LW450J・LW43H



* 8 0 8 8 7 5 4 8 8 4 4 8 A *